



第 2 章

法人報告
事業報告

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

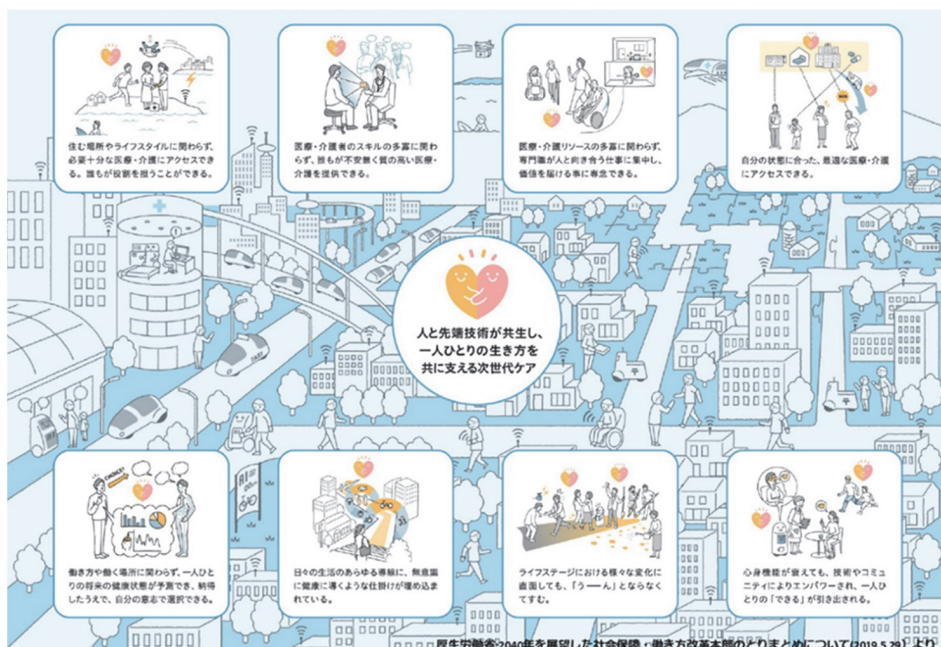
「築け 未来を！」

レジリエンス（困難から回復する力）を発揮せよ

2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で始まり、そのしたたかさに翻弄された1年であった。2021年度も、決してafterコロナではなく、withコロナの時代が続くと認識するべきだろう。そこでは、新しい生活様式（ニューノーマル）といえる密を避ける取り組みを続けなければならない。医療、介護、福祉では無理だと断ずることなく、非接触、リモート（オンライン）、バーチャルに挑戦せねばならない。それは取りも直さず、われわれが漠然と考えていた5年後、10年後の未来を、今、実現させることなのだ。

コロナを契機に、董仙会、徳充会のこれまでの知識と経験に裏打ちされた未来を築こうではないか。コロナ禍の困難から回復させるのは、われわれ自身なのだ。

先端技術が溶け込んだ2040年度の社会における健康・医療・介護のイメージ（厚生労働省資料）



TQM発表大会（董仙会）

前期 第22回 2021年10月19日、20日、21日 オンライン開催

大会1日目「増収、顧客・職員満足度100%」

部署	テーマ
本院 放射線課	新PET-CT装置のPR活動・業務改善等を行い、検査件数の増加を目指す
本院 医療秘書課・医事課	歯科医療機関連携加算①②・周術期口腔機能管理後手術加算の算定に向けて
1位 患寿金沢病院 地域連携課・情報管理課・けいじゅ金沢訪問看護ステーション・患寿訪問リハビリ事業所けいじゅ金沢	メール、タブレットを活用した地域連携
本院 看護部（血液浄化センター・本館5階東・本館5階西・本館6階東・本館6階西）	PX（患者経験価値）サーベイを患者中心の医療サービスにつなげる
本院 リハビリテーションセンター	訪問リハビリ利用者全員のリハビリテーション会議実施を目指して
本部 情報管理課	コロナに負けるな！ストレスのないネットワーク基盤を目指して！

大会2日目「健康経営、質の向上・データ分析、ルーチン業務の再評価」

部署	テーマ
本部 総務課・けいじゅ健康保険組合	健康診断の早期実施及び二次検診、保健指導の積極的干涉
本部 資財課	備蓄計画策定と備蓄倉庫の計画的運用
患寿みおや	もしもの時に
本院 臨床工学課	AED(自動体外式除細動器)集中監視システム活用による業務効率改善と働き方改革
1位 本院 医療福祉相談課・看護部	地域との情報連携（オンライン）方法の院内統一、仕組みづくり
ケアマネステーション患寿	新しい生活様式に合わせたケアマネ業務の見直し ～オンラインを活用したサービス担当者会議の開催～
本院 手術センター課・外来課	手術当日に入院される患者の動線をシンプルにする
本院 地域連携課	トークスクリプトの導入とその効果

大会3日目「新サービス創出、ブランディング」

部署	テーマ
本院 健康管理センター	健診結果の早期報告 ～カルテコ活用によるペーパーレス化の取り組み～
1位 いこい	iPadを活用した新サービスの創出 ～信頼と満足を得るために～
本部 生活未来課（めぐみ・ベンリー七尾店）	めぐみとベンリーの共同にて住宅改修の実績を作る
本院 医療安全管理センター・サービス課	来院前AI問診利用率を上げる～問診患者さんの30%を非接触の来院前問診にする～
本院 臨床検査課	持続血糖モニター（リブレリンク）におけるオンライン診療の構築
本院 管理課・看護師特定行為研修センター	看護師特定行為研修の区分別科目の追加、特定行為の拡大

後期 第23回 2022年3月9日、14日 オンライン開催

大会1日目「顧客満足度100%、健康経営、質の向上・データ分析」

部署	テーマ
患寿金沢病院 外来	糖尿病患者の足を守る取り組み ～フットケアスクリーニングを活用して～
けいじゅ一本杉	利用者が活躍できる居場所作り
1位 介護医療院 患寿鳩ヶ丘	介護医療院 患寿鳩ヶ丘におけるアドバンス・ケア・プランニングの取り組み
患寿金沢病院 管理課・人間ドックセンター	職員のヘルスケア意識を高める ～人生100年時代を見据えて～
本部 総務部 総務課 車両係	安心・安全と質の向上を目指した送迎業務を行う
本院 3病棟2階 臨床栄養課	家族（妊婦 産婦）が受けたいサービス 分娩数を増やす取り組み

大会2日目「新サービス創出、ルーチン業務の再評価」

部署	テーマ
介護老人保健施設 鶴友苑	地域に根ざした介護相談窓口への取り組み
1位 本院 看護部（本館4階東:HCU・本館4階西:ハートセンター）・リハビリテーションセンター	超急性期患者に早期リハビリ介入への取り組み
本院 臨床栄養課	訪問栄養指導の実施
介護老人保健施設 和光苑	地域に頼りにされる施設を目指し ～和光苑なんでも相談室を開設～
在宅複合施設ほのぼの	団塊の世代に対応したレクの創出 ～iPadを活用して～
患寿金沢病院 2階病棟	自家末梢血幹細胞採取を安全に行うために ～前処置の統一化に向けて～

大会3日目「ルーチン業務の再評価、人材・後継者育成」

部署	テーマ
本院 薬剤課	保険調剤薬局との連携を強化せよ！ -退院時薬剤情報連携加算の算定件数アップを目指して-
本部 企画部 企画課	Teamsを使用した業務効率化
1位 本院 看護部（訪問看護・外来・入院支援看護師）医療秘書課・医事課	オンライン診療の実現に向けて
本院 内視鏡課	全大腸内視鏡検査の前処置を自宅で整える ～ショートメッセージサービス（SMS）を利用して～
本部 財務部 経理課	業務スキルラダーの構築と運用・検証
本院 看護部（5病棟3階・5病棟4階・5病棟5階・3病棟3階）・認知症対策プロジェクト委員会	幸せ・笑顔があふれる病棟作り ～ユマニチュードケアの導入して～

事例研究大会（徳充会）

大会テーマ：築け、未来を！～レジリエンス（困難から回復する力）を発揮せよ～

所属	発表者	テーマ
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	碓井 求	コロナ禍における新しいサービスの創造 ～人との交流の大切さ～
青山彩光苑ワークセンター田鶴浜	法橋 有佳里	進化・変化していく新しいワーク配送センター ～能力を活かせる場所へ～
石川県精育園	加藤 大輔・高島 直人 板谷 哲夫・佐藤 禎記・表 晃一	異食から学んだ関わり方 ～困っているサインを察知して～
自立ホームけいじゅ	下出 卓哉	地域におけるヘルパー事業所の役割
本部事務局	龍澤 徳樹	業務の効率化と健全化 –突発的な業務への対応–
青山彩光苑ライフサポートセンター	船塚 結衣	QOLの向上に向けて ～小さな気づきから始まった大きな変化～
青山彩光苑リハビリテーションセンター	庵 光世	活動の場を広げよう ～興味・関心チェックシートを活用して～
さいこうえんの障害者生活支援センター	山本 愛	就業準備支援の取り組み ～地域活動支援センターを利用して～
エレガントなぎの浦	中田 智美・中江田 綾子	コロナ禍でも知識習得 動画を用いた専門技術の向上
ふれあいの里	竹中 彩乃・刀祢 千恵	カラオケ大会実現に向けて ～Withコロナで出来ること～
エレガントたつるはま	川口 厚	Withコロナ！利用者や家族や地域を繋ぐ ～地域密着型施設の特色の再構築～
ローレルハイツ恵寿	久保 由美子・日光 静香	「最後は夫婦で過ごしたい。」～多種職が一つに！～

新聞掲載（董仙会）

日付	内容	掲載媒体
2021.4.2	恵寿病院の神野理事長に大臣表彰 地域医療発展に貢献	北國新聞
2021.4.2	コロナ対策へ一丸 各市町村など年度初め、辞令交付（本院）	北國新聞
2021.4.2	骨髄腫センター新設（金沢）	北國新聞
2021.4.7	高齢者複合施設で火災の避難訓練 七尾（ローレル）	北國新聞
2021.4.9	病院食に台湾パン 七尾・董仙会 中国禁輸で応援 / 台湾産パン 食べて恩返し	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.4.14	病院給食のロス考える オンライン 七尾・董仙会とシダックス	北陸中日新聞
2021.4.15	感染拡大でイルミ 週末限定点灯延長（ローレル）	北陸中日新聞
2021.4.16	石川テレビ賞受賞	北陸中日新聞
2021.4.17	食品ロス削減へ 給食の献立検討 けいじゅヘルスケア	北國新聞
2021.5.1	イルミ設置 青柏祭盛り上げ / 「でか山」イルミ 希望の光（ローレル）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.5.7	七尾・恵寿総合病院 看護師1人感染 / 【新型コロナ】恵寿総合病院の看護師も	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.5.11	ワクチン予約 スマホで確認 七尾・恵寿総合病院	北國新聞
2021.5.12	5種類の制服リニューアル / 新制服は感染対策やエコ重視 金沢・ヤギコーポレーション製	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.5.17	能登の医療「崩壊近い」 七尾 恵寿総合病院・山崎内科長が訴え	北國新聞
2021.5.17	中能登の福祉施設職員1人が感染 / 【新型コロナ】中能登町の介護職員も（いこい）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.5.18	福島さんら4人が喜び 石川テレビ賞の贈呈式（神野理事長）	北陸中日新聞
2021.5.26	七尾で個別接種開始 恵寿総合病院の48人	北國新聞
2021.6.1	恵寿総合病院に激励の弁当 七尾「粋な屋敷本」 / 医療者をお弁当で支援	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.6.3	ベビードレス新調 七尾・恵寿総合病院	北國新聞
2021.6.13	新ベビードレス 着替えてご機嫌 恵寿総合病院 肌着と一体化	北陸中日新聞
2021.6.22	七尾の医療法人 定年制度廃止	北陸中日新聞
2021.6.24	石川の社会医療法人、定年廃止	日本経済新聞
2021.7.7	レクリエーション次世代機器を導入 七尾・董仙会（和光苑）	北國新聞
2021.7.19	董仙会にヒートポンプ普及貢献賞 七尾で感謝状贈呈式（和光苑）	北國新聞
2021.7.22	省エネ給湯設備導入 七尾市の董仙会に賞 東京の蓄熱センター（和光苑）	北陸中日新聞
2021.7.27	社会医療法人「董仙会」が定年撤廃 人材不足 道開けるか	北陸中日新聞
2021.8.3	ワクチンで抗体 獲得の有無検査 恵寿総合病院あすから	北陸中日新聞
2021.8.20	羽咋高生に医療業務紹介 恵寿総合病院 オンラインセミナー	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.8.27	カルテ閲覧サービスに接種証明 七尾・恵寿総合病院	北國新聞
2021.9.2	恵寿総合病院の看護師1人感染 / 【新型コロナ】恵寿総合病院で1人	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.9.3	正しい感染対策 動画で 七尾JCなど配信 地元事業者向け、専門医が助言	北陸中日新聞
2021.9.7	創立87年祝いライトアップ けいじゅヘルスケア（ローレル）	北國新聞
2021.9.8	県内コロナ新たに25人 / 【新型コロナ】恵寿総合病院で2人感染	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.9.8	創立87周年を光で彩る 七尾「ローレルハイツ恵寿」前庭	北陸中日新聞
2021.9.22	フレイル専門のドック 恵寿総合病院 65歳以上対象 来月から	日本経済新聞
2021.10.3	七尾・恵寿病院4人 / 看護師3人と患者感染 七尾・恵寿総合病院	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.10.5	看護師1人感染で恵寿病院が外来休止 / 【新型コロナ】恵寿総合病院の看護師	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.10.6	恵寿病院でクラスター 県内111例目 / 恵寿病院 クラスター 七尾	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.10.11	11日から通常診療 七尾・恵寿総合病院 / 七尾・恵寿総合病院 11日から通常診療	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.10.14	県のフェスタ中止で介護職員が技競う 七尾の董仙会	北國新聞
2021.10.14	看護師特定行為センターが修了式 七尾・恵寿総合病院	北國新聞
2021.10.27	健康増進表彰 15氏たたえる 県庁で式	北國新聞

日付	内容	掲載媒体
2021.11.6	特定行為看護師 新たに5人 恵寿病院で研修修了式	北陸中日新聞
2021.11.11	介護技術 職員が競う 七尾 董仙会「グランプリ」開く	北陸中日新聞
2021.11.22	決勝は田鶴浜×恵寿病院 七尾で北陸中日杯軟式野球	北陸中日新聞
2021.11.23	看護師などの仕事 門前高生15人学ぶ 七尾・董仙会	北國新聞
2021.11.26	接遇の心構え学ぶ 七尾・董仙会	北國新聞
2021.11.28	医療・介護業務のデジタル化を紹介 七尾・恵寿総合病院	北國新聞
2021.12.1	オンラインで内定者案内 (董仙会)	北國新聞
2021.12.2	コロナ収束願う光 あすからイベント	北國新聞
2021.12.4	コロナ収束願う光 七尾の高齢者施設 / 未来への願い光に 七尾・ローレルハイツで	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.12.8	百歳 津田浩さん / 津田さん100歳家族らが祝う (和光苑)	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.12.24	七尾・恵寿総合病院 オンラインで交流会	北國新聞
2021.12.25	検診と教室で「フレイル」予防 七尾・恵寿総合病院	北國新聞
2022.1.5	新年の飛躍誓う 能登各地で互礼会 / 「福祉専門職 誇り持ち研さん」成人式	北國新聞 / 北陸中日新聞
2022.1.20	受付板にスピーカー 七尾・恵寿総合病院	北國新聞
2022.1.24	医療データ マイ管理時代 24年度からマイナポータルで閲覧可	京都新聞
2022.1.24	電子カルテスマホで確認 複数病院が共有 体調管理にも活用	北海道新聞
2022.1.25	自分でスマホで健康管理 恵寿総合病院 (七尾) など導入	北國新聞
2022.1.26	電子カルテ スマホで確認	山陰中央新報
2022.1.28	介護見守りセンサー導入 / スマホ通知 素早く対応 見守りシステム (和光苑)	北國新聞 / 北陸中日新聞
2022.2.9	病児保育室受け入れ コロナ禍で一時停止 七尾の恵寿総合病院	北陸中日新聞
2022.2.11	病児保育室受け入れ停止	北國新聞
2022.2.27	恵寿金沢病院で11人 / 恵寿金沢病院で15人クラスター	北國新聞 / 北陸中日新聞
2022.3.10	健康経営優良法人 石川172、富山97団体 (董仙会)	北國新聞
2022.3.17	健康優良法人 5年連続で認定 七尾・董仙会	北國新聞
2022.3.18	研修医4人決意新た 恵寿総合病院で修了式	北國新聞
2022.3.23	恵寿病院 避難施設に 七尾 4 町会と協定	北國新聞 / 北陸中日新聞
2022.3.25	臨床研修の成果 次は現場で発揮 恵寿総合病院で修了式	北陸中日新聞
2022.3.30	歩行向上で表彰 / 足元から健康維持 優秀な高齢者表彰 七尾などの11施設参加	北國新聞 / 北陸中日新聞
2022.3.31	新規職員コロナ対応学ぶ (董仙会)	北國新聞

新聞掲載（徳充会）

日付	内容	掲載媒体
2021.4.7	高齢者複合施設で火災の避難訓練（ローレル）	北國新聞
2021.4.14	映像と音で脳トレ/北陸初導入 体験楽しむ 英の最新映像投影レクリ機器（ローレル）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.4.15	感染拡大でイルミ 週末限定点灯延長（ローレル）	北陸中日新聞
2021.5.1	イルミ設置 青柏祭盛り上げ / 「でか山」イルミ 希望の光（ローレル）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.5.8	ツツジ105本植え/輪島道路工事連絡会（精育園）	北國新聞
2021.5.12	障害者施設職員らの感染発表 / 障害者施設で1人感染（穴水ライフ）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.5.15	七尾の障害者施設職員も（青山ライフ）	北陸中日新聞
2021.6.11	励ましの花航空石川に / プランター贈る（精育園）	北陸中日新聞
2021.5.24	穴水の障害者施設入所者1人が感染（穴水ライフ）	北國新聞
2021.6.26	84歳理容師 現役へ復帰 / 理容師復帰 磨いた腕ふるう（ローレル）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.8.17	宿泊体験受け付け（ローレル）	北陸中日新聞
2021.8.20	田鶴浜高生は介護の仕事学ぶ / 遠隔の学び「現場実習」（ローレル）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.9.7	創立87年祝いライトアップ（ローレル）	北國新聞
2021.9.8	創立87周年を光で彩る 七尾「ローレルハイツ恵寿」前庭（ローレル）	北陸中日新聞
2021.9.29	「万歩計でGo To」施設利用者 楽しく競う（ふれあいの里）	北陸中日新聞
2021.10.3	介護士1人も感染 / 【新型コロナ】七尾の高齢施設職員1人（エレガント）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.11.5	大松さん40万3000歩ゴール 七尾の施設「万歩計Go To」（ふれあいの里）	北陸中日新聞
2021.11.11	七尾の川端さん 100歳おめでとう 入居施設で祝う会（ローレル）	北陸中日新聞
2021.11.13	和太鼓の体験など 園祭で工夫凝らす 穴水・県精育園（精育園）	北陸中日新聞
2021.12.2	コロナ収束願う光 あすからイベント（ローレル）	北國新聞
2021.12.3	精育園で暮らす端谷さんデジタル画展（精育園）	北陸中日新聞
2021.12.4	コロナ収束願う光 / 未来への願い光に（ローレル）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.12.10	障害 理解深める 七尾の児童 支援施設利用者と交流（青山彩光苑）	北陸中日新聞
2021.12.23	青山彩光苑の増築工事完了 七尾の障害者施設（青山ライフ）	北國新聞
2021.12.29	30人分の個室増 増築工事が完了 七尾の「青山彩光苑」（青山ライフ）	北陸中日新聞
2022.1.20	穴水町の施設職員感染（穴水ライフ）	北國新聞 / 北陸中日新聞
2022.3.2	【新型コロナ】七尾市のデイサービスセンター「もみの木苑」	北陸中日新聞
2022.3.3	【新型コロナ】七尾市のデイサービスセンター「もみの木苑」	北陸中日新聞
2022.3.30	歩行向上で表彰 / 足元から健康維持 優秀な高齢者表彰 七尾などの11施設参加	北國新聞 / 北陸中日新聞

来訪者一覧（董仙会）

日付	見学者	見学内容
2021.8.19	石川県立羽咋高等学校 31名（オンライン）	医療職の紹介
2021.8.20	石川県立七尾高等学校 24名（オンライン）	医療職の紹介
2021.11.22	石川県立門前高等学校 15名（オンライン）	医療・介護職の紹介
2021.11.26	社会医療法人河北医療財団 河北総合病院副理事長他3名	給食システム
2021.11.27	DX塾 参加26病院 43名	DXに関する取り組み
2022.1.14	ベトナム・ダナン大学 80名（オンライン）	業務内容・病院設備の紹介
2022.2.22	愛生会 小林記念病院 理事長他4名（オンライン）	地域連携・コールセンター業務について

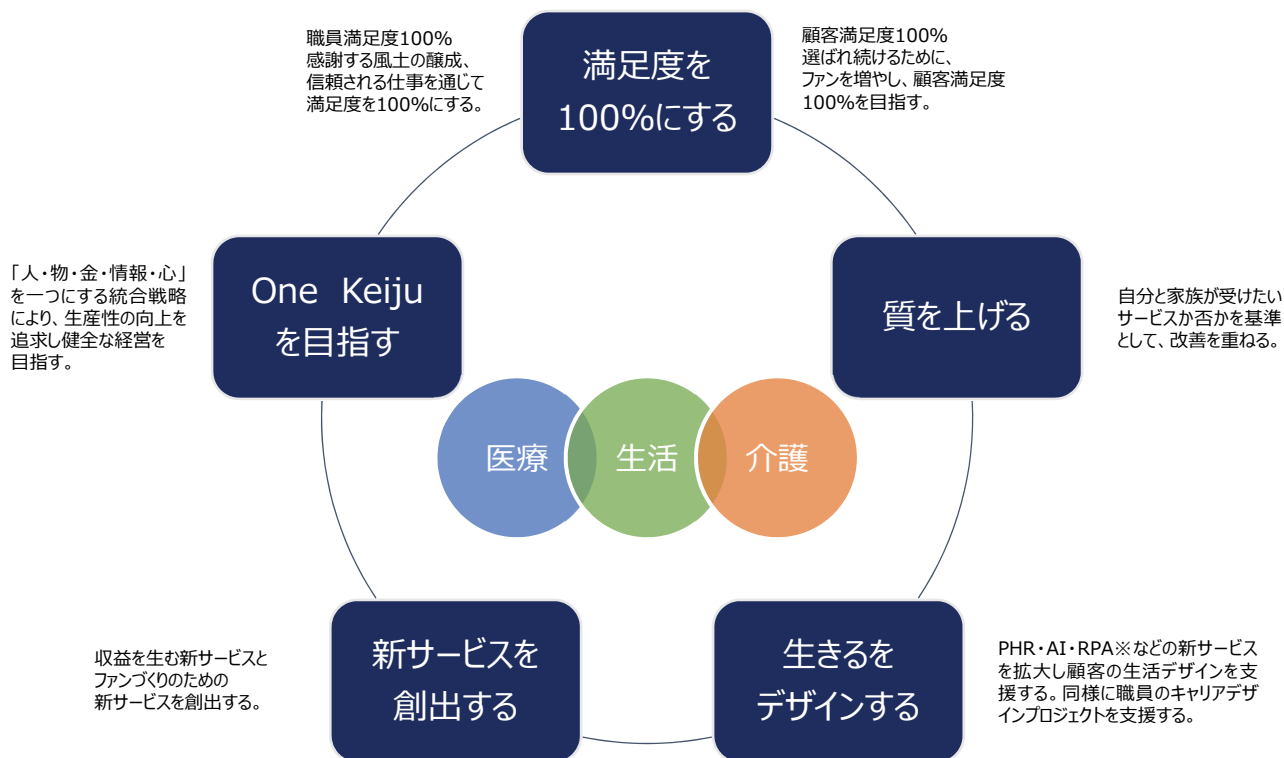
■ 継続的基本方針

□ 継続的基本方針を達成するための基本戦略

2021-2023中期計画の基本戦略は、従前の戦略を受け継ぎ、更なる成熟を目指し、下記の5施策とする。

- 満足度を100%にする
- One Keijuを目指す
- 新サービスを創出する
- 生きるをデザインする
- 質を上げる

董仙会の職員は、前向きで努力を忘れない資質に恵まれ、真面目である。その資質を活かし、地域と仲間にファンを作ることは、難しいことではない。自分と家族が受けたいサービスか否かを基準として、常に自分の仕事を見直し、昨日より良いサービスを作り続けよう。その時、感謝する風土を醸成し、心温かな職場にしよう。また、ITリテラシーの高さは、非常に自信を持っていただきたい。新サービス創出に向けて、ITリテラシーの高さを武器に、発想の転換を図り工夫を重ねていただきたい。生産性の向上を主眼とし、IT・PHR・AI・RPAなどを積極的に利用し、自分たちが利用したい未来を築いていこう！答えは、自らの心の中にある。



※ PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質（QOL）維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会ではMDV社の「カルテコ」を導入。

■ 継続的基本方針を実現するためのSWOT分析

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら3か年で目指す将来像に到達することを目標とする。

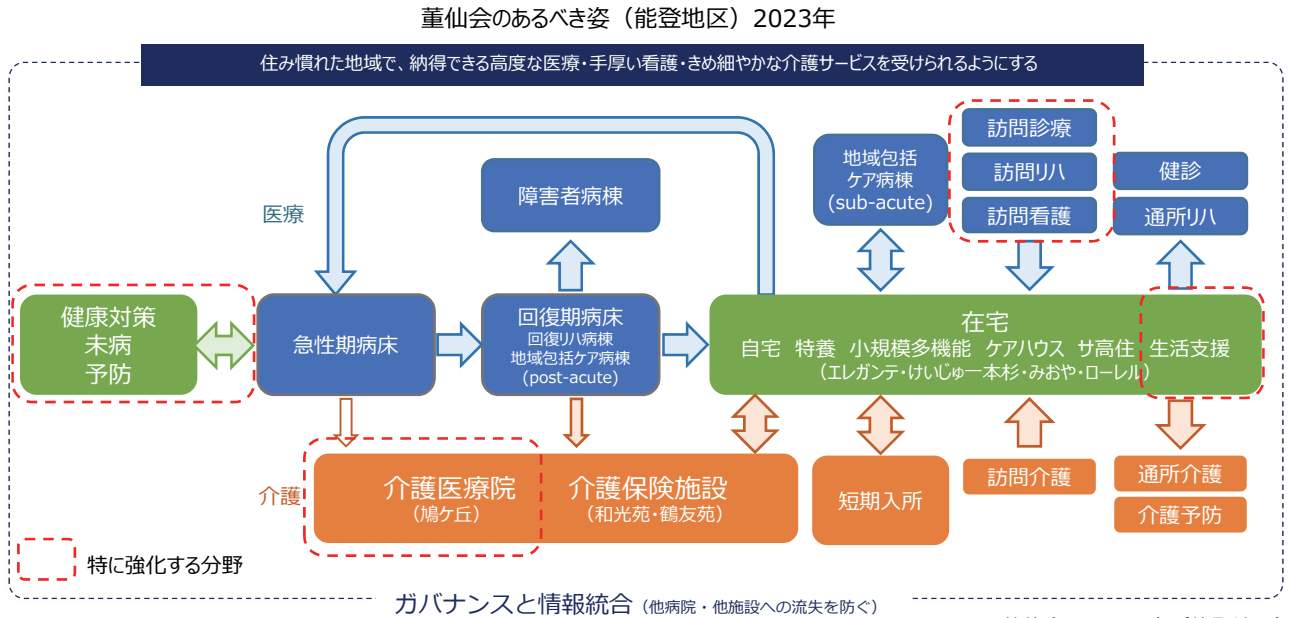


■ 継続的基本方針を実現するための董仙会のあるべき姿

□ 能登地区方針

[図5]董仙会のあるべき姿の中では、鳩ヶ丘が介護医療院となり、地域ニーズに対応して訪問看護ステーションを設置した。健康対策として未病・予防へ注力することが未来を創る戦略となる。これまで医療療養型施設がなかったため、医療ニーズの高い患者は、他院（浜野西、富来、加藤、北村病院）に転院していた。しかし、これらの病院も介護医療院に転換したため、鳩ヶ丘の果たすべき役割は、重要となった。生活支援事業における新サービスを充実させ、地域の信頼を得ることが肝要である。

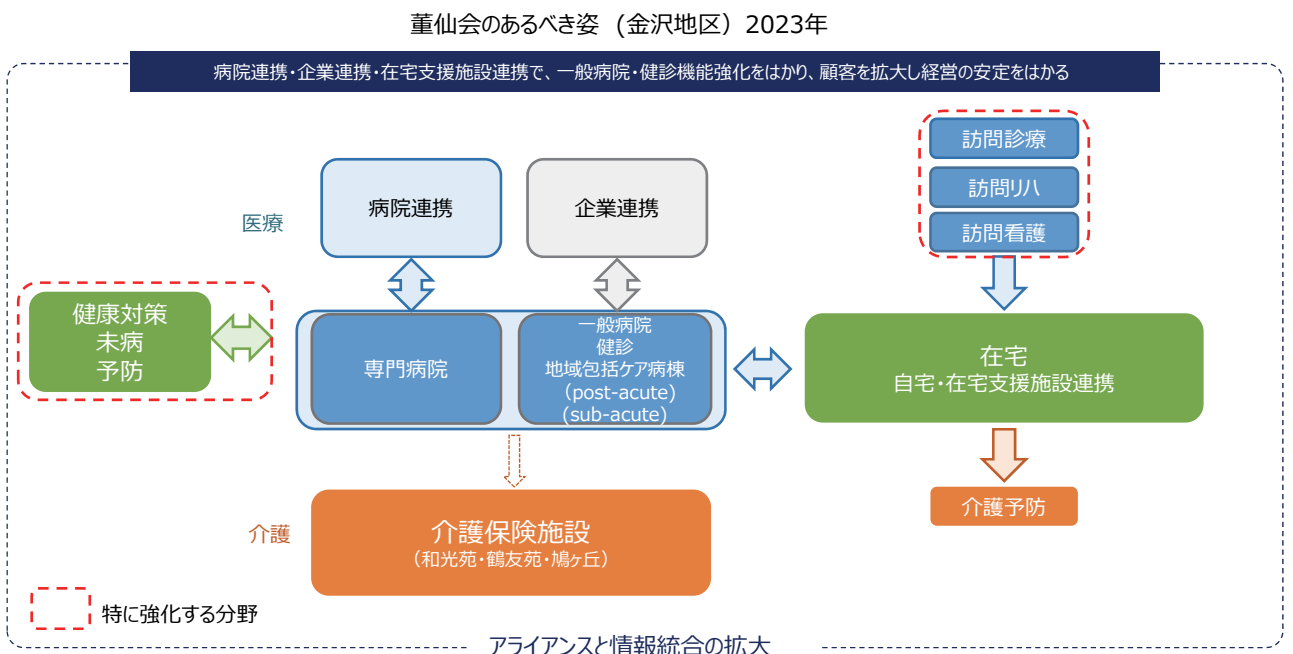
■ 医療 ■ 介護 ■ 生活



[図5]董仙会のあるべき姿（能登地区）

□ 金沢地区方針

[図6]董仙会のあるべき姿の中では、訪問事業の充実を図る事が大切である。また協力連携する介護施設を明確にし、介護を必要とする高齢者患者にも対応していかなければならない。NTT関係会社の健康を預かる病院として、未病・予防などの健康対策に注力されたい。新金沢病院（89床）における+aの目的を明確にし、経営改善と新病院構想を同時に行い、新築移転に備える事が必須である。



[図6]董仙会のあるべき姿（金沢地区）

■ 継続的基本方針を実現するための戦略目標（成功のストーリー）



KGI（重要業績達成指標）は、医業収入151億円とする。

2023年度までに継続的基本方針を達成するための5施策に対する具体的な戦略目標例を示す。

- 満足度を100%にする
- One Keijuを目指す
- 新サービスを創出する
- 生きるをデザインする
- 質を上げる

■ 満足度を100%にする

「介護で働くなら恵寿」、「医療で働くなら恵寿」を完成する

【学習と成長の視点】 外国人実習生の受け入れについて学ぶ。腰痛予防のためのノーリフティング対策を学ぶ。

生涯賃金増となる就業規則を学ぶ。健康経営について学ぶ。

【業務の視点】 「ありがとう」「助かりました」感謝を表す風土を醸成しよう。

元気な挨拶「おはようございます」「こんにちわ」で温かな職場を創る。

【顧客の視点】 仲間・顧客の役に立つというやりがい感を創出する。

【財務の視点】 素晴らしい仲間が増え、業務に余裕が生まれ、顧客へのサービスがよりよくなり、評判となる。

職場の雰囲気良さが恵寿ブランドとして定着する。

■ One Keijuを目指す

人・物・金・情報・心の統合で新金沢病院着工へ

【学習と成長の視点】 各事業、部門の採算性を学ぶ。新金沢病院の構想(サ高住、回復期リハ、緩和ケア)を練る。

【業務の視点】 各事業、部門の統廃合を実施する。新金沢病院基本計画の策定。

【顧客の視点】 新金沢病院基本計画にて、職員のモチベーションを上げる。

【財務の視点】 One Keijuとして収益に貢献する。

人・物・金・情報・心の統合で稼働率を上げる

【学習と成長の視点】 介護施設受入の際、ボトルネックとして、能登総合病院かかりつけ医問題がある。

けいじゅヘルスケアシステムの切れ目のないサービス提供において、支障をきたすことが多々あるため、このような場合、患者・家族に対し、積極的にかかりつけ医変更依頼を行う。

二人主治医性についての説明のしかたを学ぶ。

【業務の視点】 能登総合病院からの新しい形の紹介を実施。病院・介護施設で介護相談外来を展開する。

【顧客の視点】 けいじゅヘルスケアシステムのサービスに満足していただくため、顧客の願いを汲み取る。

顧客の多様性を知り、新しいサービスを恐れず創り出す。

【財務の視点】 One keijuとして、稼働率を上げる。

■ 新サービスを創出する

董仙会のあるべき姿の定着を目指す（ITリテラシーの強みを活かす）

【学習と成長の視点】 ITの強みを最大限に生かせる学習の実施

【業務の視点】 オンライン診療やサテライト外来を構築する。遠隔による診療支援も導入する。AI問診を金沢病院、各クリニックにも導入する。金沢病院にもPHR（カルテコ）を導入する。

【顧客の視点】 医療関係者、患者側の満足度を上げ、稼働率改善につなげる。

【財務の視点】 稼働率改善により、収入増となる。

新しい働き方で生産性を上げる（ITリテラシーの強みを活かす）

【学習と成長の視点】 事務・看護業務の作業分解を学習し、RPAに業務を移行する。その過程と効果を学ぶ。
介護ロボットの可能性を正しく理解する。

【業務の視点】 RPA、介護ロボットなど文明の利器を活用し、働き方改革を行い、生産性を上げる。

【顧客の視点】 RPA、介護ロボットによる業務代替による負担軽減を目指す。

【財務の視点】 生産性管理の実施。生産性改善により、支出減となる。

■ 生きるをデザインする

生きるためのトータルコーディネーターとなる

1.病後のトータルコーディネート 2.生きるをデザインする 3.未病 4.予防 5.生活支援

【学習と成長の視点】 未来の健康についてアイデアを出し続ける。

【業務の視点】 強みのIT・PHRを活用し、顧客参加の仕組みを作る。

【顧客の視点】 病前病後のトータルコーディネートは、漏れなくダブリなくできているかを確認する。

【財務の視点】 生活・健康・介護・病気 人生の不安を任せられる企業として大きな信頼を得て、顧客増となる。

キャリアデザインを展開し、各部署に3級リーダーを配属する

【学習と成長の視点】 資格要件・業務リーダーの連動について学ぶ。

仕事や役職が自らを育てる事を学ぶ。

【業務の視点】 董仙会の未来を築く3級リーダーを育てる。

【顧客の視点】 やりがい感を醸成する。

【財務の視点】 人材確保により、安定経営が可能。

■ 質を上げる

老朽化施設の改修によるハードの質、専門性・安心・安全のサービスの質、レジリエンスを発揮する経営の質向上

【学習と成長の視点】 自分と家族が受けたいサービスか否かを基準として、上質とは何かを学ぶ。

質が向上するためにはどうすれば良いかを探し出す。どのようにすれば上質にたどり着くのかを考える。

【業務の視点】 業務の質を上げる。

人間の質（人間力）を上げる。

【顧客の視点】 顧客・仲間が心地よさを感じるよう努力を惜しまない。

【財務の視点】 入院・入所・入職希望者が増え、董仙会がさらに成長する。

董仙会本部 事務管理統括部門

董仙会本部

- 常務理事 ■ 理事長補佐 ■ 本部長
 神野 厚美 神野 正隆 進藤 浩美

■ 2021年度のトピックス

「築け 未来を!」取り組みを下記に示す。

担当	実施内容
本部	トークン、メール、Teams使用し、在宅勤務を施行 オンライン会議、イベント環境構築 RPA導入（35ロボット稼働）
タスクフォース	データ経営、人材確保（外国人、アシストクルー準備） 介護ロボット導入、恵寿金沢病院構想
財務	経理課、資財課ソフトをクラウド化 インボイス制度、電子帳簿保存法に対応
総務	定年制を廃止、セカンドステージ正職員誕生 労働基準監督署から本院、金沢病院、宿日直許可 年末調整をオンラインで開始
企画	DX活用体験型見学会主導 厚労省・観光庁補助金事業「地域の医療の充実を通じた外国人受入れ推進のための体制構築支援事業」実施
情報	仮想システムサーバー再構築 オンライン資格確認システム導入 電子カルテサブシステム、被ばく線量・感染管理導入
生活未来	メールによる施設管理申請開始 職員宿舎管理チェックリストにて管理開始

■ 事業報告

- ① 新型コロナ対応として、在宅勤務を施行した。オンライン環境を構築し、オンライン用PCを各部署配布し、パソコンを200台入れ替えた。
- ② 総務部、財務部業務のクラウド化を進め、職員の年末調整もクラウドで可能なことを検証した。
- ③ データ経営を本格始動させ、収益改善が必要部署（金沢病院、ほのぼの、ベンリー）について定期ミーティングを実施した。
- ④ 健康経営に関する新たな取り組み（健康経営改善マップ作成、特定保健指導のオンライン化、55歳以上の骨密度測定など）を行い、健康経営優良法人ホワイト500を5年連続認定した。
- ⑤ 人生100年プロジェクト、定年制廃止、全世代型給与規程等を導入し、セカンドステージ正職員が誕生した。
- ⑥ オンライン面接、リクルートアプリなどを使用し新卒者67名を確保できた。また、業務を分解し明確にして、アシストクルーを始動した。外国人についても新たに、ベトナム・ダナン大学の看護学生の検討を開始した。
- ⑦ 生産性を上げるため、RPAを積極稼働させ、認知症対応として、介護の見守りロボットを導入した。

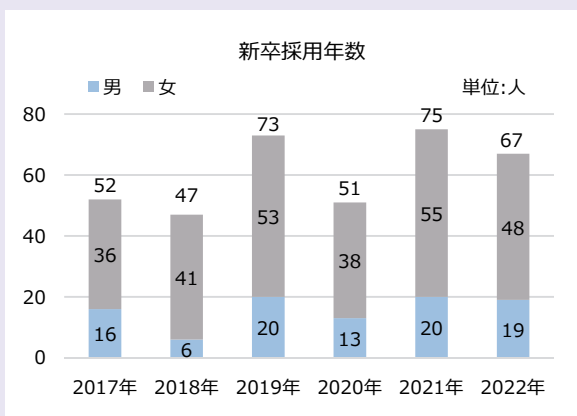
総務部

■部長

松田 久良

■2021年度のトピックス

2022年新卒の採用実績が67名と昨年より減少したものの、コロナ禍にも関わらず、オンライン面接やリクルートアプリなどの非接触ツールを有効に活用した結果、例年並みの採用人数を確保することができた。



■事業報告

- ① 全世代にやさしい人生100年時代プロジェクトを推進し、7月に労使合意の下、昨年来検討していた定年制廃止を実現した。また、それにとまなう就業規則、給与規程、退職金支給規程について改正を行った。
- ② 医師の働き方改革のため、時間外勤務等の実態把握を進め、恵寿総合病院と恵寿金沢病院それぞれで労働基準監督署から宿日直許可を受けた。
- ③ 生産性向上の観点から、非常勤医師の勤務集計を紙ベースからデータベースに移行し、VBAにより自動で取り込めるような仕組みを作り、運用した。
- ④ 総務独自のエクセルアドインを作成し、業務の効率化に努めた。
- ⑤ オンラインによる年末調整システムを導入し、職員の利便性の向上と総務課の負担軽減を果たした。
- ⑥ トークンを使用して、在宅勤務の仕組みを構築した。

財務部

■部長

安井 智美

■2021年度のトピックス

医薬品SPDの委託先を変更
スケジュールは下記の通り

期間	内容
12月	作業項目抽出（資財課・委託先） ガントチャート作成（委託先）
1月	SPD業務の現状把握（薬剤課・看護部・委託先） 請求業務の現状把握（委託先） 帳票類の現状把握（資財課・委託先）
2月	各種マスタの検討（資財課・委託先）
3月	各種マスタの設定（委託先） 体制移行（薬剤課・資財課・委託先）

■事業報告

- ① 医薬品SPDの契約期間満了に伴い、3社に提案いただき、委託先を変更した。移行作業を通じて各部署の業務の5Sと移行マニュアル作成に繋がった。
- ② スクラブの更新に合わせて事務職にもスクラブを導入した。看護師は日勤と夜勤でスクラブの色を変え勤務時間帯を明確にする事で時間外業務削減にも繋がると考える。
- ③ 定年制廃止を伴う退職金規程の変更により、退職金計算処理の見直しや制度変更に伴う退職一時金の管理、退職給付引当金処理の変更などが発生した。
- ④ 財務部BCPの観点から経理課と資財課の業務ソフトをクラウド化した。これにより、分散勤務・在宅勤務にもスムーズに対応する事が出来るが、次のステップとして紙の証憑をデータ化する課題に早急に取り組む必要がある。
- ⑤ 業務スキルラダーの整備と資格要件の評価基準作成に取り組んだ。これらを明確にする事で、スタッフが自分の立ち位置を認識し、次のステップを意識し、自ら考え行動する事で成長に繋がると考える。
- ⑥ インボイス制度や電子帳簿保存法の対応と人材育成を目的に、財務部内横ぐしプロジェクトを実施した。チームで課題に取り組む事を通じて、自ら考え行動する力やコミュニケーション能力の向上に繋がってきたい。

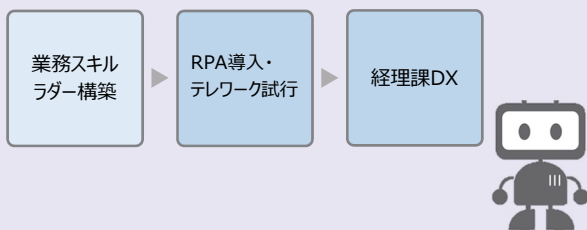
財務部 経理課

■課長

河合 隆志

■2021年度のトピックス

業務スキルラダーver1構築・経理課DXの推進



■事業報告

- ① 経理課DXとして、RPA1業務稼働し、2業務作成中である。また、在宅勤務体制を構築した。
- ③ 財務部内横ぐしプロジェクト（インボイス制度・材料費分析）遂行。
- ④ インボイス制度開始に向けて、適格請求書発行事業者登録完了。
- ⑤ 経理業務ソフトのクラウド化を遂行。

財務部 資財課

■課長

池岡 一彦

■2021年度のトピックス

スクラブをリニューアルした。

- ① 役職・資格取得により袖に鳩マーク
- ② 事務職のスクラブを導入
- ③ 本院看護師は、日勤・夜勤用で分ける2色制を導入



鳩マーク数	役職
3個	理事長、理事長補佐、病院長、副院長、部長
2個	副部長、科長、センター長、副センター長、医長、課長、師長、事務長
1個	課長代理、師長代理、係長、係長代理、資格取得者
無印	その他

■事業報告

- ① スクラブをリニューアルし、廃棄スクラブはSDGsの視点で燃料にした。
- ② 契約の見直し：本院・金沢病院の薬剤SPD企業、金沢病院のごみ回収企業を変更した。
- ③ BCP：PPEの適正在庫数と管理方法を策定した。
- ④ BCP：資財課業務ソフトをクラウドへ移行した。
- ⑤ インボイス申請：財務部横ぐしプロジェクトにて実施した。

企画部

■常務理事

神野 厚美

■部長

進藤 浩美

■2021年度のトピックス

広報誌「患寿」を年4回発行し、患者・利用者・職員・地域の方に向けて、董仙会の新しい機器・サービスについて情報発信を行った。広報誌制作においては、Microsoft Teamsの共同編集機能を用いて業務効率化に取り組み、テレワーク体制を構築した。

発行月	特集内容
4月	新PET-CT導入、本院健診センター・患寿金沢病院人間ドックセンター紹介
5月	制服リニューアル、新任医師・新入職員紹介
10月	けいじゅフレイルドックスタート フレイル予防について
1月	お産を支えるスペシャリスト 産科病棟の新サービス

■事業報告

- ① 2020年度の業績集を作成し、6月中旬に配布した。
- ② 地元の高校生に向けて、医療・介護の魅力を紹介するイベント「医療へのいざない」をオンラインで開催した。3つの高校から合計76名の参加があった。
- ③ 大腸カメラ検査説明動画やカルテコ紹介動画、ミキサー粥のレシピ作り方動画など、地域の方々への案内や健康創出のための動画を作成し、YouTubeで公開した。
- ④ マスコミ向けのプレスリリースを年間で59回行い、新聞掲載やテレビ放映を通じて、董仙会のPRに繋げた。
- ⑤ 国際医療福祉大学 高橋泰教授が主催する「DX塾」において、DX活用の先進事例として紹介され、患寿総合病院で体験型の病院見学会を開催した。全国の病院関係者43名の参加があり、仮想システムやリモートアクセス、AI問診など、現場で体験を交えて紹介した。
- ⑥ 厚労省・観光庁の補助金事業「地域の医療の充実を通じた外国人受入れ推進のための体制構築支援事業」に採択され、JTB金沢支店を中心とした地域観光事業者・自治体などとともに、中国人向けの医療と観光を組み合わせた滞在プランの作成に取り組んだ。PR活動として、プランについて周知するためのランディングページとブランディング動画を作成し、2月より公開した。

情報部 情報管理課

- 部長 ■ 課長
進藤 浩美 小澤 竹夫

■ 2021年度のトピックス

全施設	・ オンライン会議・イベント環境構築 ・ 仮想システムサーバー再構築
本院	・ 被ばく線量管理システム導入 ・ 感染管理システム導入 ・ RPA35導入 ・ オンライン用PC作成・各部署配布 ・ パソコン200台入替
本院・金沢・ローレル	・ オンライン資格確認システム導入
一本杉・みおや	・ シダックス給食システム導入

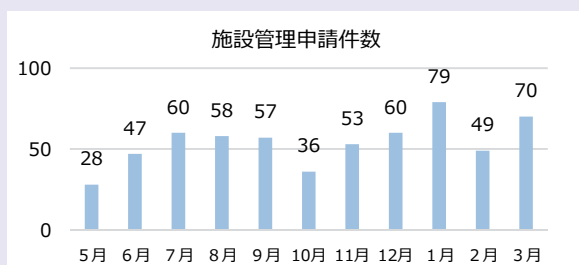
■ 事業報告

- ① 今年度はコロナ禍により会議やイベントが集合形式ではなく、TeamsやZoomを使ったオンライン形式が主流となった。インターネット回線の帯域不足のため、インターネットインフラの増強を行い、ストレスなくオンライン会議、オンラインイベントを開催できる環境を構築した。
- ② 電子カルテサブシステムとして、被ばく線量管理システムと感染管理システムを新規に導入した。

生活未来部 生活未来課

- 部長 ■ 課長 ■ 常務理事 ■ 本部長
安井 智美 梅田 信一 神野 厚美 進藤 浩美

■ 2021年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 職員宿舎管理チェックリストを作成して管理を始めた。
- ② 施設管理申請書を見直し、メールでの申請とした。進捗管理やFM会議資料作成業務の簡素化を図った。
- ③ コロナ禍による物品納品の遅延、施設への立ち入り制限等で未解決案件が55件残存している。
- ④ 新型コロナウイルス感染防止のための環境整備業務を行った。
- ⑤ ベンリー本社を含めた収益改善ミーティングを毎月実施。

個人情報管理委員会

■委員長・個人情報保護管理者

進藤 浩美

■2021年度のトピックス

回答・解説付きGoogleアンケート研修実施 997名回答
10問のポイント

- ・ 個人情報保護法とマイナンバー法の要点
- ・ 個人情報と特定個人情報との違い
- ・ 新型コロナウイルス感染患者の情報提供と同意
- ・ 診療録の情報開示
- ・ 学会・症例発表、匿名化と本人の同意

■事業報告

- ① 2021年6月17日董仙会個人情報管理委員会を実施した。委員は各病院、クリニック、施設の理事である。
- ② Googleアンケート研修を997名に実施した。解説、回答をつけてあっても間違った回答が見られた。特に新型コロナウイルス感染での転院における同意について、7.6%が間違った回答だった。
- ③ セキュリティ診断を受けることとした。結果は来年度となる。

広報委員会

■委員長

進藤 浩美

■常務理事

神野 厚美

■2021年度のトピックス

法人の広報活動について、情報収集・検討・実行した。

媒体	内容
製作物	広報誌、マンスリーレター、各種パンフレット・チラシ、HP、サイネージ、フラッグ、動画
外部メディア	ラジオななお、プレスリリース

■事業報告

- ① 恵寿総合病院広報委員会が設立され、病院全体からの情報収集体制が強化された。
- ② 新しく購入した機器や導入した事柄について、職員にメール・ポータルサイト・広報誌・マンスリーレターなどの媒体で周知するとともに、プレスリリースを作成しマスコミにも情報発信した。

けいじゅFM委員会

■委員長

安井 智美

■2021年度のトピックス

実施した補助金事業は下記の通りである。

施設	内容
和光苑	省エネ（換気システム更新）
和光苑	介護基盤施設等整備（居室改修）
和光苑	地域介護福祉空間整備（非常用発電）
和光苑	ICT・IoT導入促進（見守りシステム導入）
鶴友苑	ICT・IoT導入促進（見守りシステム導入）
鳩ヶ丘	ICT・IoT導入促進（見守りシステム導入）
ほのほの	ICT・IoT導入促進（見守りシステム導入）

■事業報告

① 患者、利用者に快適な空間を提供する為に修繕や改修を計画するが、長引く新型コロナの影響により必要物品の入荷が遅く、工事も遅れている。未完了案件は、55件となった。実施した改修工事は、補助金事業を除くと下記の通りである。

- ・本院：男女露天風呂跡改修
- ・本院：3病棟2階シャワールーム改修

TQM委員会

■委員長

安井 智美

■2021年度のトピックス

発表大会の開催日と各セッション優秀賞

2021年10月19日（火）、20日（水）、10月21日（木）	
1日目	本院 看護部（血液浄化センター・5東・5西・6東・6西）
2日目	本院 医療福祉相談課、看護部
3日目	いこい
2022年3月9日（水）、14日（月）	
セッション1	恵寿鳩ヶ丘
セッション2	本院 看護部（4東・4西）、リハビリテーションセンター
セッション3	本院 看護部（訪問看護、外来、入院支援看護師） 医療秘書課、医事課

■事業報告

- ① 昨年度に引き続きオンラインによる平日の分散開催とし、感染予防以外のメリットとして、自部署からの発表者が増え、移動時間の削減が図れた。デメリットは、参加人数、時間を把握しづらく、職員が一堂に集まる「大会」らしい雰囲気を知らない職員が増えた。
- ② どのテーマも実施まで行けど、実施期間が短く、考察に至らない傾向にあった。

福利厚生委員会

■委員長

安井 智美

■2021年度のトピックス

長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度に引き続き各種イベントが中止となった。

主な中止イベント	けいじゅヘルスケアシステム大忘年会
	七尾港まつり総踊り
	ボーリング大会
	ソフトバレーボール大会
	ストレッチ教室

■事業報告

- ① 10月に確定拠出年金給付セミナーを総務課と共にオンライン（Zoom）開催した。今年度、定年制を廃止し、より一層自分の退職金に興味を持ち、運用を行うための情報提供を考えていきたい。
- ② 12月大忘年会は、中止したが少しでも職員に楽しみを届けるため「お楽しみ抽選」は実施した。

キャリアデザインプロジェクト

■委員長

松田 久良

■2021年度のトピックス

E-learning 12項目の講義を新規ないし修正をアップ

① 董仙会概要	⑦ 20代からの資産形成
② 今期計画	⑧ コロナ対策
③ 中期計画	⑨ BCPエレベーター編
④ 組織規程	⑩ 人生100年プロジェクト 60歳からの働き方
⑤ 倫理綱領	⑪ キャリアデザインプロジェクト
⑥ 服装規定	⑫ 採用時オリエンテーション

■事業報告

- ① 過去の講義で修正の必要なものを選定し修正した。また、「BCPエレベーター編」や「人生100年プロジェクト 60歳からの働き方」は新規に作成した。
- ② 定年廃止に伴い、シラバスを見直し、セカンドステージ正職員向けや嘱託、パート向けの必須講座も選定した。
- ③ 20年研修において、オンラインでイタリア旅行を実施した。

健康委員会

- 委員長
松田 久良

■2021年度のトピックス

健康経営優良法人2022（大規模法人部門、ホワイト500）に申請して、5年連続認定を受けた。



■事業報告

- ① けいじゅ健康保険組合とコラボ、未病予防対策として特定保健指導実施率アップに注力し、アプリ「MIEL」を導入した。その結果実施率は45.3%（昨年度実績14.3%）と31ポイント上昇した。
- ② 高齢者雇用対策として、55歳以上の骨密度検査を追加した。

病院・施設委員会

- 委員長
吉田 茂和

■2021年度のトピックス

委員会で情報共有した主な内容

1	病院と各施設の稼働状況と、患者・利用者の動向
2	刻々と変化する新型コロナウイルスの最新状況とその対応
3	Foot活プロジェクトの進捗
4	新設「ノーリフトマイスター研修」の開催
5	介護ロボットの導入とその使用状況

■事業報告

- ① 各施設の感染予防対策などの情報共有
変異株（オミクロン株など）の出現による、感染状況やその傾向・特徴などを共有し、感染予防対策についても情報共有した。
- ② 救急救命士による、施設間 搬送支援の周知
本年度より、病院から施設への搬送について救急救命士に活躍してもらう件について情報共有・周知を行った。

第2章 法人方針・事業報告（董仙会本部）

給食戦略プロジェクト

- リーダー
神野 厚美
- 副リーダー
進藤 浩美

■2021年度のトピックス

食の見直し	
本院、産科	提供曜日設定、市内飲食店テイクアウト追加、新デザートの導入
本院、金沢病院	うなぎを増量 本院235食を提供、残食0名 金沢56食提供、残食7名
一本杉、みおや	生産性向上を目標に、 デリカ食材提供を開始

■事業報告

- ① 質：アレルギー食について、ヒヤリハットがあったため、マニュアルを再確認、再教育指示をした。
- ② SDGs：シダックス職員と勉強会を実施した。
- ③ SDGs「水を守る」：法人内の厨房職員トイレに消音ラームを設置、手洗いの自動水洗未設置場所を整備。
- ④ SDGs「食を守る」：コロナ禍の生産者支援もあり、新米時期を終えた後、限定的に古米を使用した。

クリーン&5Sプロジェクト

- リーダー
神野 厚美
- 副リーダー
進藤 浩美

■2021年度のトピックス

5月30日 ゴミゼロデー、ポイントづくり1ヶ月集中月間を実施

1	収納場所をつくろう 物品・倉庫を見直そう
2	方法1 もったいないおばさんとさよならし、迷ったら捨てる 方法2 いつか使うかも…は手放す 方法3 2年触っていないものは、見直す、見極める
3	廊下に物を置かない

■事業報告

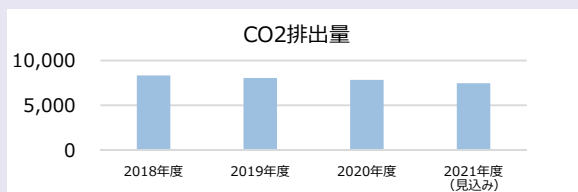
- ① オリックス様に介護事業所とベンリーに清掃教室を依頼。
- ② 5Sプロジェクトでは、介護事業所の廊下の掲示物をすべて撤去し、ルール作成し、掲示物の数を減らし、リニューアルした。また、入所セットの保管場所で、定数・定位置での5Sに取り組んだ。
- ③ 感染防止のための消毒清掃、消毒後状態の見える化方法の情報共有を実施した。

地球温暖化対策推進プロジェクト

■リーダー
森下 毅

■ 2021年度のトピックス

法人全体でエネルギー消費が増加しているが、重油の使用量の減少によりCO2排出量は減少傾向である。



■ 事業報告

- ① 夏期・冬期において、各部署チャレンジ目標を立て、省エネ対策に取り組んだ。
- ② 猛暑の影響と、発熱外来棟（プレハブ）の稼働により電気使用量は増加した。
- ③ 冷暖房装置を旧式のファンコイルからエアコンシステムに転換を進め、重油の使用量が減少している。CO2削減に寄与。

BCMプロジェクト

■リーダー
松田 久良

■ 2021年度のトピックス

「一時（緊急）避難所」施設使用に関する協定の締結
2022年3月22日、自然災害発生等の緊急時に備えて、茶谷義隆七尾市長立会の下、御祓地域づくり協議会及び近隣4町会と間において「一時（緊急）避難所」施設使用に関する協定の締結した。

■ 事業報告

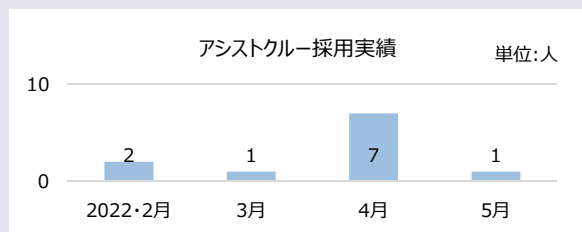
- ① 恵寿総合病院の停電時のエレベーター使用について、E-learningにまとめ、オンライン研修としてインターネットにアップし、職員に周知確認を行った。
- ② Teamsを使用して、「緊急事態報告」チームを立ち上げ、運用開始した。ビジュアルによる報告が可能となり、災害時の現状把握が向上した。
- ③ ALSOK緊急メール練習を4回実施した。

リクルートプロジェクト

■リーダー
松田 久良

■ 2021年度のトピックス

新たにアシストクルーの採用を開始した。



■ 事業報告

- ① 採用困難な職種については、働き方を見直し、仕事内容を細分化して業務ごとにアシストクルーとして募集した。
- ② 新卒採用については、昨年同様オンラインやWeb管理により、オンタイムでの対応強化した。
- ③ 内定者の集いでは、内容を一部アウトソーシングし、内容の充実と職員の負担軽減を図った。

外国人職員受け入れプロジェクト

■リーダー
松田 久良

■ 2021年度のトピックス

ターゲットを明確にし、エージェントも厳選し戦略的に活動した。

ターゲット	エージェント	対象国
看護師	IMS・GTPネット	中国
技能実習生	グローバルネット、ユニグループ	インドネシア
留学生	菅沼グループ	ベトナムダナン大学
特定技能転職	マイナビグローバル	ベトナム、ミャンマー

■ 事業報告

- ① 外国人技能実習生第2陣の受け入れ態勢を整え、2022年6月に5名のインドネシア技能実習生を受け入れ可能となった。
- ② 一方でベトナム・ダナン大学の留学生受け入れ計画及び特定技能転職組獲得も並行して遂行した。また、コロンビア人も採用し、董仙会における多様化を推進した。

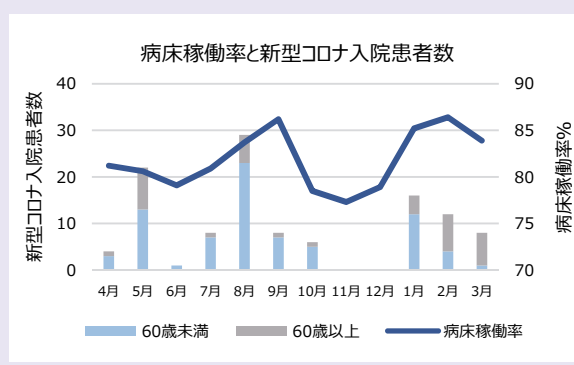
恵寿総合病院

■ 病院長

鎌田 徹

■ 2021年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症への対応が最大の課題であった。第4波の5月、第5波の8月、第6波の1月と新型コロナの入院患者が多く、第4・5波では比較的若年者、第6波では高齢者の入院割合が高かった。当院でクラスターが発生した10月以降の3か月間は病床稼働率が低率であった。ほとんどの期間で全館面会禁止を継続した。



■ 事業報告

① 新型コロナ対応について

感染症協力医療機関や診療・検査医療機関としての入院及び外来業務、約1.2万回のワクチン接種などの新型コロナ対応を行った。

② 入院・外来について

重要な入院指標である病床稼働率、平均在院日数、看護必要度はそれぞれ81.8%、15.3日、29.0%であった。その他救急車受入台数、入院患者数、全身麻酔件数は1,474台、5,694人、801件と前年をわずかに上回った。また、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、障害者病棟の稼働率はそれぞれ81.7%、90.3%、98.8%であった。紹介率・逆紹介率はそれぞれ82.8%、90.3%であった。地域医療支援病院として能登地域の他医療機関で当院の眼科、脳外科、糖尿病、循環器疾患などの専門医が今年度も診療を継続した。

③ 教育・業務改善について

看護師特定行為研修、救急事例検討会、初期研修医及び専攻医の臨床研修などを継続し、オンライン診療・アシストクルーの採用・入退院管理センター設置・フレイルドック・RPAなどの新たな仕組みを導入した。

診療部

■ 診療部長

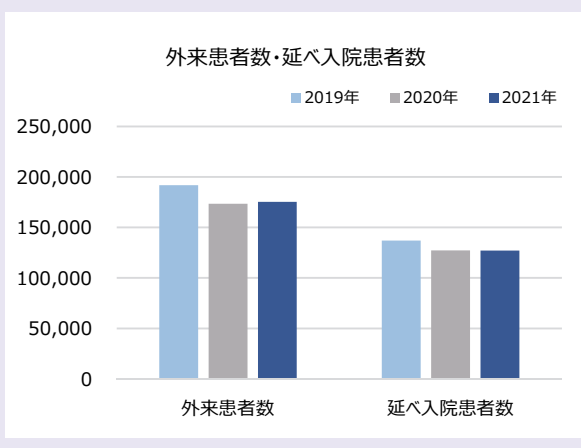
山崎 雅英

■ 副部長

森永 敏生（医局長）、西澤 永晃、
伊達岡 要

■ 2021年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症流行禍の中、通常診療に加えて、全診療科で協力し発熱外来・ワクチン接種などを行った。地域医療支援病院として、連携医療施設への速やかな返書作成、逆紹介の推進を継続して実施している。



■ 事業報告

- ① 新型コロナウイルス感染症流行禍の中、発熱外来を開設し、また入院時の抗原定量検査・胸部CTを実施することで院内への新型コロナ感染症の持ち込みを未然に防いだ。
- ② 全診療科で協力して高齢者、基礎疾患を有する方、小児に対する新型コロナワクチン接種を行った。
- ③ 石川県・能登中部保健所の依頼のもと、新型コロナ陽性患者の入院受け入れ、オンライン診療・処方、濃厚接触者検査を積極的に実施した。
- ④ 地域医療支援病院として、紹介患者の受け入れ、72時間以内の返書作成、逆紹介・二人主治医制を推進した。
- ⑤ 新入院患者数、延べ在院患者数、外来患者数は新型コロナウイルス感染症発生前（2019年度）には及ばないものの、2020年度を上回り、2019年度に近い水準に回復しつつある。

新入院患者数：6,391→5,678→5,694人

在院患者数：136,954→127,185→127,145人

外来患者数：191,824→174,126→177,831人

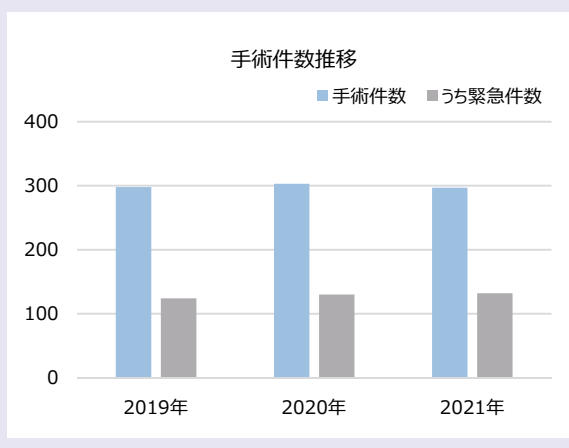
消化器外科

■ 所属医師

佐藤 就厚、高井 優輝、久野 貴宏、真智 涼介

■ 2021年度のトピックス

手術の抑制を強いられた昨年度と比べて手術件数は増加とはならなかったが、緊急手術は年々増加している。



■ 事業報告

- ① 侵襲性の低い腹腔鏡下手術を積極的に取り入れている。2021年度は、目標件数（180件）をやや下回る176件となったが、前年度件数を維持している。
- ② 化学・分子標的療法件数が増加している。前年度比で10%増加の300件であった。
- ③ 消化器外科医業総収入（外来・入院）目標の93%で未達成となった。入院収入は前年同等（単価は110%）であるが、外来収入は96%（単価は99%）となった。
- ④ 乳腺領域を含む外科としての紹介件数は増加傾向にある（2020年度：292件→2021年度：339件）。引き続き、地域医療機関からの紹介についてもスムーズな対応を継続していく。

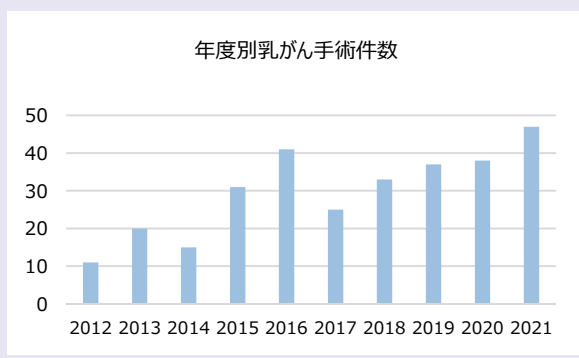
乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹

■2021年度のトピックス

2016年度から乳腺外科を専門科として独立し、評判向上と充実を図ってきた。乳がん手術例は昨年度38例、本年度は47例と過去最高であった。抗がん剤治療の適応判断のためのオンコタイプDX（遺伝子検査）の導入や種々の抗がん剤適応の有無に必要なコンパニオン診断検査を積極的に導入している。



■事業報告

- ① 乳がんの診療の充実化
昨年度に比較し、乳がん手術件数・外来化学療法・放射線治療件数ともに増加し、当院乳腺外科が周知されていると考えている。前述の種々の遺伝子検査を行うことで、抗がん剤治療の適応の判断や最新の抗がん剤治療を積極的に導入している。女性放射線技師はマンモグラフィー撮影に加え、ドック乳房超音波検査も経験を積んできており、ドック超音波の精度が高まっている。
- ② Web講習会への積極参加
今年度は自身の学会発表は行わなかったが、オンラインによる様々な講演会を七尾でオンライン聴取でき、有用であった。また能登地域での医療従事者向けのオンライン講演会を主催した。
- ③ その他
再診患者はもちろん初診・紹介患者も予約を行うことで、利便性を図っている。また紹介患者でなくても、かかりつけ医がいれば、積極的に診療情報を提供している。今後も診療体制を充実し、最新の知見・治療にも対応し、能登の地域で信頼されるように精進していきたい。

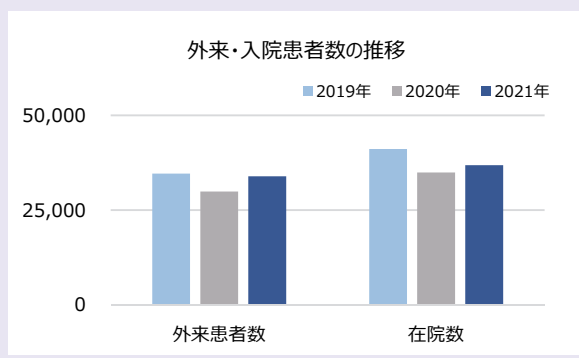
内科

■所属医師

山崎 雅英、宮本 正治、山村 健太、岡田 圭一郎、宮竹 敦彦、藤井 愛、豊田 洋平、眞井 友真、野村 俊一、松田 雄斗、本江 真人、村 宏樹

■2021年度のトピックス

内科医師を中心に、発熱外来診療、濃厚接触者検査陽性者への結果報告・オンライン診療・処方、入院患者の受け入れを行った。糖尿病患者などを中心にオンライン診療を推進した。連携医療機関の紹介患者受け入れ、逆紹介を積極的に実施した。



■事業報告

- ① 内科系医師が中心となり、発熱外来診療、濃厚接触者検査陽性者への電話報告・オンライン診療・処方、入院対応（98名）を行った。
- ② 糖尿病患者に対するオンライン診療を積極的に実施し、第246回日本内科学会北陸地方会で発表した。
- ③ 金沢大学（呼吸器内科、血液内科）、金沢医科大学（腎臓内科、内分泌代謝内科、リウマチ膠原病内科）の専門医の外勤を継続し、より質の高い診療を行うとともに、病病連携を綿密に行った。この一例として、当院患者につき、金沢大学附属病院血液内科にて造血幹細胞移植3名、北陸地方第1例目のCAR-T療法（キメラ抗原受容体（CAR）T細胞療法）を実施することができた。
- ④ 連携医療機関からの紹介患者診療・速やかな返書作成、逆紹介（二人主治医制）を進めた。
- ⑤ その結果、新型コロナ感染流行前の2019年度（流行後の2020年度）と比較して、外来総患者数98.0%（113.4%）、新患患者数 77.2%（135.6%）、新入院患者数 86.1%（103.3%）、延べ入院患者数 86.1%（103.3%）89.6%（105.5%）まで回復してきている。

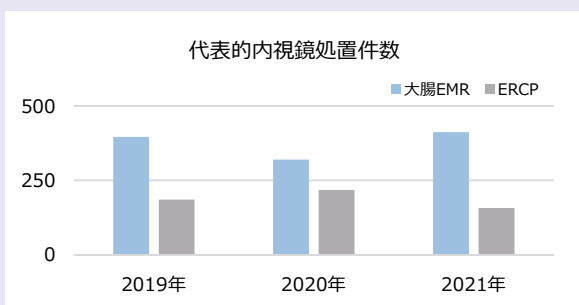
消化器内科

■所属医師

守護 晴彦、神野 正隆、藤原 秀、早川 希

■2021年度のトピックス

大腸ポリープの内視鏡的ポリープ切除術について注力し、処置件数の増加に加えて、一昨年前までは日帰りも可としていたが昨年より原則一泊入院へと変更し、入院数を増加させた。奥能登からの紹介件数が減少したことで、ある程度の重症度の入院患者数が減少し、在院日数や処置点数の減少に影響した。早期退院を心掛けていたが、DPC日数を確認しながら退院調整を行うように変更した。



■事業報告

- ① 大腸ポリープの内視鏡的ポリープ切除術について注力し、治療対象を広げて処置件数を増加させた。一昨年前までは日帰りも可としていたが、昨年より原則一泊入院へと変更した。
- ② 新規クリニカルパスの作成および既存クリニカルパスの見直しを行い、パス利用率が直近でほぼ100%となり、治療の標準化・効率化と医師・看護師・メディカルスタッフの業務負担軽減に寄与した（前年のパス利用率は30%程度だった）。
- ③ ガイドワイヤーなどの処置デバイスを変更し、コストカットを促進した。
- ④ 手技と診療報酬を検討し、質向上と収益増を図った。（ex. 内視鏡的乳頭切開術＋内視鏡的碎石術）
- ⑤ 平均在院日数が短くなる傾向があったため、入院患者は病状の様子をみて平均在院日数をDPC期間2満了を目標として退院調整を行った。

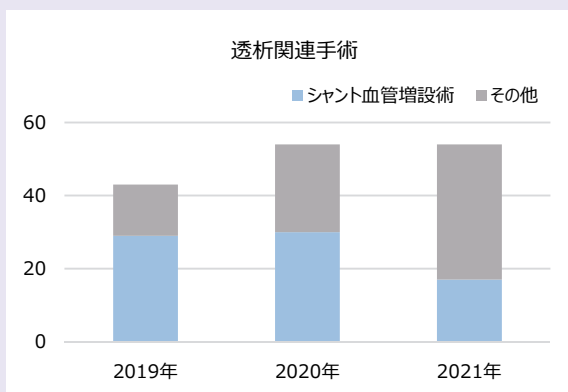
心臓血管外科

■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

■2021年度のトピックス

奥能登及び中能登地域への診療支援として、現在5施設で、心臓血管疾患を中心に出張外来を継続している。例年に比べ手術件数は減少したが、透析関連手術は増加している。心臓大血管・末梢動静脈疾患・透析関連における手術を継続して行っている。



■事業報告

- ① 能登地域での講演会は中断したが、オンラインによるハイブリッド学会やWeb講演会という形で開催・参加し、最新の知見を得ることができた。再度、循環器内科と共同で、中能登・奥能登地域の医療機関と連携を深めるため、継続的にWebを含めた形で市民公開セミナー及び連携医療機関での講演会を行う。2019年に開始した産業医との協力による一般事業所への講演会が中断したが、今後Web講演会という形も考慮して、再開する。
- ② 外来新患者・新入院数は、2019年に比べると少ないが、前年2020年より回復傾向である。紹介件数の30%が出張外来施設であることを考量し、継続する必要がある。
- ③ 高齢化率の上昇と共にここ数年で重症例の比率が多くなってきている。重症下肢虚血の外科治療として、2021年度は新たに下腿末梢へのバイパス手術を開始した。透析関連手術は増加傾向である。静脈瘤手術では、レーザー治療の中心は大伏在静脈であったが、今後、小伏在静脈や副伏在静脈や静脈瘤そのもののレーザー治療を行う予定である。

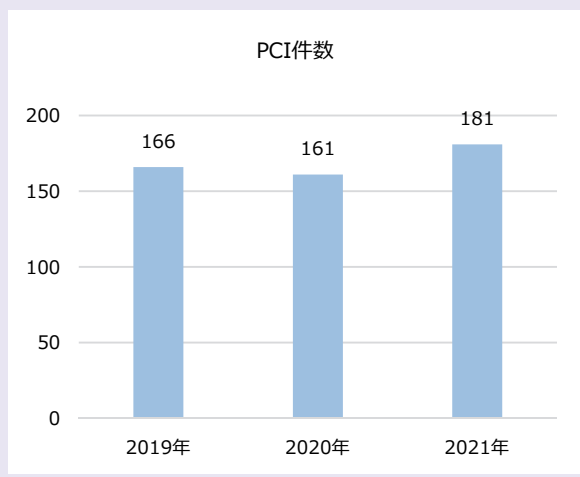
循環器内科

■所属医師

宝達 明彦、寺田 和始、新庄 祐介

■2021年度のトピックス

PCI件数は堅調に推移している。



■事業報告

- ① カテーテルアブレーション、リードスペースメーカー、Rotablatorなどここ数年で導入した治療も継続的に行っている。また今年度はOFDIを導入し、Rotablatorと合わせて石灰化病変のよりよい治療が行えるようになった。
- ② 珠洲市総合病院での出張外来を継続して行っており、またオンラインではあるが講演会も再開した。これまで通り奥能登の医療機関との連携を図り、能登地区において専門的治療を行うハートセンターとしての役割を担っていく。
- ③ 急なDrの休みでも科として診療を維持することができ、循環器内科としての堅牢性を示すことができた。今後の働き方改革に活かしていきたい。

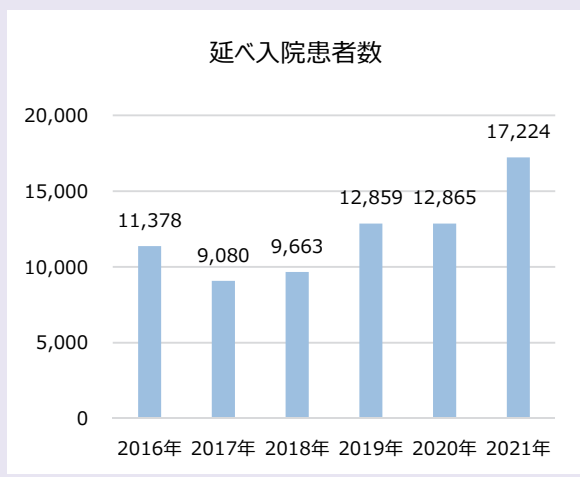
脳神経外科

■所属医師

岡田 由恵、東 壮太郎

■2021年度のトピックス

脳神経内科の体制が変更となったため、2021年度からは、脳神経関係の救急症例については、ほぼ全て、セカンドコールとして対応している。



■事業報告

- ① 2021年度実績
新入院患者数：193人
延べ在院患者数：17,224人
(1日平均47人の入院患者)
手術件数：10件（慢性硬膜下血腫10例）
tPA症例：延べ10（うち脳神経内科2例）
- ② 入院患者数は50人前後を推移している。
- ③ 他病院からの、回復期リハビリ病棟への適応が厳しい症例の受け入れにも対応している。
- ④ 毎週木曜にハイケアユニットにて、ストロークユニットフィルムカンファレンスを行っている。医師、看護師、リハビリ療法士、研修医等の多職種で、症例の病態の理解を深め、情報を共有するとともに、画像を読影する力を深めるために役立っている。
- ⑤ 緊急手術が必要な症例に関しては、能登総合病院、金沢大学、県立中央病院等と連携し、迅速に対応できる体制となっている。
- ⑥ 脳腫瘍等、高度な治療が必要な症例に関しては金沢大学と連携して対応している。

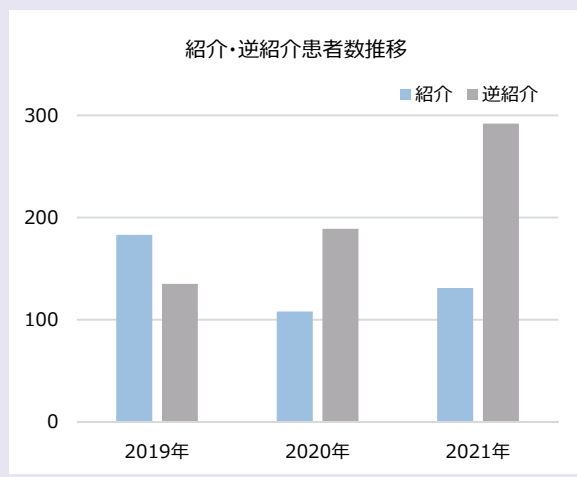
脳神経内科

■所属医師

池田 篤平

■2021年度のトピックス

前医の退職により新体制となった。再診患者の逆紹介を進め初診患者や紹介患者の受け入れ枠を確保するよう努めた。



■事業報告

- ① 外来患者数は、初診が前年比30%増加。再診も含めた総患者数で4%の増加となった。逆紹介を積極的に進めることで初診患者の受診機会を増やすように努めた。
- ② 新入院患者数は30%の減少。
入院単価は3%増加した。
- ③ 新しく遺伝子検査を実施すべく体制を整えた。脊髄性筋萎縮症、急性発症ジストニア・パーキンソン症、遺伝性脊髄小脳変性症、脆弱X症候群、球脊髄性萎縮症に対する遺伝学的検査が可能である。
- ④ 金沢大学脳神経内科による、能登ロスマリン酸認知症予防プロジェクト検診も継続した。

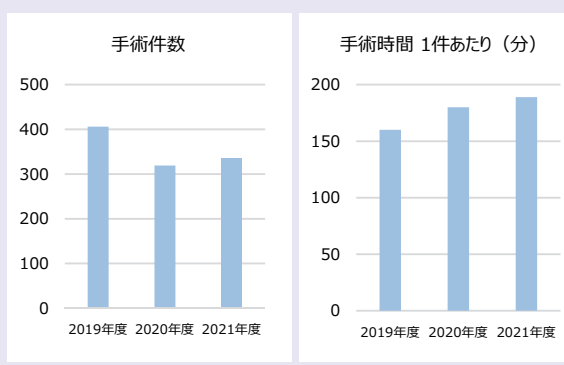
整形外科

■所属医師

森永 敏生、阿部 健作、河合 慈

■2021年度のトピックス

手術では、昨年同様、変形性膝関節症に対する人工関節置換術、骨切り術、関節鏡視下手術に力を入れた。一昨年と比較して手術件数は少なかったが、手術時間は累計で約100時間も長く、1件あたりに換算すると29分長いという結果となった。これは手技が複雑で難易度の高い手術が多かった結果と考える。



■事業報告

- ① 外来売り上げは、昨年比3.0%減、一昨年比6.4%減であった。新患数の減少が最大の原因と考える。一方で入院売り上げは、昨年比9.1%増、一昨年比4.0%増であった。新入院数の増加と、単価の高い大きな手術に積極的に取り組んだ成果であると考え。総売り上げは、昨年比7.6%増であり、コロナ禍前である一昨年度と比較しても2.7%増収との結果となった。
- ② 毎朝医師3人でカンファレンスを実施、また週に1回は看護師、PT、OT、MSWと合同カンファレンスを実施している。患者の情報をチームで共有するとともに、良質で適切な治療を提供できるように努力した。
- ③ 前年度に引き続き、骨粗鬆症リエゾンチームで活動を行った。次年度より、この二次骨折予防活動に対して保険点数が加算されることもあり、リエゾン活動をさらに充実させたい。さらに大腿骨近位部骨折のみならず、他部位の脆弱性骨折患者にも対象を拡大し、二次骨折予防に努めたい。

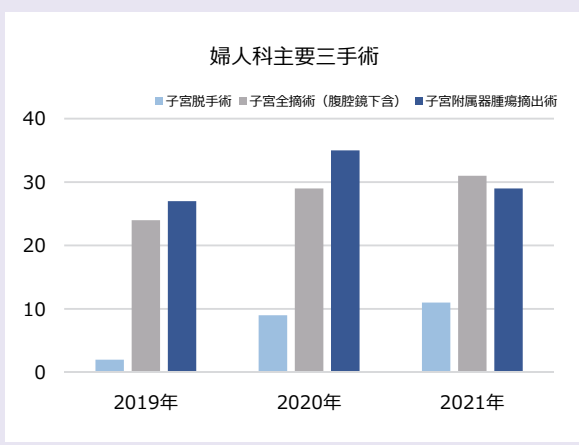
産婦人科

■所属医師

新井 隆成、安田 豊、宮田 康一、尾山 量子、高多 佑佳、
寺林 博之、網師本 健佑、佐藤 友美、小川 真幸

■2021年度のトピックス

2019年度と比較して、産婦人科収益はこの2年間横ばいであり、コロナ禍は産婦人科収益全体に大きな影響を及ぼしていない。特に婦人科主要三手術を中心とした診療の安定的な収益が好結果に結びついている。



■事業報告

- ① 入院収益 DPC収益上位項目の傾向に大きな変動は認められない。上記婦人科主要三手術以外の婦人科手術として、子宮がん検診の要精査率にも関係する子宮頸部切除術や子宮悪性腫瘍手術数も増加傾向にある。
- ② 外来収益 外来収益の減少傾向、外来単価の増加傾向は昨年同様の結果である。MRI検査数、子宮内膜生検検査数など婦人科外来精査数も減少しているため、今後の課題である。子宮がん検診要精査率が、他院での精査を含め2021年度は減少しており、コロナ禍の影響が疑われる。受診再勧誘が重要な課題であるため、「婦人科健心コール」サービスを広報を含め強化する案を前進させたい。

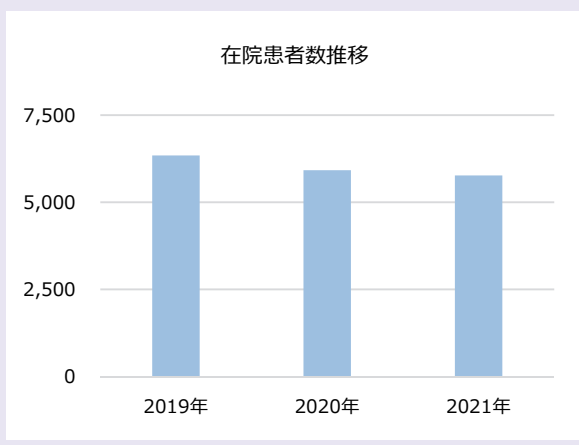
家庭医療科

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要

■2021年度のトピックス

- 延べ在院患者数：5,770人（前年比：97.5%）
- 外来患者数：9,584人（前年比：108.6%）
- 一日当たりの外来患者数：39人（前年比：108.3%）



■事業報告

- ① 外来患者数は、9,584人で、前年（8,713人）より8.6%増加した。一日当たりの外来患者数は、39人で、前年（36人）より8.3%増加した。延べ在院患者数は、5,770人で、前年（5,918人）より2.5%減少した。新入院患者数は、168人で、前年（151人）より11.2%増加した。
- ② 一般病棟での主な入院疾患は、誤嚥性肺炎やその他肺炎、腎臓又は尿路の感染症、敗血症、胆管結石、胆管炎、胸椎、腰椎以下骨折損傷、脊椎骨粗鬆症、脳梗塞、睡眠時無呼吸、前庭機能障害であった。
- ③ 地域包括ケア病棟での主な入院疾患は、一般病棟同様、誤嚥性肺炎やその他肺炎、腎臓又は尿路の感染症、敗血症などのほか、認知症や脳卒中の続発症、心不全、高血圧性疾患など慢性的疾患が多く見られた。

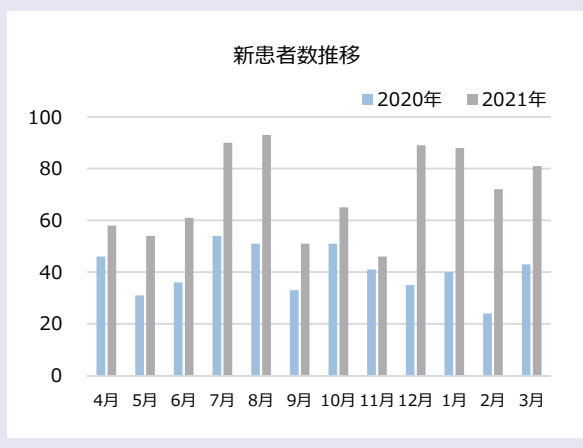
小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、清水 一秀

■2021年度のトピックス

小児科では2021年9月以降、コロナ禍の影響もあり、2020年度に比し、小児発熱外来を受診する新患者数が増加している。また、2022年3月より5歳～11歳の小児コロナワクチン接種を毎週1回開始している。



■事業報告

- ① 2021年度、小児科は常勤医師3名（1名は鳥屋診療所兼務）で、一般小児診療を行っている。
- ② 金沢大学・金沢医科大学からの小児専門医の派遣により、定期的な循環器、内分泌、神経、免疫アレルギーの小児専門外来体制をとっている。
- ③ コロナ感染症患者の増加に伴って、小児感染の患者は、当院敷地内にある発熱外来棟にて、コロナ対応に準じて診療を行うシステムに体制変更した。
- ④ 夜間診療は、毎週水曜、金曜の18時～24時までを行っている。また、輪番制により定期的に休日診療に参加し地域医療に貢献している。
- ⑤ 外来診療では不十分な患者に対しては、入院による診療を行っている。重症症例については大学病院などの高次医療機関と連携している。
- ⑥ 産科との連携で、分娩時の異常にも対応すべく24時間体制をとっている。
- ⑦ 2022年3月より、5歳～11歳の新型コロナワクチン接種を開始している。

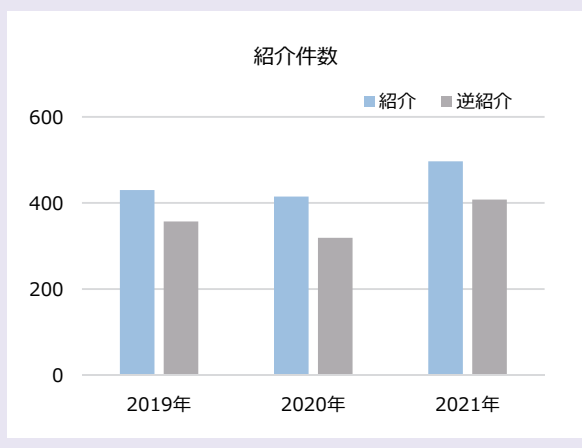
眼科

■所属医師

馬渡 嘉郎

■2021年度のトピックス

紹介、逆紹介件数ともに昨年度より件数が増加した。他の医療機関との連携を大事にしている。



■事業報告

- ① 他の医療機関の先生方の期待に沿えるよう最新の知見に基づいた治療の選択枝を患者様に提供できるように努力したい。
- ② 白内障を中心に硝子体、眼瞼、緑内障の手術を提供している。ご高齢の方に耐えうる低侵襲の最新の手技を心掛けている。
- ③ 外来診療では特に緑内障の薬物治療の方法論にこだわり、患者様の負担にならない投薬、通院の仕方を提供できればよいと考えている。
- ④ 働き方改革に留意した仕事の進め方に注力したい。

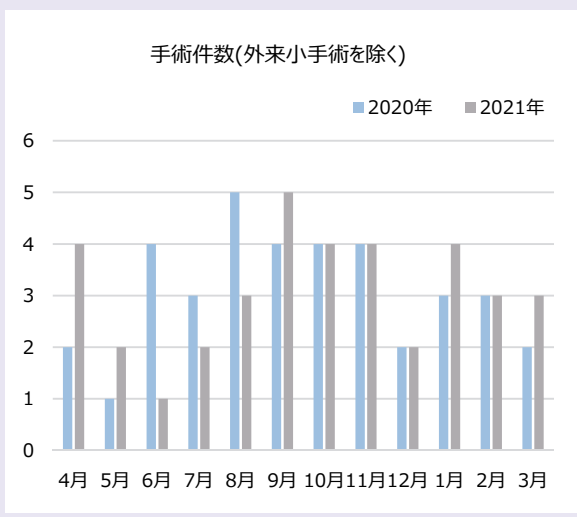
耳鼻咽喉科

■所属医師

山田 和宏

■2021年度のトピックス

手術件数（外来小手術を除く）は前年度と同等の件数であった。



■事業報告

- ① 2021年度実績
外来患者数：5,240名
初診患者数：376名
新入院患者数：72名
手術件数：118件
- ③ 紹介件数が増加した。
2019:204件→2020:189件→2021:214件
- ④ アレルギー性鼻炎の患者様に対し、内服薬や点鼻薬といった保存的治療以外に、外来日帰り手術の下甲介粘膜焼灼術（アルゴンプラズマ凝固）も提案し、治療の選択の幅を広げている。
- ⑤ わかりづらい耳鼻咽喉科の疾患について、患者さんに十分に理解していただけるよう、耳・鼻・咽喉頭の解剖の図や模型を用いるなどして丁寧な説明を心掛けた。
- ⑥ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

麻酔科

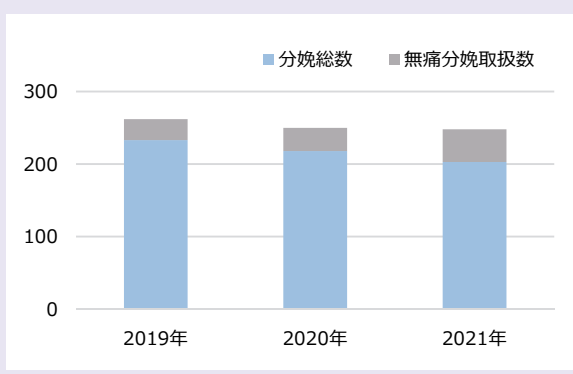
■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦

■2021年度のトピックス

コロナ禍で分娩数が低下する中、今まで産科と協力して行ってきた無痛分娩が前年度比で40%増加した。

- ① 無痛分娩取扱数 45件（前年度32件）
- ② 分娩数 203件（前年度218件）
- ③ 無痛分娩/経膈分娩 19%（前年度12%）



■事業報告

- ① 麻酔科管理件数
前年度とほぼ同数であったが、コロナ禍前の一昨年前との比較では15%減少している。
- ② 総麻酔時間
前年度より3%増加した。内視鏡手術など高度で長時間の手術に対応できている。
- ③ 緊急手術割合
32%と高い割合を維持している。2名の麻酔科医を有効に配置し、緊急手術に対応した。また、夜間休日の拘束体制を維持した。
- ④ 無痛分娩取扱数
前年度比40%と大幅に増加し、総分娩数の19%を占めるようになった。他院からの紹介や遠方よりの受診も見受けられるようになった。今後も母体管理体制を整え安全性と質を高め、より潜在的ニーズを拾い上げ、当院の分娩数の増加につなげたい。
- ⑤ 緩和ケアチーム対応患者数
前年度比60%と大幅に増加した。これからも、多職種や在宅医療と協力しながら、患者さんが少しでも満足できるような質の高い対応をしていく。

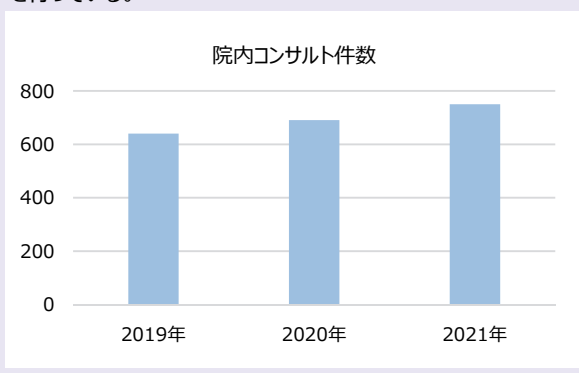
皮膚科

■所属医師

坂田 祐一

■2021年度のトピックス

院内対診に積極的に関わることを目指している。創傷に対する縫合などの応急処置、蕁麻疹・薬疹に対する治療や原因検索、蜂窩織炎などの感染対策、足白癬・カンジダ症等の皮膚真菌症の治療、爪切りや鶏眼・胼胝腫削りなどに対応している。特定行為研修修了看護師との共同での褥瘡治療を行っている。



■事業報告

- ① 通常の外来診療に加え、入院患者における皮膚科対診も積極的に対応した。
- ② 褥瘡治療に関して、外科的な高度な処置が必要な患者は形成外科医師に依頼、その他の患者は特定行為看護師とともに積極的なデブリドマンを行った。
- ③ 真菌認定専門医であることを活かした白癬治療をより積極的に進めた。
- ④ 蕁麻疹患者のコントロール評価に用いるUCT score、アトピー性皮膚炎の現状を評価するPOEMを用い、患者と情報を共有しながらの治療を行った。
- ⑤ 患者満足度を意識した診療を心がけた。

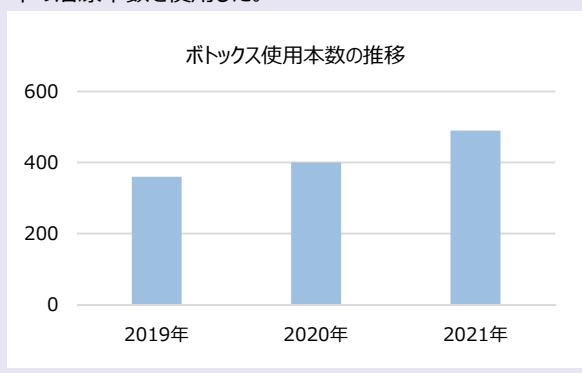
リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、伊達岡 要

■2021年度のトピックス

麻痺後の上下肢痙縮治療としてボツリヌス注射を積極的に実施してきた。年々使用本数は増加しているが、2年前からは慢性期に開始されていたボツリヌス注射を回復期リハ時から開始するようになり、ボツリヌス治療患者数およびボツリヌス注射使用数が増加している。2021年度は1年間に約500本の治療本数を使用した。



■事業報告

- ① 外科手術患者や癌入院患者に加え、ICU入室患者にも積極的にリハの必要性を啓蒙し、入院患者のリハ実施率については70%台となった。
- ② 回復期リハ病棟への転院患者は65例と維持された。また、回復期リハ病棟入室者のADL実績指数は50以上、自宅復帰率は80%以上、重症者の改善率も70%以上と全国的にも上位となる実績を維持できた。
- ③ フレイルドック開始のためのチームを立ち上げ、勉強会後全国でも初となる10職種による検診と指導を含む独自のフレイルドックを開始した。現在までに12例の患者を受け入れ、今後新しいオプションも追加する予定である。
- ④ 認知症入院患者のうちBPSDで病棟でのケアに難渋した患者に対して、認知症ケアチームとして看護師、作業療法士と毎週2～3名の回診を行いサポートした。
- ⑤ 訪問リハの必要性が高まっているが、コロナ禍で急性期や回復期病棟退院後の関与数はやや減少した。
- ⑥ コロナ禍でWEB参加が主流になってきたが、学会発表や論文作成、講演活動数はやや増加した。

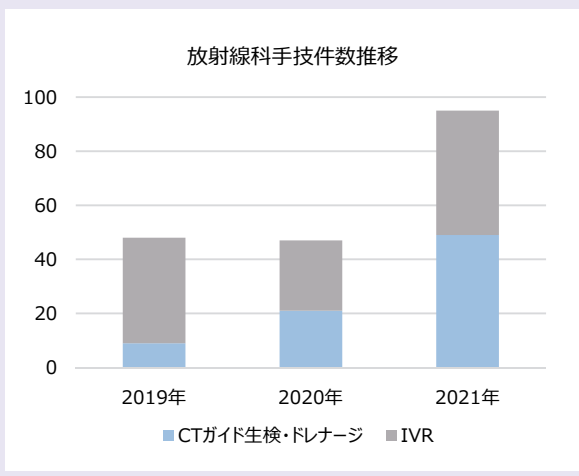
放射線科

■所属医師

角 弘諭

■2021年度のトピックス

放射線科医によるIVR（血管塞栓術・TACE・胆管ステント留置等）やCTガイド下生検、CTガイド下ドレナージの手技が大幅に増加した。



■事業報告

Covid19感染による肺炎除外目的で入院時に撮影する胸部CT件数が増加。それに伴い読影件数も増加した。

- ① 腹部血管塞栓術件数：46件（前年比176.9%）
- ② CTガイド下生検、CTガイド下ドレナージ件数：49件（前年比233.3%）
- ③ CT件数：18,075件（前年比119.3%）
- ④ MRI件数：4,358件（前年比100.4%）
- ⑤ マンモグラフィ件数：2,822件（前年比108.8%）
- ⑥ 骨塩量測定件数：933件（前年比111.1%）
- ⑦ 健診胃透視件数：800件（前年比79.1%）
- ⑧ 共同利用件数（CT/MRI/PET-CT）：333件（前年比99.4%）

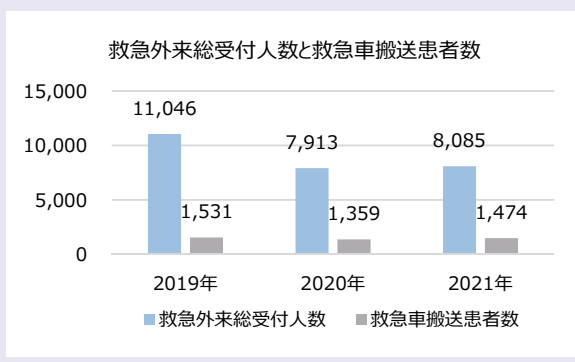
救急救命科

■所属医師

米田 高宏

■2021年度のトピックス

救急車搬入患者数はコロナ禍以前までとはいかないが復調の兆しである。医療秘書課と協力している逆紹介の件数が順調に伸びている。後日専門外来受診のために患者に渡している再診案内用紙の回収率が93%と前年よりも更に高値を示しており、「救急外来から専門外来へ」の取組みが実を結んできている。



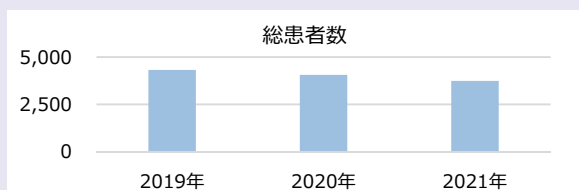
■事業報告

- ① 救急搬送患者数は1,500人弱と増加した。
- ② 救急外来受診数はコロナ禍以前には及ばないが昨年より増加し8,000人台となった。
- ③ 救急搬入患者の年間入院数は888人と前年度よりも増加した。入院率は60%を超えている。
- ④ 救急医学会専門医、麻酔科学会専門医を更新できている。
- ⑤ 救急車受け入れ不能件数は年間7件と月あたり1件未満である。
- ⑥ CT・MRIの読影レポート結果確認率100%であり、さらに必要に応じて患者に報告し受診を促したり、入院・外来主治医に直接届くような仕組みを継続できている。
- ⑦ 研修医のER研修は継続して力を入れている。
- ⑧ 救急部への紹介患者は137例だった。
- ⑨ 逆紹介件数は医療秘書課と連携して順調に数を伸ばして350となった。
- ⑩ 返書作成日数は1.11日と3日以内を守っている。
- ⑪ 「普段かかりつけ医、時々恵寿総合病院」というイメージで各医療機関との連携をすすめている。

形成外科

■ 2021年度のトピックス

コロナ感染症の感染拡大の影響を受けて、外来休診とせざるを得ない期間があった。外来患者数は減少傾向となった。



■ 事業報告

- ① 常勤医が不在の中、金沢医科大学からの派遣医により、外来診療を継続した。
- ② 外来手術が主であり、件数は前年比で11%の減少であった。
- ③ 手術内容は、創傷処理、皮膚、皮下腫瘍摘出術が大半を占めた。

緩和ケア科

■ 所属医師

櫛田 康彦

■ 2021年度のトピックス

金曜日ごとの症例検討会、2ヶ月ごとの委員会開催を継続（委員会はZoomを用いたハイブリッド開催）

緩和医療科での入院を可能とし、2名の見取りを受け入れた。

活動	開催回数
症例検討会	8回
緩和ケア委員会	6回

■ 事業報告

- ① 耐え難い苦痛を訴える患者さんに対して、緩和ケアチームが作成した鎮静におけるフローチャートを用いた。鎮静開始時には説明同意書に署名していただいた。
- ② 深部静脈血栓を有する患者さんへのリハビリ対応プロトコルを確認した。

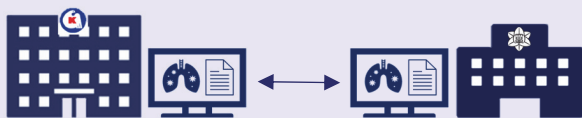
泌尿器科

■ 所属医師

川村 研二

■ 2021年度のトピックス

コロナ感染症の拡大時には、金沢医科大学からの派遣が停止となったが、オンライン診療システムを使用することで、予定の診察・検査・処方を実施することができた。



■ 事業報告

- ① 常勤医師が不在となる期間が発生したが、金沢医科大学の協力のもと外来診療体制を確保できた。
- ② コロナ感染症の感染拡大の影響を受けて、外来休診とせざるを得ない期間があった。外来患者数は減少傾向となった。

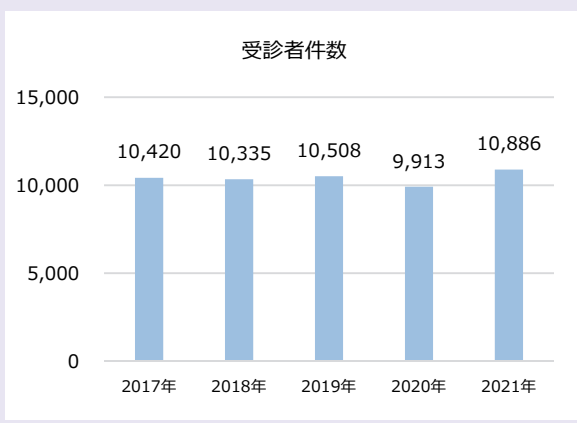
健康管理部

■センター長

上野 恭一、桐谷 正人

■2021年度のトピックス

今年度より常勤医師2名体制となり、来院検診、出張健診を含め、1,000名以上の方が受診された。このコロナ禍でも対策は万全に整え、受診者に安心して健診・人間ドックを受診してもらえる体制づくりに取り組んだ。



① 2021年度実績

- ・総受検者数：10,886名
- ・一日当たりの受検者数：45名
- ・一泊二日人間ドック受検者数：516名

② 人間ドック健診施設機能評価認定 更新受審

2022年3月に日本人間ドック学会による第三者評価の更新審査を受審した。受診者の皆様に安心して質の高い健診を受けていただくために、今後も継続的に業務の見直しと改善に向けて取り組みたい。

③ フレイルドックの開始

10月より、けいじゅフレイルドックを開始した。検診と予防教室からなるプログラムで、医師をはじめ計10職種のスタッフが関わり、早期発見と早期取り組みを支援している。多くの方に受診していただけるようにプログラムを充実していく。

④ 特定保健指導の実施

特定保健指導アプリ「MIEL」を導入した。スマホアプリを活用することで受診者と指導者がリアルタイムに情報を共有することが可能になった。今後も積極的に受診者の生活習慣の改善につながるよう取り組みたい。

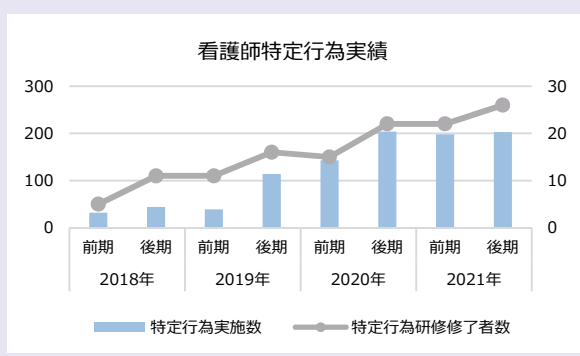
看護部

■看護部長

本橋 敏美

■2021年度のトピックス

- ① 看護師特定行為研修修了者7名（在籍者数26名）
特定行為実施件数：401件／年
- ③ 抗がん剤投与実践研修修了8名（在籍者数54名）
- ④ RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を活用し、作業の時間の短縮と業務改善
- ⑤ 本館4階西病棟にコロナ感染症患者 114名入院



① RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の活用により情報収集時間の短縮を図り、DXを促進した。

<2021年度に導入したRPA>

- ・病棟マップと情報の組み合わせ
- ・排便状況・緩下剤使用・ブレードスケール・酸素デバイス・酸素流量・SPO2・フォールリスクスケール
- ・重症度、医療・看護必要度B項目データ（病棟別）
- ・重症度、医療・看護必要度EFファイル集計（毎日）
- ・入院患者退院支援スクリーニング評価表
- ・DPC期間と転棟タイミング情報
- ・デバイス（UTI）抜去者リストと排尿ケア

② 病床利用の最適化による収入アップ

一般病棟の平均稼働率は78.8%、後方病棟（障害者病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟）の平均稼働率は89.9%であった。

④ PX（患者経験価値）サーベイを意識した患者サービスの実現に向けて活動した。

⑤ 看護職のコロナウイルスワクチン接種に関する出向延べ人数は231名で、地域のワクチン接種普及に向けて積極的に取り組んだ。

⑥ VHJ職員オンライン交流会において、看護管理分科会のホスト病院として参加した。

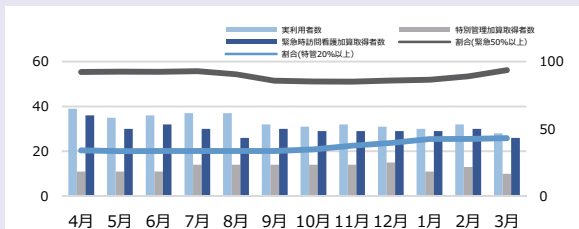
恵寿総合病院訪問看護ステーション

■ 所長

久能 恵美

■ 2021年度のトピックス

看護体制強化加算Ⅱ 算定要件の加算取得状況



■ 事業報告

- ① オンライン会議が増加しており、担当学会議18件中8件、リハビリカンファレンス8件中6件、オンライン診療の補助6件だった。病棟とのカンファレンス等にも実施している。
- ② 看護強化体制加算Ⅱ取得に関する算定要件をクリアすることができた。
- ③ ターミナルケア加算：8件/年、特別管理加割合：3～4割/月、緊急時訪問看護加算割合：8～9割/月

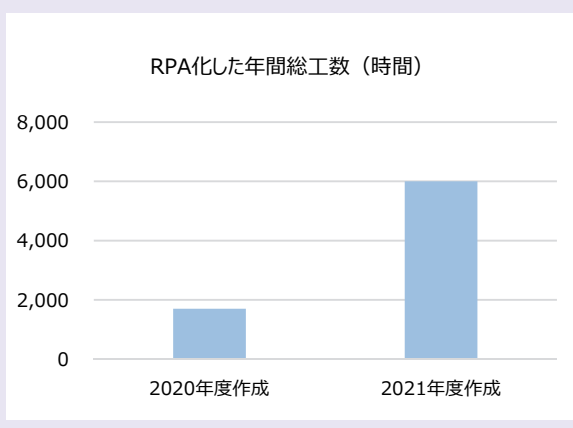
事務部

■ 部長

森下 毅

■ 2021年度のトピックス

タスクシフト・シェアが推進されていく中で、事務職業務の増加への対策が急務である。ルーティン業務における作業分解を行い整理する事で業務効率化を進めている。定型的な業務のRPA移行を本格的に開始した。



■ 事業報告

- ① 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、発熱外来での対応が増加した。濃厚接触者に対する検査件数も増加し、平日・休日を問わず受け入れ対応している。
- ② リモートアクセス利用により、医事業務や夜間休日のHER-SYS登録など、在宅からの業務フォローが可能となった。
- ③ 新型コロナワクチン接種においては、コールセンターでの予約受付をはじめ、副反応に関する相談窓口の設置をするなど、接種の前後においても対応している。
- ④ 入院患者の面会制限が継続し、荷物受渡サービスやオンライン面会のサポート対応を継続的に行っている。
- ⑤ オンライン資格認証システムが稼働し、マイナンバーカードを使った保険証の確認が可能となった。利用者数はまだ少なく、啓発活動も必要である。
- ⑥ 紹介元医師に対する診療情報提供のフローが確立し、逆紹介率の著しい上昇を認めた。
- ⑦ データ経営チームに参画し、新しいツールの導入により、DPCデータをもとにした種々の分析、ベンチマーク評価が可能となった。加算算定率向上をはじめとした収益改善の取り組みに繋げる。

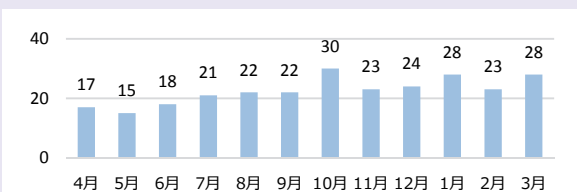
けいじゅサービスセンター 医療福祉相談課

■課長

中川 一美

■2021年度のトピックス

地域関係機関へオンラインでの患者情報連携を推進し、年間271件実施した。



事業報告

- ① 入院時退院支援スクリーニングのしくみを活用し、支援が必要な方への早期介入が充実した。入退院支援加算算定件数は1,359件、前年度比108%であった。
- ② 地域の25か所の居宅介護支援事業所や施設へオンライン事業所訪問を実施した。今後も顔の見える連携を図っていく。
- ③ 社会福祉士実習指導者資格を1名取得した。

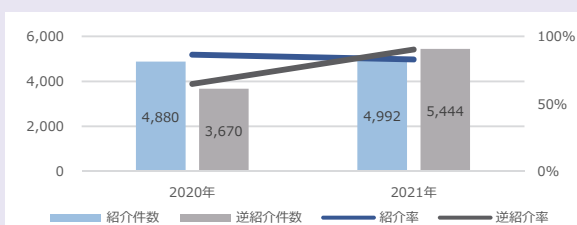
けいじゅサービスセンター 地域連携課

■課長

宮田 琴江

■2021年度のトピックス

紹介件数・逆紹介件数ともに前年度を上回った。



■事業報告

- ① 課内職員のトーク力向上、均衡化を図るべく「トークスクリプト」を学び、作成、実践した結果、紹介件数・逆紹介件数ともに前年度より増加し、地域医療支援病院承認要件（紹介・逆紹介率）をクリアした。
- ② 状況別に4件のトークスクリプトを作成し実践した。活用過程をスキルラダーへ反映し、等級別にコミュニケーション能力をステップアップするための目標を明確化できた。

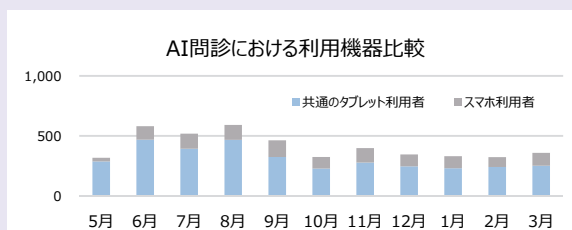
けいじゅサービスセンター サービス課

■課長

寺尾 美樹

■2021年度のトピックス

スマホ問診経験者を増やし、来院前問診増に取り組んだ。



■事業報告

- ① 来院前にAI問診を実施する事で、来院後の受付待ち時間を削減できると考え、来院前問診の利用者増に向けて取り組んだ。スマホ問診利用割合は5月時点で9%だったが、周知活動を強化し、3月時点で30%まで増加した。
- ② 新型コロナワクチン予防接種の電話予約業務にあたりワクチンを無駄にしないよう、予約業務を行った。

医療情報事務センター 管理課

■課長

松木 尊紀法

■2021年度のトピックス

2022年2月にアシストクルーを開始した。

内容	件数
特浴への送迎	10件/日
検査（レントゲン）の送迎	10～15件/日
預り荷物の運搬	適宜
物品（資材課発注分、制服）の運搬	1回/週

■事業報告

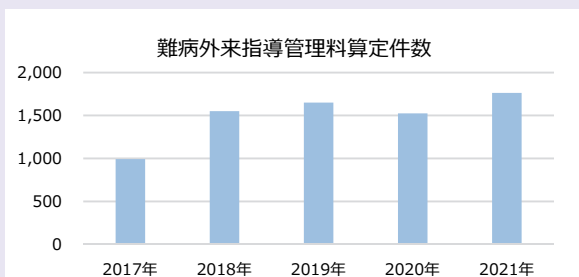
- ① 臨床研修センターおよび看護師特定行為研修センターの事務局として、研修のサポートを行った。
- ② 院内PHS修理・交換 27件（前年比-2件）
- ③ プリンター修理・交換 16件（前年比-4件）
- ④ コロナ対応では、濃厚接触者の発熱外来への誘導やコロナ病棟入院患者へローソンの商品の運搬を担当した。

医療情報事務センター 医事課

■課長

松本 伸恵

■2021年度のトピックス



事業報告

- ① 主に難病外来指導管理料の算定に力を入れ医師・医療秘書課との連携を強化し、2020年度より多く算定することができた。
- ② 2021年10月よりオンライン資格認証システムの運用を開始。マイナンバーカードによる健康保険証・限度額適用認定証の確認ができるようになった。

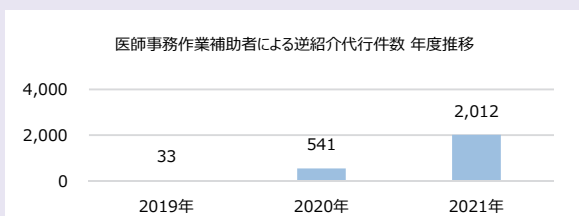
医療情報事務センター 医療秘書課

■課長

三浦 有紀

■2021年度のトピックス

診療情報提供書代行件数が大幅に増加した。



■事業報告

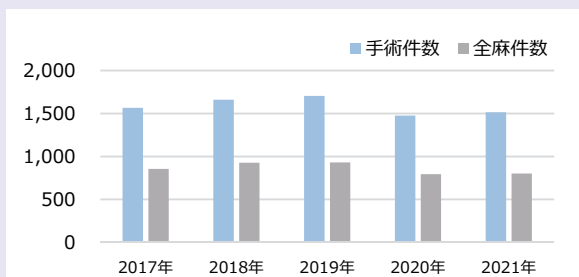
- ① かかりつけ医への逆紹介サポート開始。地域医療連携への貢献、きめ細かい患者サービスの提供に繋がった。
- ② オンライン診療の医師事務フローを確立し、39件のサポートを実施した。
- ③ ドクターズクラーク1名、ホスピタルコンシェルジュ9名、院内がん登録実務初級認定1名、更に念願の院内がん登録実務中級認定者1名が誕生した。

手術センター

■部門代表者

長谷川 公一、金森 敦志

■2021年度のトピックス



■事業報告

- ① 手術件数は1,515件、コロナ前と比べるとマイナス11%で収まっている。コロナウイルスが蔓延しただした前年度と比較するとプラス2.5%と微増傾向。
- ② 麻酔件数は、801件と施設基準を満たすことができている。

血液浄化センター

■部門代表者

岡田 圭一郎、菅野 則之

■2021年度のトピックス

導入期加算2の施設基準

- 腹膜透析施設
- 腎移植推奨施設

腹膜透析年間受診件数24件以上…3人 24件→36件
臓器移植の手術を行った患者3人以上 2人→4人

■事業報告

- ① 能登中部において施設基準の高い施設はなく、当院でこの基準を満たすために取り組んだ。患者へのアピールや、指導、スタッフへの理解と教育を進めた。結果、腹膜透析導入患者が1人増え、新たに、生体および献腎移植登録希望患者2人を連携施設に紹介した。その結果、5月1日より、導入期加算2を取得した。

PET・CTリニアックセンター

■部門代表者
角 弘諭、坂下 純司

■2021年度のトピックス

PET-CT件数は2020年度と比較して+146件（21%増）、2019年度と比べて+66件（8%増）だった。



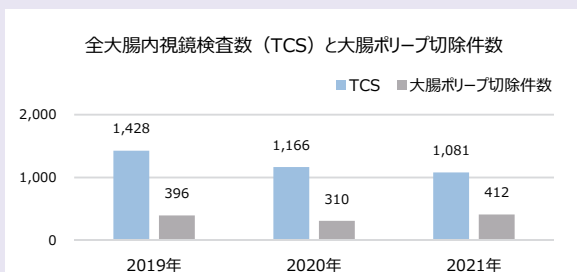
■事業報告

- 放射線治療照射について、照射回数は1,498回で、前年比103.1%であった。毎週木曜日に治療医の診察が行われるようになった。
- PET-CT件数は、814件（前年比121.9%）であった。4月より半導体検出器搭載装置が本格稼働した。
- 核医学検査件数は、340件（前年比92.2%）であった。

内視鏡センター 内視鏡課

■部門代表者
守護 晴彦、水口 賢

■2021年度のトピックス



■事業報告

- 全大腸内視鏡検査は1,081件、ポリープ切除術件数は412件（38.1%：CSP 267件/EMR 145件）と、2019年度と同等の件数を施行している。
- 内視鏡総件数は8,434件で、目標の8,000件を達成した。

放射線センター 放射線課

■部門代表者
角 弘諭、坂下 純司

■2021年度のトピックス



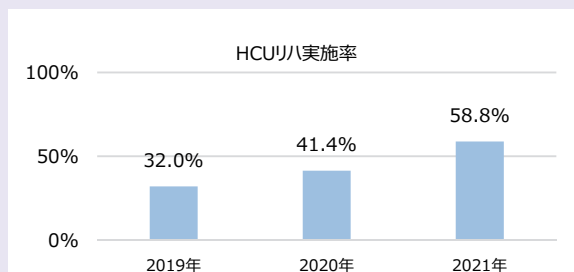
■事業報告

- マンモグラフィ検診施設・画像認定を更新した。これは日本乳がん検診精度管理中央機構施設・画像評価委員会での審査の結果、検診精度管理の線量・画像基準を満たすと認定されたものである。
- COVID-19に対する検査で、胸部CT撮影は肺炎の有無を診断するために重要な役割を果たす。これに課員全員がPPE着用にて対応した。

リハビリテーションセンター 理学療法課

■部門代表者
川北 慎一郎、田中 秀明

■2021年度のトピックス



■事業報告

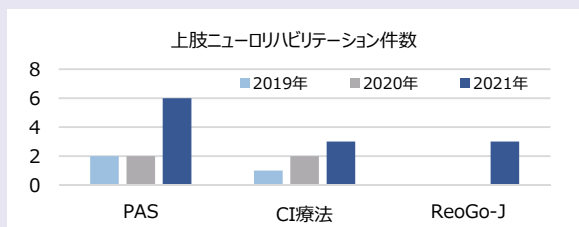
- HCUリハ依頼システムを立ち上げたことにより、HCUリハ実施率が41.4%から58.8%に向上した。
- 回復期リハ病棟で、状態悪化患者を早期に抽出し、適切な情報共有や対応を行った。
- 訪問リハ会議の仕組みを作り、対面・オンライン共に実施できる環境を構築し、64例全例に会議を実施した。
- フレイル対策チームを立ち上げ、運用を開始した。

リハビリテーションセンター 作業療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、川上 直子

■2021年度のトピックス



PAS：筋電制御式電気刺激 CI療法：麻痺側上肢集中練習
ReoGo-J：上肢ロボット型運動訓練装置

■事業報告

- ① 上肢ニューロリハビリテーションに取り組んでおり、3月下旬に導入したロボット型運動訓練装置の併用により今後さらなる充実が期待できる。
- ② 個々のスキルアップのために課内ラダー作成と自己研鑽の見直しを実施した。
- ③ 学術活動
学会発表6 論文2 講師4

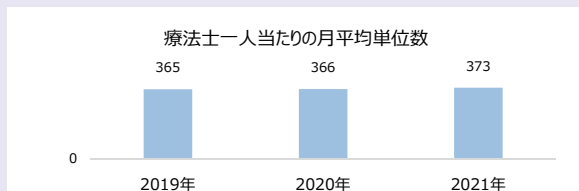
リハビリテーションセンター 言語療法課

■部門代表者名

川北 慎一郎、諏訪 美幸

■2021年度のトピックス

言語聴覚療法一人当たりの月平均単位数は、年々向上している。



■事業報告

- ① 言語聴覚療法における、療法士一人当たりの単位数は373単位（達成度：103%）であった。
- ② 認定言語聴覚士（聴覚障害領域）、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士を、各1名取得した。論文1編、学会・研究会で6演題発表した。
- ③ 職員数が少ない状態でも、臨床の質向上を目指す。

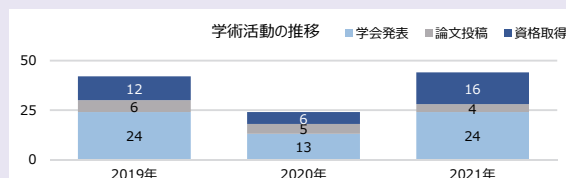
リハビリテーションセンター リハビリテーション教育研修センター

■部門代表者

川北 慎一郎、井舟 正秀

■2021年度のトピックス

リハスタッフの学術活動実績はコロナ禍で一旦低下したが、オンラインの普及で回復した（2019年度比105%）。



■事業報告

- ① 4段階のリハ職員共通評価にて目標とするステップアップ率60%を達した。
- ② コロナ禍によって新人の実習機会低下による臨床経験不足が危惧され、臨床実践上の基本的知識を補足するための研修プログラムを立案実施した。
- ③ リハ職員共通評価シートの評価結果を資格等級の評価へ投影できるアプリを作成し業務効率化を図った。

訪問リハビリステーション

■部門代表者

川北 慎一郎、小川 正人

■2021年度のトピックス

医師参加によるリハビリ会議の開催割合が増加した。



■事業報告

- ① 2021年度4月より介護報酬改定でリハビリ会議が必須となり、全利用者に対しリハビリ会議を実施した。（医師参加あり：56%、医師参加なし：44%）
- ② 医師参加によるリハビリ会議を促し、リハ計画の質向上を図った（グラフ参照）。
- ③ 会議の効率化を図るためICTを積極的に活用し、52件に実施。

第2章 法人方針・事業報告（恵寿総合病院）

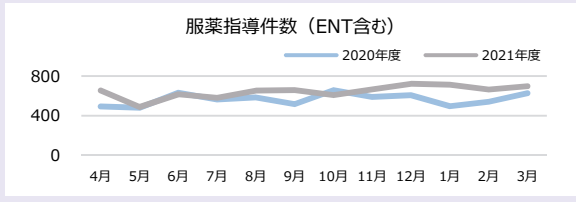
薬剤管理センター 薬剤課

■部門代表者

川村 研二、藤田 昌雄

■2021年度のトピックス

服薬指導件数は目標値月平均560件のところ、644件で目標を達成した。



■事業報告

- ① 退院時薬剤情報連携加算は目標値年間55件のところ、137件で目標を達成した。
- ② 薬剤総合評価調整加算は目標値年間27件のところ、46件で目標を達成した。
- ③ 学会発表を2名、論文執筆を1名が行った。
- ④ 認定実務実習指導薬剤師を1名が更新した。

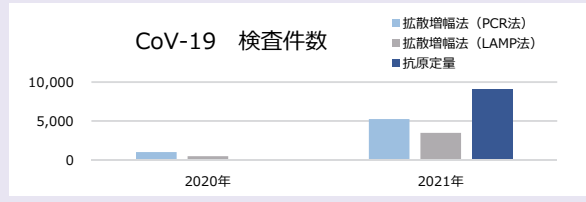
検査管理センター 臨床検査課

■部門代表者

西澤 永晃、尾田 真一

■2021年度のトピックス

新型コロナウイルス検査（遺伝子・抗原定量）件数が大幅に増加した。



■事業報告

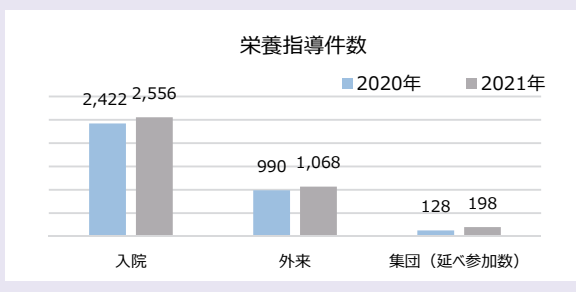
- ① 検体検査総件数 282,509件 前年比 +7.5%
- ② 生体検査総件数 32,033件 前年比 +5.4%
- ③ 新型コロナウイルス検査体制を強化し、実施総件数17,743件であった。
- ④ 日本臨床衛生検査技師会主催のタスクシフティング業務啓発事業における実技研修に8名受講した。

栄養管理センター 臨床栄養課

■部門代表者名

神野 正隆、前田 美穂

■2021年度のトピックス



事業報告

- ① 栄養指導の件数は、入院および外来、集団とも前年度と比較し増加した。栄養情報提供加算は大きく増加した。
- ② 新しい取り組みとして、在宅訪問栄養食事指導の実施に着手した。栄養指導に活用するための、介護食の調理動画を作成した。

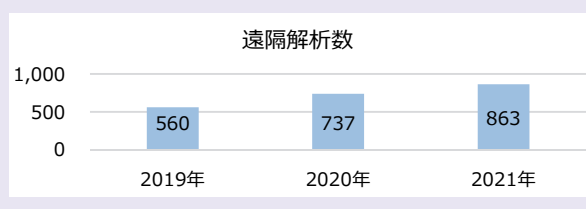
臨床工学センター 臨床工学課

■部門代表者

長谷川 公一、栃原 康則

■2021年度のトピックス

心臓植込型電気デバイスの遠隔モニタリング開始から5年が経過し、解析数は毎年増加で推移している。



■事業報告

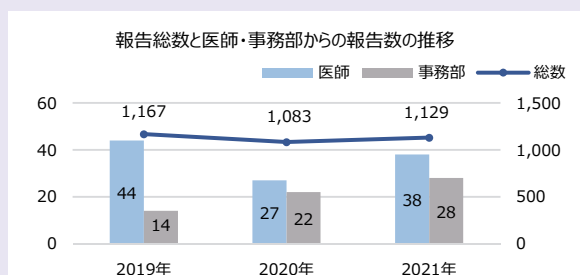
- ① 心臓植込型電気的デバイスの遠隔モニタリング支援に力を入れて遠隔解析数を増加させることで、定期外来検査期間延長につながり、対象患者の負担が軽減した。
- ② コロナ禍での生涯学習に対応し、多くのWeb開催の学会やセミナーに参加した。今後も学習姿勢を継続し、学会発表や学会認定資格取得などのキャリアアップに挑んでいきたい。

医療安全管理センター 医療安全管理課

■部門代表者

岡田 由恵、小谷 薫

■2021年度のトピックス



■事業報告

- ① 医療安全文化調査による安全文化定量的測定実施
強み：医療安全の推進に関わる上司の考え方と行動、エラーに関するフィードバックとコミュニケーション
弱み：出来事報告の姿勢 出来事報告の件数
- ② リスクマネジメント部会との協働による「定例ラウンド」「医療安全管理マニュアル作成」「医療安全推進週間」が定着した。

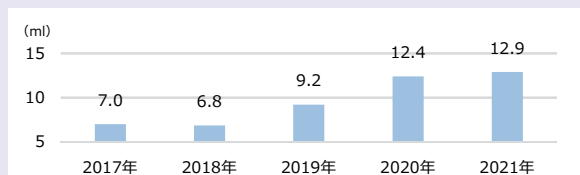
医療安全管理センター 感染制御課

■部門代表者

山崎 雅英、谷田部 美千代

■2021年度のトピックス

手指衛生実施に向けた活動を行い、病院全体の擦式アルコール手指消毒剤の月平均使用量が増加傾向にある。



■事業報告

- ① 新型コロナワクチン接種へのサポートを行い、職員、高齢者、基礎疾患を有する方への多数接種を実施した。
- ② 2022年2月3日より感染管理システムの稼働が開始。
- ③ 本館病棟にてクラスターと認定される新型コロナウイルス感染症の感染拡大を認めたが、感染者5名かつ最短の14日目で収束へ、18日目より病棟再稼働ができた。

臨床研修センター

■部門代表者

新井 隆成、松木 尊紀法

■2021年度のトピックス

研修医の推移	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1年次基幹型	1	6	5	4	5
1年次協力型	2	1	2	2	1
2年次基幹型	4	1	6	5	4

■事業報告

- ① 対面での病院説明会（レジナビフェア等）はすべて中止となり、代わりにオンラインでの病院説明会を開催した。医学生へ当院の紹介、研修プログラムのアピールをした。
- ② 2年次4名が修了。2年間で全員が論文作成、学会発表を行った。
- ③ 2022年4月採用の研修医は基幹型3名、協力型1名の4名となった。

看護師特定行為研修センター

■部門代表者

鎌田 徹、本橋 敏美、松木 尊紀法

■2021年度のトピックス

受講生	第1期生	第2期生	第3期生	第4期生	第5期生	第6期生
開始年月	2016年10月	2017年10月	2018年10月	2019年10月	2020年10月	2021年10月
院内	5	6	5	7	5	3
院外	0	1	1	2	0	2

■事業報告

- ① 区分別科目の追加
・ろう孔管理関連・循環動態に係る薬剤投与関連
・在宅・慢性期領域（パッケージ研修）
- ② 9/30 第5期生5名が修了した。
- ③ 10/1 第6期生5名の受講を開始した。そのうち外部から2名が受講。

医療事業統括部門 恵寿金沢病院

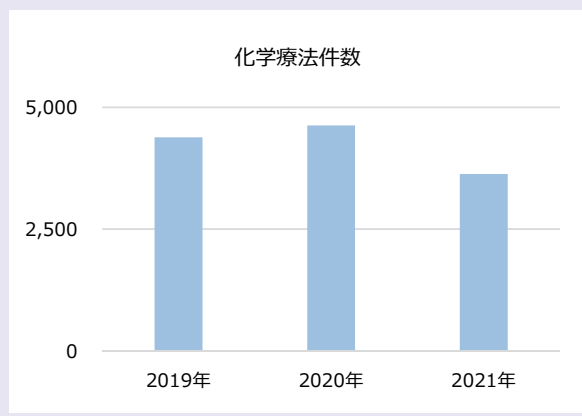
恵寿金沢病院

■ 病院長

上田 幹夫

■ 2021年度のトピックス

化学療法件数は昨年比78.5%と大きく減少しているが、新型コロナウイルスによる院内クラスター発生により診療の中断を余儀なくされた影響が大きい。しかし感染予防とゾーニングの徹底により22日目には収束を迎えることができた。職員は、神経をすり減らしながらも被害を最小限に抑えることができた。



■ 事業報告

- ① 金沢市内における血液疾患を担当する医療機関の変化に合わせ、血液疾患のみならず一般的な疾患も視野に入れ、医療機関・介護施設への連携強化を始めた。初年度として各診療科医師が訪問活動を行い、血液疾患以外の診療をアピールした。診療の幅を広げ、患者を受け入れることで、更なる地域貢献を進めたい。
紹介件数：579件（前年比：84.5%）
- ② 「築け 未来を！」の単年度目標に合わせ、DX化を推進した。オンライン資格認証・ドック受検者のPHR（商標名：カルテコ）を導入した。カルテコでは、検査結果やレントゲン・内視鏡画像をスマホで閲覧が可能となった。すこやか検診のICT化を進め、業務効率の改善やムダの削減に努めた結果、昨年度より多くの受検者の受け入れに繋がった。
人間ドック受検者数：2,222人
（前年比：106.9%）
- ③ 入院患者数：22,078人（前年比：92.4%）
無菌室利用件数：4,298件（前年比：105.8%）
入院患者数は昨年を下回ったが、無菌室利用件数は増加した。
- ④ 新型コロナワクチン接種件数：3,898件

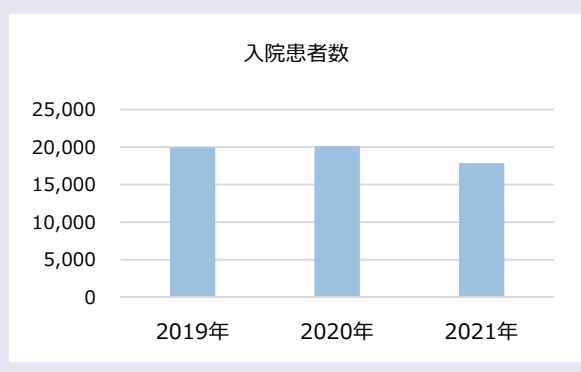
内科、血液疾患・骨髄腫センター

■所属医師

村田 了一、上田 幹夫、佐賀 務、山下 剛史、辻 紀章、
松浦 恵里香

■2021年度のトピックス

新型コロナウイルスの影響に加え、金沢市内、加賀方面の病院で血液内科新設や常勤医増員があり、当院への患者紹介が減少した。収益を回復・維持するため一般内科の診療にも注力する方針とした。具体的な方策として近隣の医療機関に伺い、当院の特色を説明のうえ患者さんの紹介を依頼した。今後もこの活動は継続していく。



■事業報告

- ① 新型コロナウイルスによる院内クラスター発生により、入院患者数は大きく減少した。血液疾患における化学療法が多い当科では、それに伴い化学療法も減少した。
入院患者数：17,860人（前年比：88.8%）
入院化学療法：2,949件（前年比：81.9%）
- ② 同じく院内クラスターの発生により外来診療を止めるに至り外来患者数・外来化学療法件数も大きく減少した。
外来患者数：10,030人（前年比：93.4%）
外来化学療法：563件（前年比：64.1%）

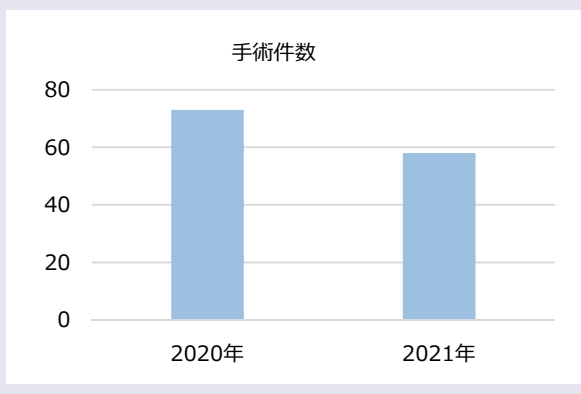
整形外科・リウマチ科

■所属医師

相馬 大輔、辻口 友貴

■2021年度のトピックス

新型コロナウイルスの蔓延や院内クラスターの発生により入院・手術が制約される期間があったことで、診療に影響が及び、手術件数は昨年度より減少している。一方内科との協力が強化され、感染に十分留意しながら、外来・手術加療に積極的に取り組む体制の構築となった。



■事業報告

- ① 診療体制は、2021年7月より常勤医2名となった。これにより、今まで以上に病診連携を密に取り、金沢市内に限らず他の地区からでも紹介をいただき、外来・手術加療が可能な体制を整えている。体制変更により入院患者数は、昨年度より大きく増加した。
入院患者数：2,817人（前年比：110.0%）
- ② 手術適応がある紹介患者に対しては、可及的早期に手術を施行し、症例によってその後速やかに紹介元に逆紹介させていただくことを当科の特徴としている。
手術件数：58件（前年比：79.5%）
- ④ 外来患者数も外来休止により大きく減少した。
外来患者数：7,580人（前年比：89.3%）

外科

■所属医師

道輪 良男

■2021年度のトピックス

他院で早急に対応困難な手術症例に対しては迅速に対応した。生検依頼が多かったが、全身麻酔が必要な症例もあり、局所麻酔の場合は紹介された同日に、全身麻酔の場合でも紹介日より平均5日後には手術可能であった。

他院で早急に対応困難であった症例（n=12）

年齢（歳）	28-80（中央値：63）
外来：入院	6：6
局麻：全麻	8：4
術式（人）	リンパ節生検（鼠径部（5）、腋窩（3）、腹腔内（2）） 腋窩腫瘍（1）、腹壁瘢痕ヘルニア（1）
手術までの日数*（平均）	局麻：0、全麻：5

*：紹介から手術までの日数（0は紹介日同日）

■事業報告

- ① 患者数は入院、外来ともに大きく減少は無かった。
入院患者数：1,126人（前年比：117.4%）
外来患者数：1,299人（前年比：100.1%）
- ② 緩和治療目的の入院は5人（紹介：3人、原疾患：肺癌2人、胃癌、乳癌、結腸癌各1人）
- ③ 日本緩和医療学会と日本乳癌学会にて発表を行った。
乳癌のoligometastasisについては継続して検討していきたいと考えている。
- ④ エンド・オブ・ライフケアの活動の一つとして、当院がんサロン（こもれびサロン）で、「笑い」についてのお話をした。

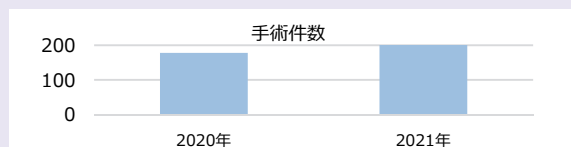
眼科

■所属医師

繰納 勉

■2021年度のトピックス

従来よりの涙道手術を中心に、白内障手術や金沢大学病院眼科の協力のもとでの角結膜手術を積極的に行い、手術件数を大幅に増加させた。（前年比：114.0%）



■事業報告

- ① 新型コロナウイルスによる院内クラスター発生などが起こり診療や手術に影響が及んだが、入院・外来患者数共に昨年度を上回った。
入院患者数：275人（前年比：102.6%）
外来患者数：2,267人（前年比：107.7%）

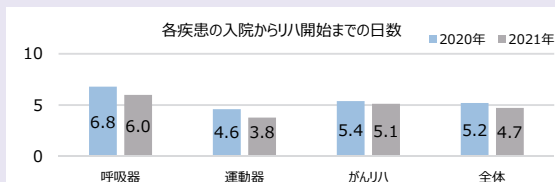
理学療法課

■部門代表者

柴田 真行

■2021年度のトピックス

他職種と連携し、入院からリハビリ開始までの日数が短縮し、早期リハビリが実施できた。



■事業報告

- ① 医師と連携し、術前からのリハビリ処方実施及び化学療法での繰り返し入院患者の入院翌日からのリハビリの継続を行った。
- ② 病棟NS、MSWと連携し、病棟カンファレンス等でリハビリの必要な方を検討し、主治医に相談、早期リハビリに繋げることができた。

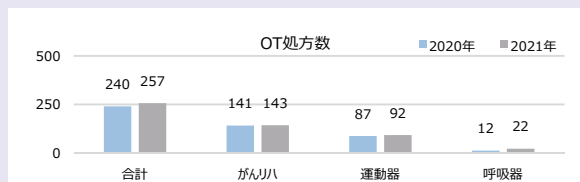
作業療法課

■部門代表者

米山 千尋

■2021年度のトピックス

カンファレンス参加や医師・看護師から情報収集し、OT処方者の獲得に繋げた。



■事業報告

- ① 整形外科手術予定患者に対し、術前からOT処方を依頼し、リハ開始日数の短縮に繋げている。OT処方者全体（運動器）でリハ開始日数は2020年度3.4日から2021年度2.9日に短縮した。
- ② 摂食機能療法算定に向けて、他職種と取り組みを開始。1名に対し算定できた。

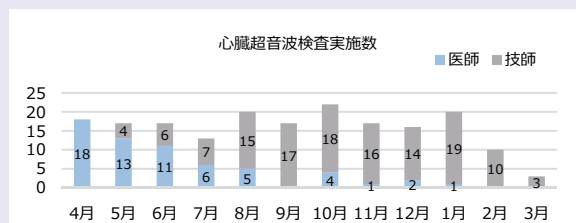
臨床検査課

■部門代表者

長面 佳央理

■2021年度のトピックス

臨床検査技師による心臓超音波検査を開始した。



■事業報告

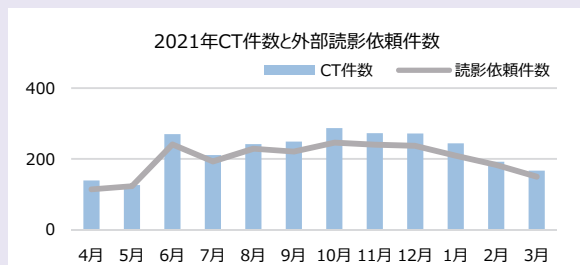
- ① 今まで循環器内科医師が行っていた心臓超音波検査業務をタスクシフトし、検査技師による実施数が大幅に増加した。
- ② 2021年9月より新型コロナウイルス核酸検査用機器を導入し、2022年3月までに約150件の検査を実施した。

放射線課

■部門代表者

武村 真弓

■2021年度のトピックス



■事業報告

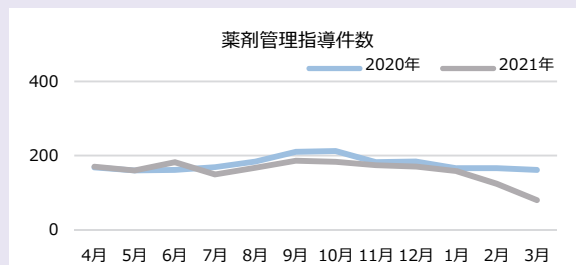
- ① CT所見の電子カルテへの自動取り込みシステムが稼働し、依頼文の入力、所見の取り込みが自動化され業務が効率化された。
- ② 日本診療放射線技師会の告示研修（義務研修）の事前研修（WEB研修）を全員が受講した。
- ③ マンモグラフィ検診施設・画像認定を更新した。

薬剤課

■部門代表者

宮森 久志

■2021年度のトピックス



■事業報告

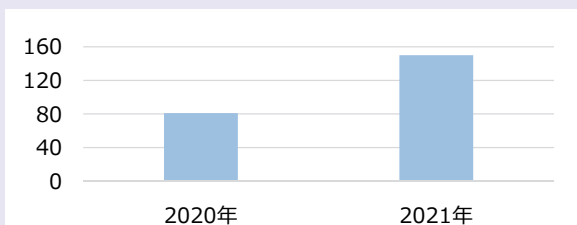
- ① 薬学部実習生1名を受け入れた。
- ② COVID-19対応経験を踏まえて、緊急時対応マニュアルの改訂を実施した。
- ③ COVID-19ワクチンの管理・供給体制の構築を行った。
- ④ 院内処方箋に腎機能掲載の機能を追加したことで、処方箋上で腎機能に応じた投与量評価が可能になった。

臨床栄養課

- 部門代表者名
羽根 由子

■ 2021年度のトピックス

NSTカンファレンス実施件数



■ 事業報告

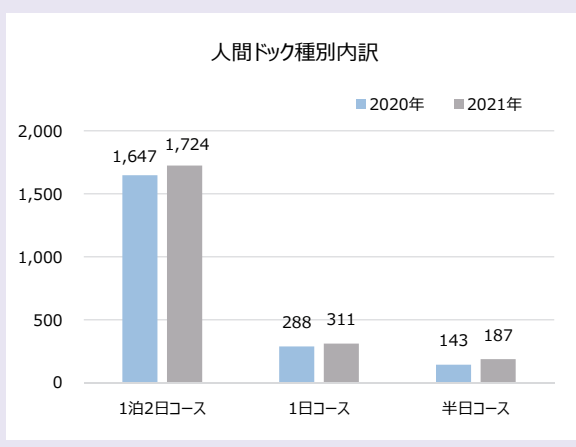
- ① NSTカンファレンスの継続実施
各病棟にて週1回のカンファレンスを継続した。
150件/年実施し、多職種で患者の栄養状態改善にむけ情報共有を行った。
- ② 栄養指導
入院・外来あわせ467件/年実施した。

人間ドックセンター

- 所属医師
上田 幹夫、豊田 絵子、土田 達、佐賀 務

■ 2021年度のトピックス

人間ドック受検者数 2,222人（前年度 2,078人）
昨年度と比較し144人増。1泊2日コースが1,724（+77人）で全体の77.5%となった。1日コース、半日コースもそれぞれ23人、44人増加した。



■ 事業報告

- ① ドック受検者数は、2020年度コロナ禍のために2078人まで落ち込んだが、2021年度は2,222人まで回復した。これは、2019年度の実績とほぼ同数であり、稼働期間は2019年度より1月間少なかったが、受検者の協力と担当職員の努力により回復したと思われる。
- ② NTTグループでは、5歳刻みのコアドックとして、遺伝子検査Genovisionを推奨している。当院では2021年度に導入し436人の検査を実施した。体質や将来の病気（がん、生活習慣病、脳や神経の病気など）の発症リスクを相対的に示し、今後の健診やドックの方向に影響を与えるかもしれないと思われる。高額な検査であり、収益性には貢献している。
- ③ オプション検査としてがん検診（CT、内視鏡、腫瘍マーカーなど）、生活習慣病健診（動脈硬化、脳MRI、内臓脂肪）、アレルギー検査などを実施している。今年度は3,357件の検査を実施し、毎年30%を超える増加率となっており、健康志向の増大がうかがえる。
- ④ NTT西日本健康管理センター産業医を受託し継続している。佐賀務医師が週に3日同センターに出向し、職場健診やドック受検後の二次検査や診療につなぐ業務もこなしており、当院の受診患者数増にも貢献している。

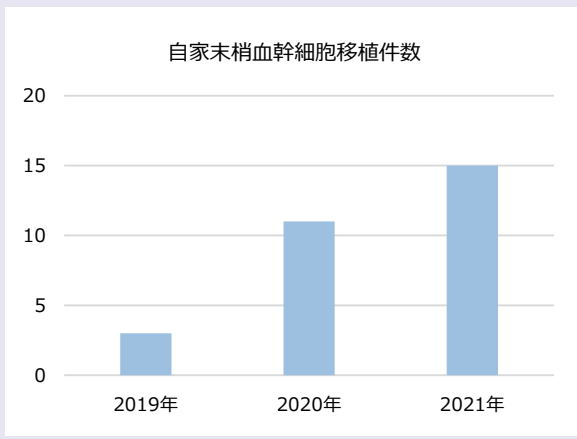
看護部

■看護部長

前大道 綾子

■2021年度のトピックス

年度ごとに自家末梢血幹細胞移植が増加傾向にある。主に多発性骨髄腫患者の移植が増加した。重症度、医療・看護必要度の割合は、昨年より上昇し43.4%であった。化学療法の件数は、入院、外来とも前年を下回った。



■事業報告

- ① 新型コロナウイルス感染症への対応
 - ・ 7月には当院で初めての新型コロナウイルス陽性患者が発生したが、早々に受け入れ病院へ転院した。2022年2月に新型コロナウイルス陽性者が24名となるクラスターが病棟で発生した。看護部内で、応援体制をとり部署を超えた勤務管理を行った。
 - ・ ワクチン接種を医事課と協力・実施した。
 - ・ 金沢市主催の、市民向け新型コロナワクチン接種の看護師として4名参加した。
 - ・ 発熱外来対応の継続
- ② 入退院支援のため外来・病棟が連携し患者の入院前から入院中、入院後の必要な情報を栄養課・リハビリ課も併せて記録・経過を追って確認できる「退院調整進捗シート」の活用を開始した。
- ③ 包括ケア病床の稼働上昇のため、対象病床の変更や、医事課との連携による受け入れ患者の拡大を行った。
- ④ 加算取得へ向けた活動のためせん妄ハイリスク加算、摂食機能療法加算、退院時共同指導料など加算に対し、弱い部分を学習し、他部署との連携により取得できるよう取り組んだ。

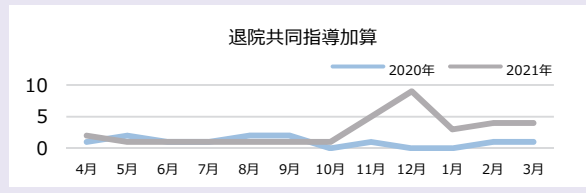
けいじゅ金沢訪問看護ステーション

■部門代表者

藪内 照美

■2021年度のトピックス

退院共同指導加算の算定の取漏れがないように、病棟と協力し件数を増やした。



■事業報告

- ① 2019年度からステーションとなり、2020年度から加算が少しずつ取れるようになった。2021年度より定期的に化学療法で入院される利用者の退院共同指導をもれなく行った。
- ② 加算算定件数は、昨年度は10件であったが、病棟との協力もあり今年度は33件に増やすことができた。

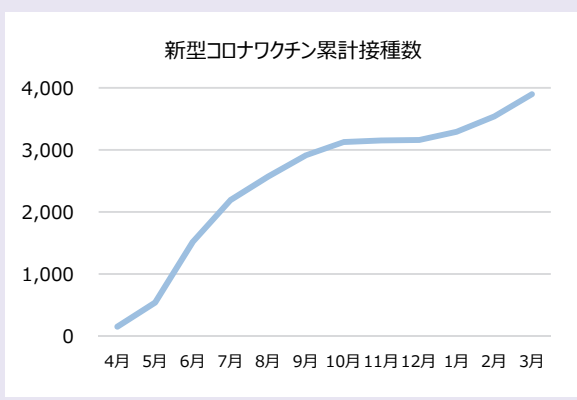
事務部

■ 部長

森田 均

■ 2021年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症予防を推進するため、診療部・看護部と協力して、ワクチン接種を積極的に受け入れ、一年間で3,898回の接種を実施した。院内でのスペースがない中で、衝立やアクリル板などで工夫して、感染予防対策を実施しながら取り組んだ。



■ 事業報告

- ① 開業医や介護施設などへの訪問
地域の開業医や介護施設に対して、血液内科疾患以外の診療が実施できることをアピールするため、内科・外科・整形外科・眼科の各医師と共に、新型コロナの感染状況を考慮しながら訪問を行った。血液内科疾患以外の患者の紹介が可能という認識を連携医療機関に周知できたので、今後連携を深め、紹介患者を受け入れ、地域医療に貢献していきたい。
- ② 食の力で元気を！
前年度に引き続き「食の力で元気を！」というテーマで地域の飲食店と連携し、職員向けの限定ランチを手配し、職員の活力アップに繋げた。今年度は特に「健康」に力を入れ、野菜多めや雑穀米使用など健康を意識したメニューを企画して、職員の健康意識作りにも寄与した。
- ③ いいね運動
コロナ禍でもポジティブな気持ちになれるような温かい職場環境や職場の活性化を目指し、全職員を対象として実施。1人12枚配布し、実施期間5ヶ月で、406枚が所定のホワイトボードに掲示され、職員のモチベーションアップに繋げた。

田鶴浜診療所

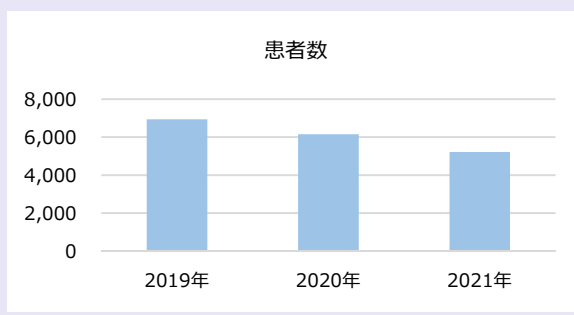
■所属医師

廣正 修一

■2021年度のトピックス

コロナ禍での受診控えにより、診察患者数は大幅に減少した。その中で、患者の訴えを多面的に聞き評価し、相談に乗るよう努めた。

市町の新型コロナウイルスワクチン集団接種へ積極的に参加し、自院でも個別接種を積極的に行った。また、地域住民に向けて新型コロナウイルスワクチン接種の重要性について広報した。



■事業報告

- ① 定期的に検査を実施し、疾病管理を確実にしている。
心電図：902件（前年比：98.2%）
レントゲン：1,098件（前年比：97.3%）
採血：1,734件（前年比：85.7%）
ABI：526件（前年比：82.3%）
骨密度：506件（前年比：81.9%）
- ② 心臓・血管系などを中心とした生活習慣病、骨粗鬆症、睡眠障害などのスクリーニング検査及び管理を全面に出し、「元気で長生きするために」をテーマに掲げ、プライマリ医療を実践している。
- ③ コロナ禍の中で、患者が何を求めているのかを最も重要な点と考え診察に当たった。具体的には患者さんと話し合い、検査の予定などを決め、患者さんの全身的な疾患に対する相談や精神的な悩みの相談等、多面的な相談に乗るよう努めている。
- ④ 新型コロナウイルスワクチン接種に積極的に取り組み、地域住民の感染予防に貢献している。自院での新型コロナウイルスワクチン接種件数は、合計785件であった。現在もワクチン接種を継続している。

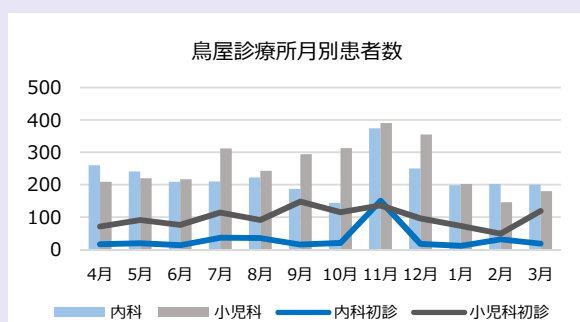
鳥屋診療所いきいき

■所属医師

斎藤 靖人、中谷 茂和

■2021年度のトピックス

- ① 鳥屋診療所
再診・初診増加を目指し、患者に寄り添った診療を行い、定期検査を抜けなく行い疾病管理を継続した。
- ② いきいき
全利用者にリハビリ会議を開催して目標を明確化し、ケアマネ・家族と共有した。



■事業報告

- ① 鳥屋診療所
総患者数は、6,375人で、前年（6,273人）より少し増加したが、1人当たりの単価が前年度比6.6%減少した。また、予防接種・健診数も前年度比5.4%減少した。地域唯一の小児科があるため新患、再来ともに患者数を増やしていきたい。
今後も継続して、診察のみの患者に対して、定期的な検査等を行い、疾病管理を確実にやっていく。
- ② いきいき
延利用者数は、2,561人で、前年度比15.1%増、稼働率も平均56.1%で前年度比5.1%増加したが、今年度の目標は下回った。その人らしさを取り戻し、日常生活の自立、社会参加を目標とし、リハビリ会議を開催して利用者の目標を明確にしてリハビリを行っていることで、利用者からは好評価を得ている。ケアマネ等に強みとしてアピールして利用者増につなげていきたい。また、コロナ禍で高齢者サロンでの講師は中止となったが、次年度の依頼は来ているため、継続して地域に董仙会のアピールを行ってきたい。

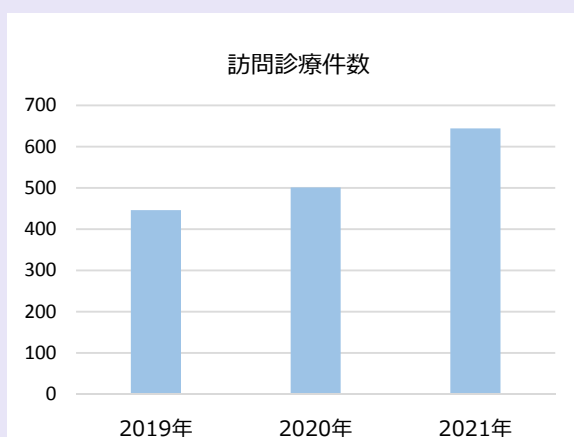
恵寿ローレルクリニック

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、宮田 潤

■2021年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症により患者数が減少する中、通院することが困難な患者さんの自宅に訪問し、患者さんの健康管理のため診療や指導を行った。



■事業報告

- ① 2021年度実績
総患者数：9,418人（前年比：108.1%）
訪問診療・往診件数：644件
（前年比：128.5%）
- ② 在宅支援診療所
10月より、在宅支援診療所として在宅医療・往診を行っている。通院ができない患者さんのために、ご自宅で安心して診療が受けられるように24時間365日サポートできる体制を整え、他の医療機関や訪問看護ステーションとも連携を取りながら診療している。
- ③ 時間外対応加算
5月より、時間外対応加算1の算定を開始した。診療時間以外の時間において、患者さん又はそのご家族等から電話等により療養に関する意見を求められた場合に、常時対応できる体制を構築した。
- ④ 新型コロナウイルスワクチン接種
新型コロナウイルスワクチン接種を積極的に実施した。1・2回目ワクチン接種は、5月～11月にかけて実施し、合計2,962件実施した。3回目ワクチン接種も積極的に実施し、地域の感染予防に貢献している。

恵寿鳩ヶ丘クリニック

■所属医師

宮本 正俊

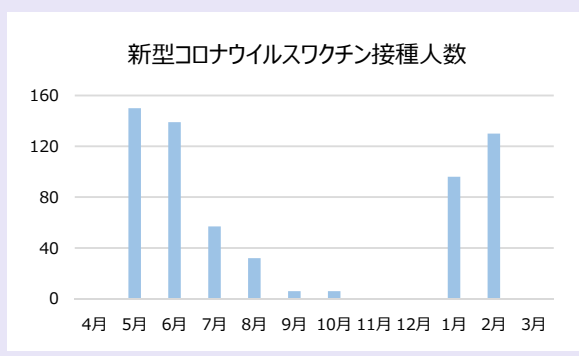
■2021年度のトピックス

患者数650人で昨年・一昨年より増加した。

(2020年度630人 2019年度689人)

今期は主に新型コロナウイルスワクチン接種が事業の中心となった。年間接種件数は616件であった。

2018年まで増加傾向だった胃瘻交換者数は、2021年度27人、2019年度46人、2018年度58人と減少傾向。



■事業報告

- ① 新型コロナウイルスワクチン接種事業について、主に穴水ライフサポートセンター・恵寿鳩ヶ丘入所者、職員を対象に行い、入所者の感染予防に万全を期した。
- ② 主に恵寿鳩ヶ丘入所者のレントゲン一般・CT撮影を行い、病気の早期発見・治療に努めた。また入所者の胃瘻交換及び経鼻経管栄養患者の胃管カテーテル交換後の造影撮影等を行った。
- ③ 徳充会穴水ライフサポートセンターの入所者の嘱託医として診察・検査・処方を行い、健康管理に努めた。診察・検査の結果、専門医療機関への受診が必要と判断された方については、恵寿総合病院はじめ地域の医療機関と連携を図った。
- ④ 穴水町の特設健診事業及び近隣市町のインフルエンザワクチン・肺炎球菌ワクチン等の予防接種事業に参加し、地域住民への予防医療に努めた。

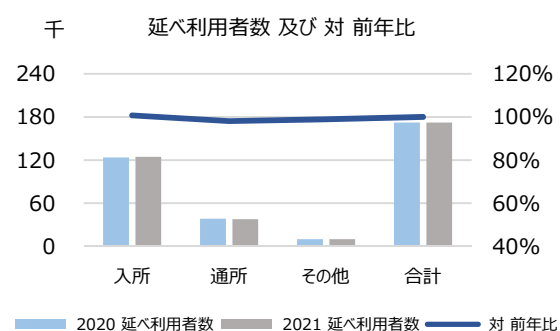
介護事業統括部門

■部門代表者

吉田 茂和

■2021年度のトピックス

前年に続き、本年度も新型コロナウイルスの感染対策や対応に悩まされる年となった。とはいえ、基本的な感染対策が定着してきたことなどから入所施設への影響は比較的小さく、在宅、特に通所事業に苦戦が見られたものの、介護事業全体としてはほぼ前年度並みの利用者を確保することができた。



① 介護見守りシステム「Neos+Care」の導入

本年度、和光苑をはじめ入所系の4施設に合計38台の介護ロボット見守りシステム「Neos+Care」を導入した。これにより利用者の危険な動作を早期に検知し、手元のスマートフォンで確認することが可能となった。高い精度で使いこなすには、機器の設定や操作などに熟達する必要があるが、これから実績を積み重ねることによって、今後ますます利用者の安全と職員の業務負担軽減に役立つものと期待している。

③ マイスター研修の実施

介護職員のスキルアップを目的に「Foot活マイスター研修」の継続実施に加え、新たに持ち上げない介護のスキルを磨くための「ノーリフトマイスター研修」を実施した。Foot活プロジェクトでは、歩行解析デバイス AYUMIEYEを増台し、これまで以上に手軽に計測できる環境を整えた。

⑥ 「オミ・ビスタ」の導入

新しいレクリエーション機器として「オミ・ビスタ」を導入した。これまでのように準備や片付けに手間がかからず、動く映像や音による刺激で、利用者の能動的な運動を促したり、記憶を刺激したりすることができ、楽しみながらレクリエーションを行うことができるようになった。

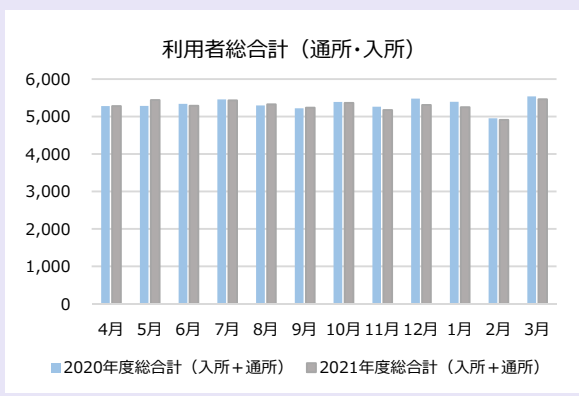
介護老人保健施設 和光苑

■部門代表者

渡邊 博之、奥本 健司

■2021年度のトピックス

新型コロナウイルスの波が繰り返される中ではあったが、新たな試みとして、地域に向けての健康教室や「何でも相談室」を開設することができた。また、高機能換気設備、見守りロボット「Neos+Care」15台の導入、お看取り部屋として1部屋を改修し、「桔梗の間」を設置する事ができた。



■事業報告

① 今期目標と達成度

入所稼働率98.4%（前年比 +0.4%）

通所稼働率77.7%（前年比 -4.5%）

入所は1年を通じて、ベッドコントロールが上手くできた。通所は4～6月は稼働率80%を超えていたが、それ以降急激にダウン、新規利用はあるが回復できなかった。

② 教育研修

取得資格は以下のとおりである。

介護福祉士4名（田鶴浜高新卒4名）、リスクマネジャー1名、技能実習指導員5名、技能実習生活指導員4名、介護福祉士養成施設実習指導者研修2名、介護技能実習初級試験1名合格

③ 今後の課題

新型コロナウイルスについて、職員・入所者共に感染者を出さなかった。今後も継続していく。通所の利用者数や稼働率が低迷した為、今後は顧客の獲得に力を入れていく必要があり、SNSを活用して、幅広く取り組み状況を発信していく。また、新たなIoT機器の模索、新人技能実習生5名を受け入れ、懇切丁寧な指導を実現できるようスタッフ一丸となり取り組んでいく。

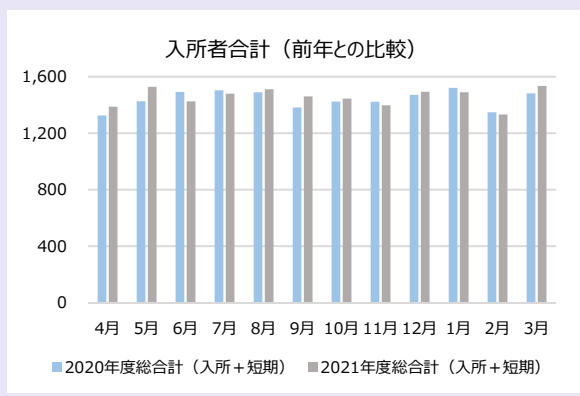
介護老人保健施設 鶴友苑

■部門代表者

廣正 修一、古木 恵実子

■2021年度のトピックス

コロナ禍で通所の利用者は伸び悩んだが、ベッドコントロールの努力により入所においては前年度に比べ増加させることができ、収入合計も前年度に比べ増収することができた。また、入院数もわずかではあるが減少した。



■事業報告

① 今期目標と達成度

入所稼働率 95.8%（前年比+1.0%）

通所稼働率 75.6%（前年比-3.5%）

利用延人数(入所、短期入所)：17,492名

（前年比+1.1%）

”（通所リハビリ） 5,651名（前年比-7.3%）

短期集中リハビリ加算 2,089件（前年比+374件）

認知症 ” 573件（前年比+14件）

ターミナル加算 88件（前年比+24件）

所定疾患療養費加算 91件（前年比+42件）

褥瘡マネジメント加算 617件（前年比+420件）

入退所時加算 135件（前年比+36件）

入院者数 32件（前年比-2件）

在宅復帰率 57.8%（R4.3末現在）

在宅復帰者 49名（前年比+14名）

② 新たな取り組みとして、介護相談窓口を開設し、9件の相談があった。エアロバイク・トレッドミルなどのリハビリ機器や予測型見守りシステム「Neos+Care」を導入した。

③ ノーリフトマイスター研修4名、Foot活マイスター研修3名が修了した。

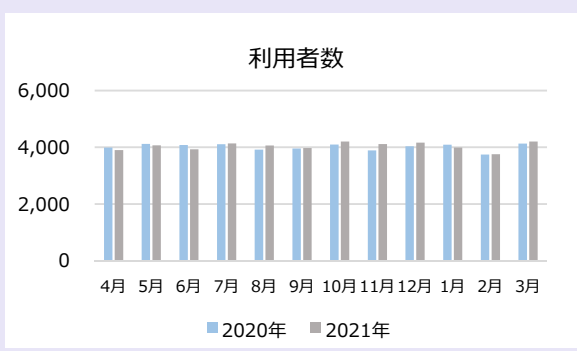
介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

■部門代表者

宮本 正俊、岡田 亮一

■2021年度のトピックス

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り、安心安全を追及した。結果、利用者に感染者を一人も出さず、年間延べ利用者数も前年比100.7%増となった。またACPIに関して、全職員で取り組み、利用者一人ひとりに寄り添ったケアの仕組みづくり、事例研究をTQMで年間を通じて行った。



■事業報告

- ① 年間延べ利用者数は、48,499人だった。
- ② 新型コロナ感染症対策を徹底して継続した。全職員研修（防護具のつけ方）等を実施した。
- ③ ご利用者のご家族が気軽に会えないことへのストレスケア対応としてオンライン面会を継続し、1日平均4～8件の利用があった。
- ④ 「アドバンス・ケア・プランニング」について全職員で取り組み、各職種代表者が神戸大学オンライン全国研修受講後、院内グループワーク・研修を実施した。オリジナルパンフレットの作成や各フロアで事例研究を行い、TQM大会で取り組んだ内容を発表し優秀賞を受賞した。
- ⑤ 石川県ICT・IoT活用事業の一環として、見守り介護機器「Neos+Care」13台導入した。
- ⑥ ノーリフト介護（持ち上げない介護）のさらなる推進のため、車イス型個浴槽を増設し、利用者職員双方に笑顔が増えた。ノーリフトマスターが4名に増えた。
- ⑦ Foot活マスターが2名に増えた。
- ⑧ シルバー世代の方の積極的採用を行い、多様な働き方が定着した。介護専門職との役割分担の見直しを継続していく。

在宅複合施設 ほのぼの

■部門代表者

諏訪 勝志

■2021年度のトピックス

iPadを使用したレクリエーション（ゲーム、作品作りなど）、YouTubeを活用した各種体操などを取り入れ、各年代層に対応できるようにレクリエーションを工夫した。短期入所では、見守り介護ロボット「Neos+Care」を導入し、利用者の転倒・転落事故減少、職員負担軽減に取り組んだ。

取り組んだレクリエーション内容

全体	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeの各種体操 ・季節に合わせた動画（花火・紅葉など） ・名所訪問で疑似旅行 など
小グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・早口言葉 ・脳トレ ・ことわざ、 ・作品作り動画（クリスマスリース、コスモスなど） ・ゲーム ・クイズ ・動物セラピー
個別	<ul style="list-style-type: none"> ・麻雀 ・映画鑑賞 など

■事業報告

- ① 今期目標と達成度
 - 稼働率目標：通所介護84.0%、短期入所86.0%
 - 通所介護稼働率：76.1% 達成率90.6%
 - 短期入所稼働率：77.9% 達成率90.6%
 - 新型コロナ感染拡大の影響もあり、稼働率が伸び悩んだため、目標達成できなかった。
- ② 教育研修
 - ノーリフトマスター2名、Foot活マスター1名取得し、学んだことを業務や職員指導に活かしている。オンライン研修受講など、スキルアップのために個々で研修会等へも参加している。また、LIFEデータの提出により、個々の利用者を再評価する機会が増え、支援に活かす取り組みを行っている。
- ③ 今後の課題
 - 通所介護・短期入所併設施設の強み、施設の取り組みをアピールし、利用したい施設を目指し、稼働率向上に努める。また、Foot活プロジェクトの推進で利用者を元気にし、ノーリフティングの推進で働きやすい職場環境を目指す。見守り介護ロボット「Neos+Care」の導入により、転倒・転落件数を減少させ、より安全・安心して利用していただけることをアピールしていく。

デイサービスセンター いこい

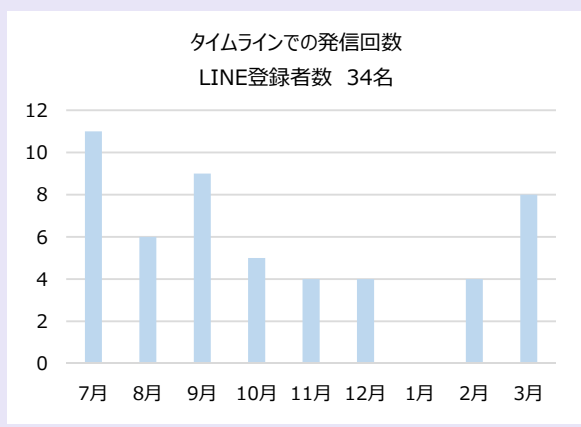
■部門代表者

愛徳 亜矢

■2021年度のトピックス

LINEを使って、家族にいこいでの様子をリアルタイムで発信するサービスを開始した。LINEの登録者を徐々に増やし、家族の満足度、信頼感の向上につなげることができた。

(TQM大会 優秀賞)



■事業報告

① 今期目標と達成度

目標稼働率82%のところ、76.1%で達成率は93%だった。5月には新型コロナの影響により、12日間営業を休止した。年間を通して、コロナによる自粛もあり、稼働率は前年に及ばなかった。

個別機能訓練加算は6,389件で、利用者全体の95.4%に訓練を実施した（前年比 +2.9%）

新たに事業所評価加算を取得した。

③ 教育研修

介護福祉士資格を1名が取得した。

Foot活マイスター研修とノーリフトマイスター研修を各1名が修了した。

⑥ 今後の課題

新規利用者を獲得し稼働率を上げるため、地域の方へのPR活動を継続して行っていく。

オンラインツールを活用して、ケアマネと密な情報共有ができる体制を構築する。そのためのオンラインツールに関する学習に職員全員で取り組んでいく。

資格取得者を増やすため、それぞれのスキルアップを支援していく。

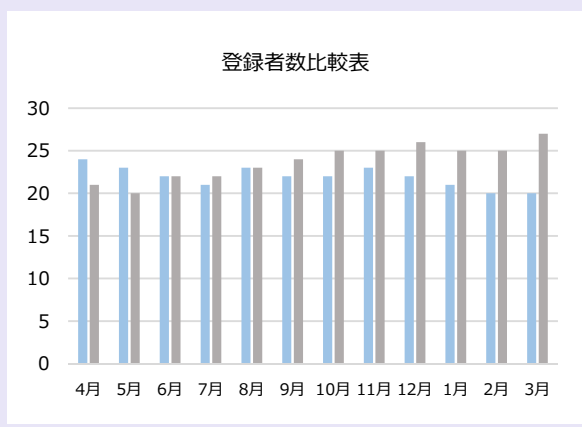
けいじゅ一本杉

■部門代表者

高木 ひとみ

■2021年度のトピックス

目標登録者数26名のところ、月平均23.8名で達成率は91.5%だった。ローレルハイツからのサービス利用や、一本杉地域の方の利用が増えた。また、地域外からの相談にも柔軟に対応することができ、登録者数の増加に繋がった。



■事業報告

① Wi-Fiの整備を行い、PC・タブレットを活用した取り組みに力を入れた。体操、脳トレ、レクリエーションなど利用者が参加できるものや、家族へのオンライン配信、職員の研修など多方面でオンラインを活用した。

② けいじゅ一本杉 1Fの地域交流スペースを活用して卓球大会やスライドショー、園芸など利用者が活躍できる取り組みを企画した。

③ 一本杉公園朝市で利用者と一緒に作った柚子みそを配布するなど、地域の方と触れ合うことができる行事を企画した。

<今年度の取り組み>

一本杉公園 清掃活動、習字教室、コミュニティーセンターでスタンプ作り、梅干し・ジャガイモ掘り、実習生受け入れ、感謝祭、柚子みそ・ふりかけ作り、お楽しみ会（卓球大会）、みそ作り、ひな祭りのおやつ作り

⑥ 董仙会介護グランプリにけいじゅ一本杉より1名がエントリーし、介護技術を披露した。

⑦ けいじゅデリカサプライセンターの食事配送を導入し、安心して食事の提供ができるようになり、職員の本来業務の見直しにつながった。

恵寿みおや

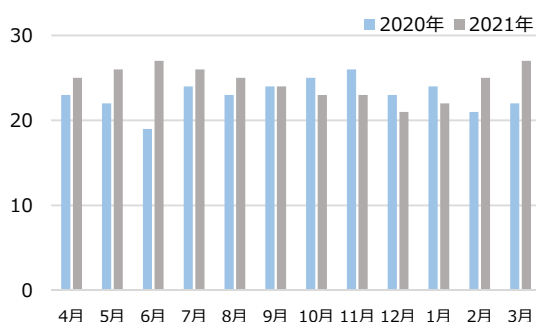
■部門代表者

筒井 静恵

■2021年度のトピックス

今年度の上半期には登録者数が比較的安定して推移していたが、下半期より施設入所、入院などが重なり、新規の相談も少なく登録者数が激減していた。年明けより新規の相談件数も増え、登録者数も徐々に回復することができた。

登録者比較表



■事業報告

- ① 目標登録人数29名のところ、月平均24.5名で達成度は84.5%だった。
- ② 職員講師によるみらいカフェの開催を10回以上計画していたが、4月のフラワーリース作り以降は感染拡大により開催見送りとなった。
- ③ 資格取得者は以下の通りである。
介護福祉士1名、認知症ケア指導管理士1名
- ④ Foot活マスター研修を1名が修了し、Foot活マスターとしてFoot活体操や歩行練習活動を推進している。
- ⑤ ノーリフトマスター研修を2名が修了した。
- ⑥ 今後の課題は、新規登録者の獲得およびITの活用である。新規登録者の獲得に向けて、地域の方への情報発信を継続し、みらいカフェなど地域に根差した活動を今後も企画していく。IT活用については、オンラインツールを活用した取り組みを取り入れていくために、職員全員で積極的に情報収集・学習を進めていく。

ケアマネステーション恵寿

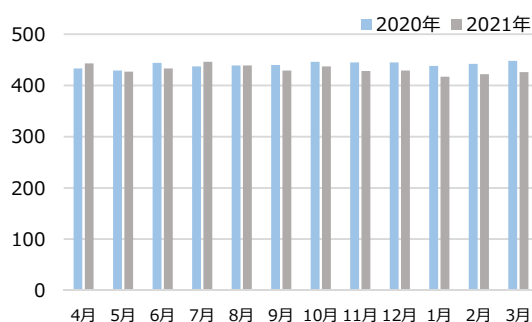
■部門代表者

高松 由紀子

■2021年度のトピックス

利用者数について、前期は概ね昨年と同様に推移していたが、後期はやや減少した。長期間在宅でサービスを利用しながら生活していた方が施設入所したり、新型コロナ感染に対する不安によるサービスの利用控えが要因として考えられる。

月別延利用者数



■事業報告

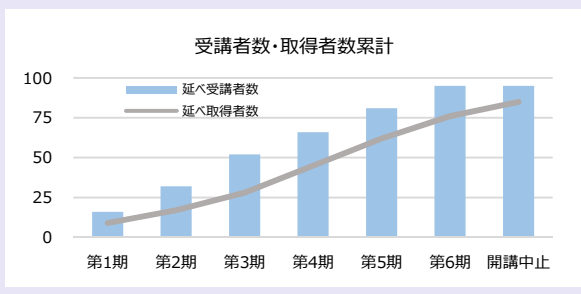
- ① 年間延べ利用者数は、5,177名（予防733名、介護4,444名）で前年比98%だった。
- ② 加算の取得状況は以下の通りである。
・初回加算：124件
・入院時情報連携加算：218件
・退院退所加算：188件
・通院時情報連携加算（新設）：45件
- ③ 主任介護支援専門員を3名が取得した。
- ④ 感染防止対策として、多人数で集まる機会を減らし、オンラインを活用したサービス担当者会議を月平均10件開催した。
- ⑤ 通所・訪問リハビリ事業所のリハビリテーション会議にオンラインで月平均35件参加した。

喀痰吸引等研修センター

■部門代表者

吉田 茂和

■2021年度のトピックス



■事業報告

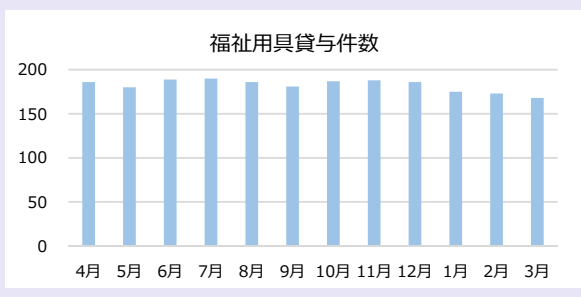
- ① 2017年度に開講してから、これまでに延べ95名の基礎研修修了生を輩出しているが、2021年度は新型コロナウイルスまん延の影響があり、やむなく開講を中止とした。
- ② コロナ禍ではあったものの、本年度も実地研修は可能な範囲で継続的に実施し、すべての研修過程を修了して修了証を発行した受講生は延べ85名となった。

レンタルステーション恵寿

■課長

梅田 信一

■2021年度のトピックス



■事業報告

- ① 福祉用具レンタル商品で一押し商品を選定しケアマネステーションへPR活動を行った。
- ② 住宅改修についてベンリーと業務の流れを構築した。
- ③ 担当国会議・退院カンファレンス等に参加した。
- ④ 新規開拓のため、新たに中能登町・七尾市の10事業所にもチラシ・カタログの配布や営業活動を行った。

社会事業統括部門

社会事業統括部門

- 部門長 ■オブザーバー
進藤 浩美 神野 厚美

■2021年度のトピックス

「築け 未来を!」取り組みを下記に示す。

七尾看護 専門学校	【看護師確保】 ・ 経営協力の継続 （講師派遣費用の負担） ・ 修学資金制度
けいじゅデリカ サブライセンター	【SDGs】 ・ 「水を守る」、配水管調査による 「きれいな水の排水」を確認 ・ 全施設厨房機器診断による5ヶ年 計画を策定 ・ 次世代システムとしての冷凍完調品の 検討開始
医療福祉ショップ めぐみ	【感染予防】 ・ 酸素飽和度、眼鏡、マスク等職員に 紹介、販売
ベンリー七尾店	【生活支援】 ・ ケアマネステーション、福祉用具レンタル ステーションとのコラボで住環境整備

■事業報告

- ① 社会事業として、医師会立七尾看護専門学校の経営協力のため、事務長、教員の出向を行い、本院の医師、看護部、医療技術部門から講師を派遣継続している。
- ② 委託先のシダックス様とともに、SDGsについて、「水を守る」取り組み、「食を守る」コロナ禍の生産者支援を行った。けいじゅデリカサブライセンターや各施設の厨房機器の劣化があり、機器診断だけでなく、5ヶ年計画を策定した。現在はチルドでおかずを作り、各施設に配送しているが、これからの人材不足も鑑み、冷凍完調品使用など、これからの給食システムについての検討を開始した。
- ③ 医療福祉ショップめぐみは、感染予防の各種グッズを紹介・販売したが、タイムリーな販売に至らず課題が残った。
- ④ ベンリー七尾店は、生活を支える位置づけが弱く、スキルも未熟さが残るため、オリックス様、大成有楽不動産様の協力を得て、職員宿舍の空室を使い、スキル強化を図った。また、ベンリー本部とも協力し、生活支援の件数を上げるべく検討会を開始した。

七尾看護専門学校

■事務長

山崎 茂弥

■2021年度のトピックス

41名が卒業し、能登地域の病院には24名（内 恵寿総合病院9名）就職した。加賀地域の病院が11名、石川県外の病院が2名だった。

入学者の状況

	能登	加賀	富山県	福井県	他県	合計
2020	21	10	5	0	1	37
2021	22	7	3	0	1	33

卒業生の就業先

	能登	加賀	富山県	福井県	他県	病院以外	進学、その他	合計
2020	23 (11)	6 (1)	0	1	3	1	2	36
2021	24 (9)	11	2	0	2	0	2	41

■事業報告

- ① 出願者数51名、受験者数45名で、入学者数は33名と昨年より4名減少した。出身別では、能登北部7名、能登中部15名、石川中央7名と県内は29名、県外は富山県3名、その他1名であった。新入生のうち能登中部は45%だった。
- ② 新型コロナウイルス感染症拡大のため、進学ガイダンスの中止や高校訪問の延期および急遽オンラインでのオープンキャンパス開催となり、学生募集にも大きな影響があった。
- ③ 入学生確保のため、11月20日推薦入学試験、1月20日一次入学試験、2月17日二次入学試験、3月2日三次入学試験を実施した。
- ④ 教員業務や事務作業の効率化を図るため、学籍管理、出欠管理、成績管理等の教務システムを導入し、運用を開始した。次年度はこのシステムにより、情報の共有と活用を目指したい。

けいじゅデリカサプライセンター

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

■2021年度のトピックス

毎年、デリカだけでなく全施設の厨房機器診断を依頼しているが、今年は5ヶ年計画を策定した。

表1 フロンガスと機器の状況

指定フロン	◎異常なし
2019に生産中止	○手入必要
特定フロン	△修理必要
1995に生産中止	×至急修理

表2 ランク

A	問題なし
B	手入必要
C	修理必要
D	至急修理
E	経年劣化
F	入替検討

■事業報告

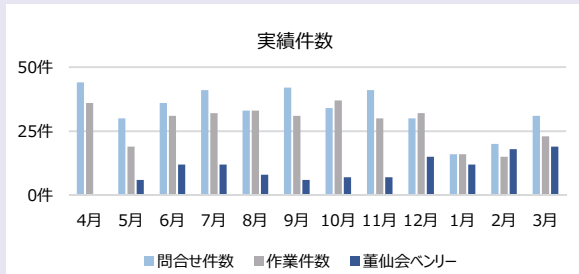
- ① 株式会社新日本通商様、河北総合病院様の見学を受け入れた。
- ② 次世代CK/SKシステムとして冷凍完調品の検討を開始した。
- ③ デリカから排出される汚水について調査し、問題がないことを確認し、さらにグリストラップ清掃回数を増やした。

ベンリー七尾店

■部門代表者

梅田 信一

■2021年度のトピックス



■事業報告

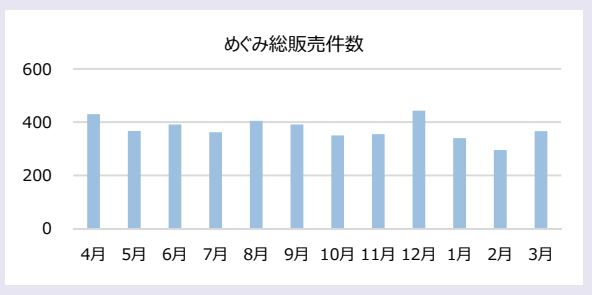
- ① 住宅改修について、医療福祉ショップめぐみと業務の流れを策定した。
- ② ベンリー本部も入れての収益改善ミーティングを実施したが、依頼がないときは、董仙会ベンリーとして、施設の5S、職員宿舍の清掃業務を行った。
- ③ 2022年度版董仙会5S活動カレンダーを作成し、5S応援を実施する。

医療福祉ショップめぐみ

■部門代表者

梅田 信一

■2021年度のトピックス



■事業報告

- ① 法改正に伴い、販売商品を総額表示とした。
- ② 3%割引廃止とし、販売価格を3%下げ、レジ業務の生産性を上げた。
- ③ 脳活アイス販路拡大のためバンカーズチョイスと契約した。
- ④ 住宅改修について、ベンリーと業務の流れを策定した。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染を予防する商品を職員に案内、販売を行った。

徳充会

■部門代表者

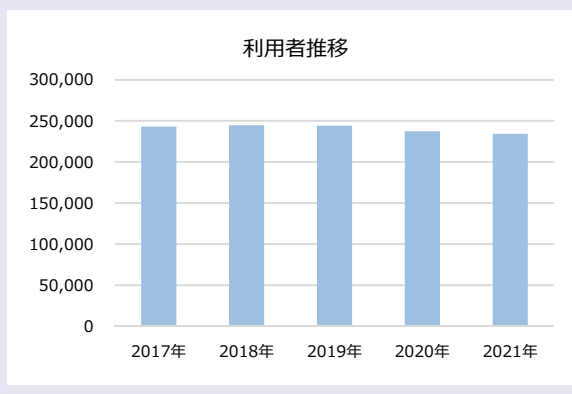
今寺 忠造

■2021年度のトピックス

全体の延べ利用者件数は、23万4,313件で、コロナ感染拡大の影響で、昨年より2,986件減少した。

障がい者・高齢者の利用者件数は同様に減少し、通所系・短期入所系の利用自粛・利用中止が大きく影響した。

新卒・若年層の給料見直しを行い、2022年度8名を確保。



■事業報告

- ① コロナ禍の中、「築け、未来を！レジリエンスを發揮せよ」をテーマに、各事業所がそれぞれの目標を掲げ、強みを活かし、一致結束して取り組んだ。
- ② 障がい者事業局：入所系は、高齢化・重度化が進み、医療的ケアのニーズが年々高くなっている。通所系は日中活動・働くニーズが高く、機能訓練系は介護保険より、現サービスの継続を望んでいる。VR機器活用、オンラインイベント、テイクアウト、情報発信等を推進した。
- ③ 高齢者事業局：新しい価値観・ニーズに対応するため、情報発信（HP・広報他）の強化、Foot活の強化、新型機器オミ・ビスタの導入、カルチャー教室、コロナ禍の看取り、ターミナル期の訪問入浴、イルミネーションの点灯等、時代に見合った新しいチャレンジを行った。
- ④ 事務局：給与規定等の見直し等の働き方改革、資格習得支援・Web研修の開催等の職員教育の推進、オンラインでの積極的な見学・相談会・採用試験、コロナ対策の補助金申請、基盤整備申請、徳充会ボランティアとの継続的な関わりを行った。
- ⑤ 地域貢献：コロナの影響で、対面交流は中止・自粛したが、3密回避可能なものは積極的に推進した。
- ⑥ コロナ：感染・クラスター予防に取り組んだ。

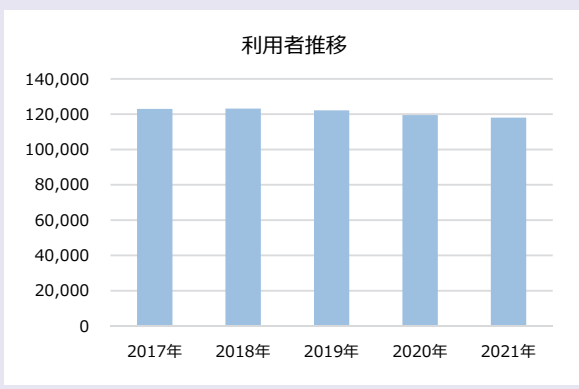
障がい者事業局

■部門代表者

今寺 忠造

■2021年度のトピックス

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、通所・短期入所の利用者数は減少した。コロナ感染があったが、クラスターは回避した。青山ライフを増築し、個室化を推進した。また、リハセンターは10月末で入所事業を廃止した。各事業所時代に見合ったコロナ禍での新しい創造とサービスの提供を推進した。



■事業報告

- ① 「築け、未来を！レジリエンスを発揮せよ」を意識し、コロナ禍での新しい日常への支援と感染予防に努めた。
- ② さいこうえんの障害者生活支援センター：地域活動支援センター、相談支援、障害者就業・生活支援センターはコロナの影響で件数低下。交流自粛、3密対応。
- ③ セレナ青山：現状維持。
- ④ 青山彩光苑リハビリテーションセンター：入所は10月末廃止、就労移行支援：7名就職。初のリワークを受入。
- ⑤ ワークセンター田鶴浜：洗濯事業は順調、利用者の高齢化。コロナの影響で作業量減少。
- ⑥ 青山彩光苑ライフサポートセンター：西館増築15室、2人部屋を個室化し、30室となった。4人部屋は0に。サービス創造委員会立ち上げ、当たり前サービス標準化した。
- ⑦ 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター：コロナが発生したがクラスターは回避した。3密回避のオンラインのスポーツ活動、ZoomやVRの活動を導入し支援した。
- ⑧ 石川県精育園：Wi-Fi環境を整備し、安全安心の環境整備に加え、タブレット等を活用した支援を推進した。自立ホームけいじゅは、短期入所の送迎を2市2町に拡大した。相談支援キララ・居宅支援は現状維持。

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

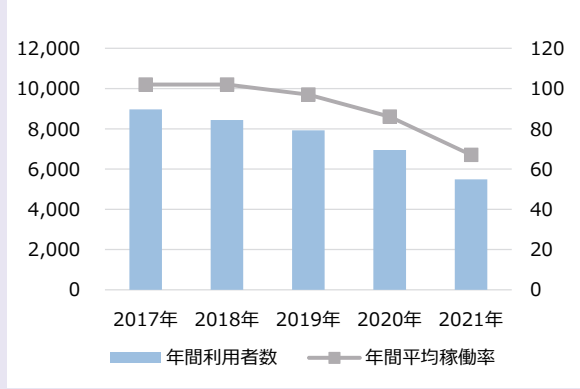
障がい者事業局 青山彩光苑 青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

久保 奈保

■2021年度のトピックス

身体に障がいを持つ方の支援を目的に1985年4月開設されたリハビリテーションセンターは、2022年3月31日をもって、障害者支援施設（入所機能を持った施設）の役目を終え、2022年4月1日から、多機能型の通所事業所として生まれ変わるよう各種取り組みを行った。



■事業報告

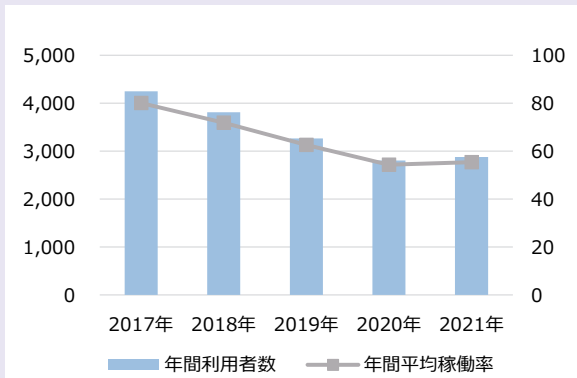
- ① 目標と達成度
入所の目標稼働率（短期入所を含む）を50%以上とした。→17.6%（10月末で終了）であったため、達成度は35.2%。
機能訓練の目標稼働率を100%以上とした。→67%であったため、達成度は67%。
就労移行支援の目標稼働率を100%とした。→89%であったため、達成度は89%
- ② 近年の入所サービス離れに対して、入所部門の閉鎖を行った。2021年度スタート時に9名在籍していた利用者は法人内の各施設利用に移行し、2021年10月末には利用者ゼロとなった。通所部門においては、前年度に引き続き通所・入所を問わず機能訓練利用者の高齢化に伴う利用終了やサービス変更が目立った。
- ③ 就労移行支援事業については、初めてリワークを目的とする利用者を受け入れた。また、7名の利用者が就職した。現在8名定員のところ、登録者6名までに落ち込んでいるが、新規利用相談もあり、4月以降の利用開始を複数名見据えて準備している。

障がい者事業局 青山彩光苑
さいこうえんの障がい者生活支援センター

■部門代表者
前田 奈津子

■2021年度のトピックス

地域活動支援センターでは①創作活動②作業活動③就業準備と3つのコースを創設し、利用目的に合わせた支援を提供した。また、機関誌「オンリーワン」を毎月発行することでタイムリーな活動状況報告ができ、地域や関係機関に向けて当センターの周知につながった。



■事業報告

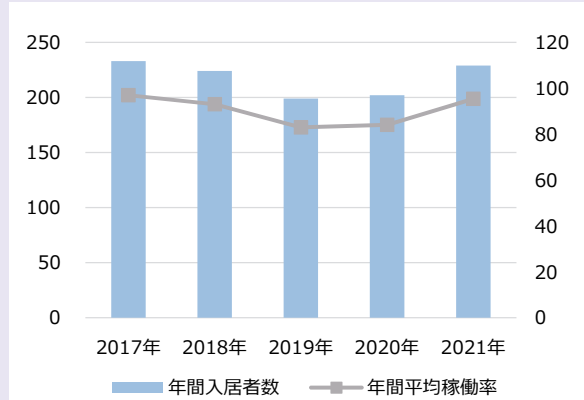
- ① 七尾市・中能登町からの委託を受け、地域活動支援センター I 型事業を実施している。地域で生活している障がい者が通所し日中活動を行っている。8名の新規利用者が増えた一方、就業準備コースを経て就職や就労支援事業所につながり卒業する利用者がいたことで、稼働率は上がらなかった。
- ② 相談支援事業（指定特定・指定一般・指定障害児）は、障がいのある人の様々な課題についての相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数3,487件）。その他、七尾市・中能登町自立支援協議会での活動を通して、障がい者にとって暮らしやすい地域づくりやネットワークづくりに励んでいる。
- ③ 障害者就業・生活支援センター事業は障がい者・企業からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数3,292件、就職件数37件、職場実習研修20件）。今年度は地域活動支援センターで立ち上げた就業準備コースの支援展開にも関わり、就労を目指す障がい者の基礎訓練としての役割を担った。

障がい者事業局 青山彩光苑
バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者
久保 奈保

■2021年度のトピックス

2021年4月は18床から開始し、2022年3月には19床の稼働となった。多少の入退居はみられたが、年間通じて定員20名に対し、18～20名で推移し、稼働率の向上が見られた。



■事業報告

- ① 退居1名、新規入居者は3名であった。年間平均稼働率は前年比11%の上昇となった。
- ② 入居者の法人内サービス利用の内訳
※重複利用を含む
【障害者活動系】
リハビリテーションセンター：8名
ワークセンター田鶴浜：8名
障害者生活支援センター：1名
【生活支援系】
ローレイルハイツ恵寿（ホームヘルプ）：5名

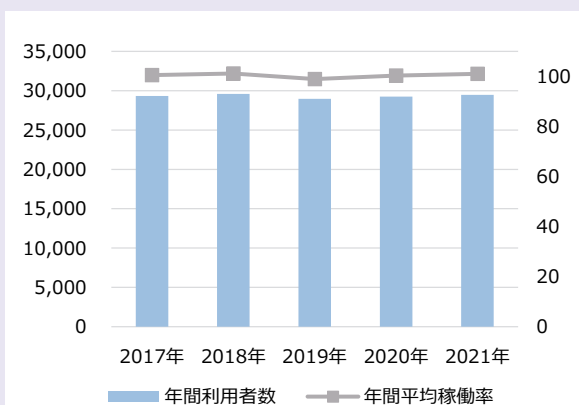
障がい者事業局 青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

■2021年度のトピックス

1989年に開設した西館の増築を行い、個室を15床増やしたことで施設全体の4人部屋が解消された。



■事業報告

- 生活介護事業は、目標稼働率110%に対し110.5%で前年比95.8%であった。また、施設入所支援事業は、目標稼働率100%に対し101%で前年比100.7%であった。短期入所事業は、目標稼働率70%に対し52.2%で前年比88.9%の結果であった。
施設入所支援事業では、入所部門を閉鎖する併設のリハビリテーションセンターからの受け入れを期間内にスムーズに行うことができた。
- 家族会について、家族の高齢化やコロナ禍における来苑機会の減少などを理由に活動を終了した。
- 利用者支援について、サービス創造委員会を立ち上げ、既存のサービス内容の改善ではなく、入所施設の固定観念を打破した当たり前のサービスを標準化することに力を注ぎ、パンのトーストや調味料の選択など地味で身近なことを積み上げるよう実践した。

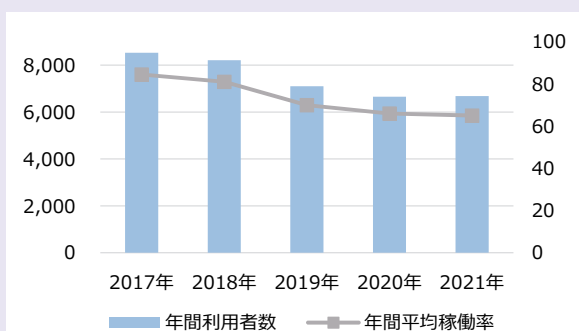
障がい者事業局 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

細木 俊逸

■2021年度のトピックス

利用実績は、稼働率目標75%に対し、65%昨年対比1%減、延べ利用者数は6,686名で昨年より27名増であった。総事業活動収入は、稼働日数を増やしたこと、報酬改定による基本報酬増と就労移行体制加算を算定したため増加した。授産事業に関しては、原油高が影響して、光熱費が上昇したため、経費増となった。



■事業報告

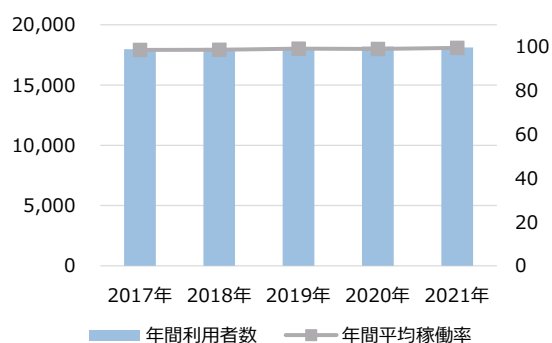
- 2021年度、新規利用者は1名であった。退所者は2名であり、うち1名は一般就労であり、別の1名は高齢のため施設へ移行した。利用者の高齢化はすすんでいるが、平均工賃月額が全国平均を上回っていることを利用希望者にアピールし、また、送迎の工夫を行い、利用者獲得を目指し、取り組んでいく。利用登録者2022年3月31日時点で30名である。
- 授産事業では、軽作業においてはコロナ禍の影響を受けて受注数が減っている。そこで、今年度は石川県の発注事業を獲得するなど、しごとの確保に努めた。洗濯事業は原油高が影響し経費が増加しているが、堅調に推移している。リサイクル事業では、七尾市からの委託業務も継続委託をうけており、安定収入となっている。他事業においても予定通り進行し、授産事業は全体として安定している。
- 今後はコロナ禍においても安定して事業継続できるよう感染対策を実施し、業務の効率化、生産性の向上を目指し事業をすすめていく。

障がい者事業局 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者
今寺 忠造

■2021年度のトピックス

職員及び利用者新型コロナウイルス感染症者が発生したが、感染対応の徹底により、クラスターの発生を防いだ。新しい生活様式下での利用者の楽しみを拡げる支援では、地元飲食店からのテイクアウト、ZoomやVRを利用したオンライン旅行、バーチャル体験、オンライン運動会等を実施した。



■事業報告

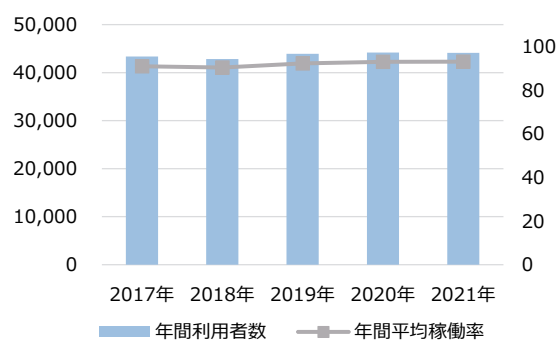
- ① 施設入所支援事業は、目標稼働率100%に対し、実績は99.2%であり、前年度比100.4%であった。通所及び短期入所事業については、コロナの影響による事業の一時休止や感染を恐れての利用控え、並びに介護保険制度への移行による利用者減もあり、目標稼働率の達成には至らなかった。
- ② 外出規制が続く中でも、生活の中での楽しみや感動を得られるよう、ZoomやVR機器を利用したオンライン旅行やバーチャル体験を実施した。買い物の楽しみでは、地元衣料販売店による訪問販売を実施した。食べる楽しみでは、外食気分を味わえるように、地元飲食店からのテイクアウト企画を実施し、利用者の満足度を高めることができた。
- ③ Zoomを利用し、法人内の他施設利用者との意見交換や情報交換の機会を設けた。
- ④ 石川県ボッチャ大会への参加支援（利用者3名）、障がい者週間には、事業所内でのオンライン運動会の実施や石川県作業療法士協会主催のリハビリテーションスポーツフェス（オンライン）への参加支援を行った。
- ⑤ ホームページの更新頻度を上げ（37トピックス更新）ご家族や地域に向けた情報発信に努めた。

障がい者事業局 石川県精育園・自立ホームけいじゅ

■部門代表者
今寺 忠造

■2021年度のトピックス

今年度も、感染対応会議を毎週の定例会として継続実施し、感染予防に努めた。コロナ禍でも日常の生活に潤いが持てるよう、利用者に対してZoomでの他施設との交流会、Webでの体験型サファリパーク旅行、ユニット別の喫茶2や模擬店参加などの取り組みを実施した。



■事業報告

- ① 利用者状況
精育園本体は4名が退所、4名が入所し計123名。通所利用者は2名増の計9名。グループホームは1名増の計20名（満床）となった。
- ② 事業報告
「ニューノーマルから新しいスタンダードへ」のテーマのもと、利用者の行動・強みを引出し、利用者理解に努め、サービスの向上を目指した。
精育園本体の設備では、原因が特定できない事故を解析するために、Wi-Fi環境を整備し、見守りカメラの運用を開始した。Wi-Fi環境が整備されたことで、タブレットを使用する利用者が増加し、結果として余暇時間のサービス向上にもつながった。
利用者支援では冰山モデルの書式を整備し、ストレングスの視点から支援内容を見直した。さらに感染対策として実施している、ユニット化（小グループ）により、意思疎通が困難な利用者に特化した支援を行い、情緒安定に効果を上げることができた。自立ホームけいじゅにおいては、GH短期入所送迎サービスを2市2町に拡大することができた。

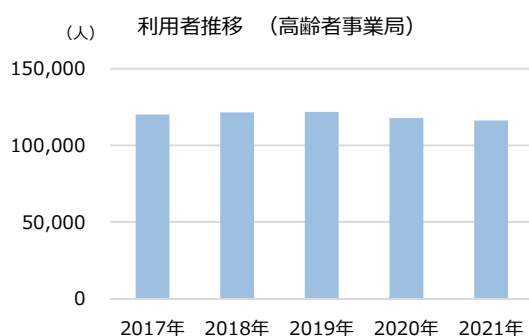
高齢者事業局

■部門代表者

吉田 茂和

■2021年度のトピックス

本年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染やその拡大に対する不安などから、在宅サービスを中心に苦戦が続いた。特に通所事業への影響が顕著で、子どもたちへの感染拡大から同居の利用者が様子をみる期間が増え、年間を通しての介護事業全体の利用者数減少につながった。



■事業報告

- ① エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦：コロナ禍に対応した新たな楽しみ・対応として、食の楽しみへの工夫や、オンライン面会・ビデオレター・写真付き年賀状・自由なYouTubeチャンネル閲覧など、前年度増強したWi-Fi環境を利用した活動が広がった。また、動画や写真を活用したマニュアル充実にも効果があった。
- ② エレガントなつるはま・もみの木苑：特養では入院が少なく高稼働を維持することができた。県の補助金を活用した感染対策の面会室が完成。業務改善や職員間の認識共有などを目的とした「ありがとうレポート」にも取り組んだ。もみの木苑では活動や参加に応じてポイントを付与し表彰する「まんぷく大作戦」を開始し好評を得た。
- ③ ふれあいの里：「ふれあいの里モデル3ヶ年計画」の最終年あたり、通所事業が厳しいコロナ禍でも一定の効果を実感できた。訪問入浴はターミナル期の利用者が増加。配食は1日1食限定となり利用件数が減少した。
- ④ ローレルハイツ恵寿：シニアLifeの日常にコンビニエンスのエッセンスを加え、便利な生活様式などに取り組んだ。次世代レクとしてオミ・ビスタを導入、介護予防や脳トレに活用。サ高住のサマーキャンペーン・お試し宿泊も好評で、高い入居率・利用率を維持した。

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

高齢者事業局

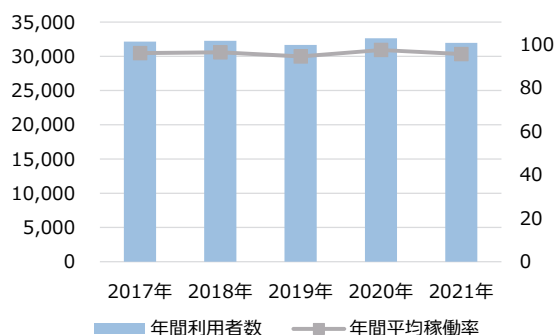
エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦

■部門代表者

江沢 恵太

■2021年度のトピックス

特養は、入院、入退所、看取り介護の利用者が増え、前年度に比べて稼働率の低下があった。ショートステイやデイサービスも目標稼働率を達成することができなかった。入所サービスの待機者減少、施設入所の回転率が高くなることで、在宅サービスの利用者が入所され、稼働率低下という現状。



■事業報告

- ① コロナ禍で外出や日常生活に制限がある中で、楽しみのある生活ということで、食事の有料メニューやテイクアウト等のサービスは利用者も大変喜ばれた。
- ② 新しい生活様式への順応として、面会制限という過酷な状況下でもタブレットを活用し、家族等との交流を図った。オンライン面会やビデオレター、写真付き年賀状は会えないからこそ、貴重なものとなり感動されていた。
- ③ コロナへの感染対策をした上で、昨年度は中止していた個別支援を安全面を考慮して、密を避け、施設外の方と接触しないように工夫して実施した。ドライブや少人数での調理支援、健康教室等を行い、これまで我慢していた利用者には笑顔がこぼれていた。
- ④ コロナ禍で普及したタブレットを活用し、動画や写真を活用したマニュアル作成や情報共有を行った。マニュアルの内容が把握しやすく、情報の周知もスムーズになった。
- ⑤ 施設内にフリーWi-Fiを完備し、ネットの活用ができるようになったことで、利用者から大変喜ばれ活用されている。これまでビデオなど同じ映像を繰り返し見ていた利用者も、YouTube等のチャンネルで好きな映像を自由に選んで楽しんでいる様子も見られ、利用者の新たな一面を発見することもあり、今後の支援につなげていきたい。

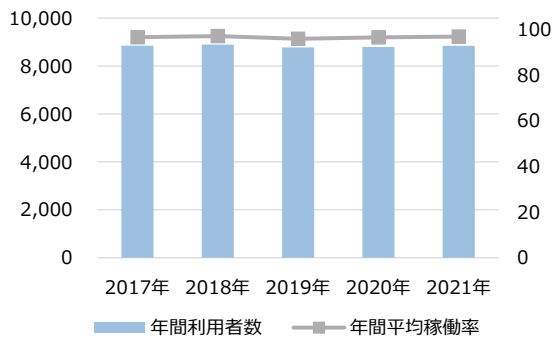
高齢者事業局 エレガントつるはま・もみの木苑

■部門代表者

畑中 浩樹

■2021年度のトピックス

入所事業の平均稼働率は96.9%（前年度比+0.4%）で、高稼働率を維持することができている。通所事業は、新型コロナウイルス対策等により2度の営業休止の対応のため、稼働率は落ち込んだが、新規利用者数は26名で例年通り維持することができた。



■事業報告

【エレガントつるはま】

- 3月19日、石川県介護基盤施設等整備費補助金を活用し、玄関内の面会室設置工事が完成した。
- 2021年度報酬改定に併せて、科学的介護情報システム（LIFE）に登録、科学的介護推進体制加算を算定した。
- オンラインを活用した家族参加型のサービス担当者会を開催する。またオンライン面会だけでなく、利用者と家族の動画交換の取組開始、10ケースを実施した。
- ケアや業務の改善、職員間の認識の共有等を目的としたありがとうレポートの報告は36件だった（前年度比+15件）。

【デイサービスセンターもみの木苑】

- Foot活プロジェクトの参加利用者12名。
- 活動（Foot活も含）や参加に応じてポイントを付与する表彰制度『まんぶく大作戦』を開始、52名の利用者が参加し、12名の利用者を表彰した。

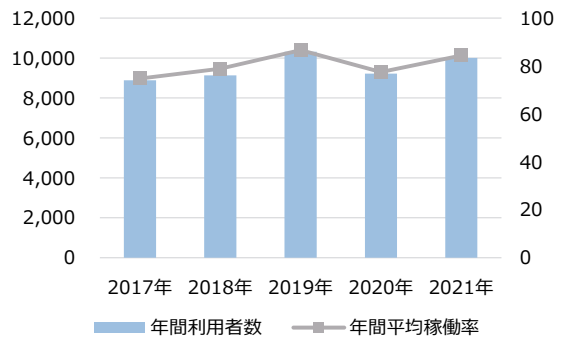
高齢者事業局 ふれあいの里

■部門代表者

芳原 哲弥

■2021年度のトピックス

通所介護は目標値87%に対して84.1%で達成率は97%であった。前年度比は108%で年間通して80%台の稼働率を維持することができた。訪問入浴は入院する方が多く前年度よりも35件減少した。配食サービスは既存利用者の休止が相次ぎ大幅な減少となった。



■事業報告

- 通所事業は、活動と参加を中心とした「ふれあいの里モデル3ヶ年計画」の最終年であり、多くのプログラムを展開し活発に参加し楽しんでいただくスタイルを確立することができた。対外的にも様々な活動を実施していると認知され、新規紹介率も向上しコロナ禍ではあるが年間通して80%台の稼働率を維持することができた。
- 訪問入浴事業はターミナル期の新規利用者が増加し、数回の利用で終了するケースが増えてきた。今後こうしたニーズの高まりは続く予測されるのでターミナル期の方々を中心にお受けできる枠の増設を実施する予定。
- 配食事業は七尾市の意向により1日1食限定の利用となり件数も減少している。エリアの細分化と共に参入事業者も増えたことにより新規の問い合わせも減少した。
- 地域共生に向けた取り組みは、コロナ禍という事情もあり積極的な働きかけは実施できなかった。その分、地域向けに情報発信を強化しホームページの更新頻度を高めると共に地域向けの広報誌も年6回発行した。
- 多様化するニーズにこたえるサービス作りを目指し、職員のスキル習得にも力を入れ、音楽健康指導士の資格を習得するなど、介護分野以外のサービス提供に向けて注力した。

高齢者事業局 ローレルハイツ恵寿

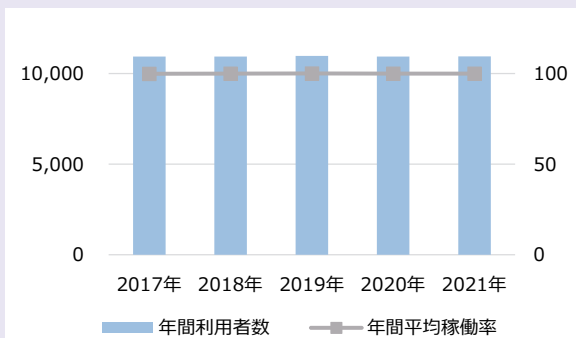
■部門代表者

内田 かおり

■2021年度のトピックス

『未来を今こそ実現』～コンビニエンス（便利な）シニアLife

- ① 初・次世代レク オミ・ピスタの導入
- ② 初・リモート実習実施
- ③ 初・サマーキャンペーン・お試し宿泊プランの実施
- ④ 初・イルミネーションオープニングの実施
- ⑤ 初・生涯現役、入居者が散髪屋を復帰



■事業報告

- ① 令和こそコンビニエンス
次世代レク オミ・ピスタ導入し、介護予防・脳トレに活用した。iPadを使ったレク、体操、外出等を実施。家族にLINEやZoomで会議・行事等へ参加していただいた。
- ② 安心のコンビニエンス
1年に1回、延命希望するかしないか確認の際、看取り対応についての説明を行い、家族に理解していただいた。
- ③ 安全のコンビニエンス
Foot活への参加、ウォーキングの普及、Foot活サンダルの活用、ラダー体操、Foot活体操、AYUMIEYE計測を定期的実施。
- ④ 安定のコンビニエンス
4月より、1年計画で宣伝、キャンペーンを行った。
インターネット、広報誌（珠州市・輪島市・穴水町・七尾市・羽咋市・中能登町・宝達志水町）に募集掲載。
8月～9月サマーキャンペーンにて、お試し宿泊を実施。
大盛況で、3室使用したが89%の使用率で、中には契約する方もおり、10月には満室状態となった。
- ⑤ 職員のコンビニエンス
ヘルパーのペーパーレス化に向けて、1段階の表作成、携帯の変更を行う。

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

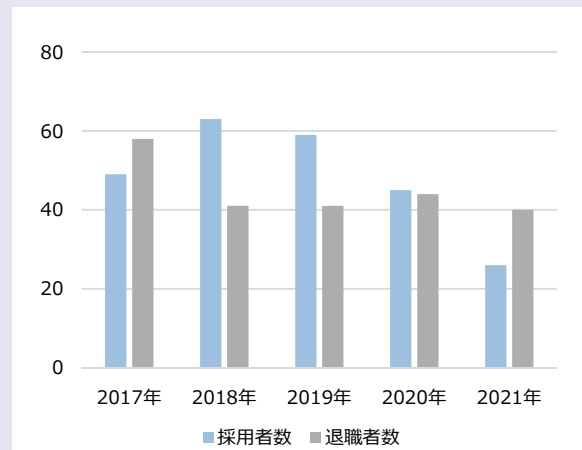
事務局

■部門代表者

山下 賢

■2021年度のトピックス

2021年度における採用者数は26名、また退職者数は40名で差し引き-14名であった。期首の職員総数は463名、期末の職員総数は449名。



■事業報告

- ① キャリアパスの見直しの見直し
「職能資格等級制度構成表」に定義するキャリアパスの見直し案策。
- ② キャリアパスの見直しの見直し
「職能資格等級制度構成表」に定義するキャリアパスの見直し案策定。
各種手当の見直し：扶養手当・住宅手当の廃止及び一部資格手当の増額案の策定。
- ③ 従来の処遇改善交付金及び特別処遇改善交付金に加えて臨時特例交付金を手当として支給開始。
- ④ 青山彩光苑ライフサポートセンター個室化。
- ⑤ 補助金
 - ・ 社会福祉施設等施設整備費補助金（青山彩光苑ライフサポートセンター）
 - ・ 自動車事故対策費補助金「在宅生活支援環境整備事業」
 - ・ 石川県サービス継続支援事業

事務局 徳充会 総務部

- 部門代表者
畑中 浩樹

■2021年度のトピックス

- ① 給与規定見直しプロジェクトの発足
- ② 登録ボランティア 74の団体、個人との継続的な関わり
- ③ オンライン研修会、勉強会の企画、開催
- ④ オンライン（VR）見学、相談会によるリクルート戦略

■事業報告

- ① 給与規定見直しプロジェクトにて、2022年度からキャリアパス、新卒を中心とした若年層年齢給の見直し、昇格意欲を向上させる役職者手当、3等級能力給の見直しを行う。また、2024年度から扶養手当を見直すことで、2022年度から労働の対価となる介護福祉士の資格手当を段階的に増額、待機手当を増額とした。
- ② 2022年度新卒採用者8名（内介護6名、看護1名）

事務局 徳充会 経営企画部

- 部門代表者
松下 清寛

■2021年度のトピックス

- ① 老朽化施設の基盤整備：青山彩光苑ライフサポートセンター個室棟増築工事（国庫補助事業）
12月完成
- ② 汎用ソフトのオート化利用に向け、活用スキルの勉強会を実施。
- ③ 社内監査の実施（資産等の現物確認の実施）

■事業報告

- ① 会計・請求業務
- ② 補助金申請
- ③ コスト増への対応（省電化、委託料等見直し）
- ④ 新規事業・取り組みの提案
- ⑤ 理事会・評議員会開催（6月、3月）
- ⑥ 役員改選手続き、法人登記手続き
- ⑦ 指導監査の対応（石川県実地監査及び書面監査）

教育研修委員会

- 委員長
畑中 浩樹

■2021年度のトピックス

日程	内容
4月1日	新人職員研修
6月9日	管理監督者研修（課長以上）※オンライン
8月6日	新人職員フォローアップ研修
10月11-22日	ハラスメント研修（主任以下）※動画配信
10月21日	ハラスメント研修（課長以上）※オンライン
11月20日	アンガーマネジメント研修 ※オンライン
11-1月	介護福祉士受験対策講座 ※オンライン併用

■事業報告

- ① 中途入職者に対する職員研修に際して、講義動画を用意。感染状況に応じて、動画配信で対応した。
- ② 介護福祉士受験対策講座は、直接講義とライブでのオンライン配信のハイブリッド方式で開催し、感染予防がはかれ、穴水地区の遠方にいる職員が多く参加できる結果となった。

福利厚生委員会

- 委員長
柿島 善浩

■2021年度のトピックス

今年度はZoomでのリモートでの話し合い、メールでの意見交換を行った。旅行・職員交流企画は難しく、職員全体の意見を聞き取り、福利厚生の新たなシステムの構築を話し合った。試行錯誤を重ね、【心と体の健康増進に対するの福利厚生の活用】をテーマに職員に対して助成を実施した。

■事業報告

- ① 新型コロナウイルスの影響もあり例年のような旅行・企画は今年度も見合わせることとなる。
- ② Zoomを用いて委員同士の話し合いを行い、職員全体の福利厚生の意見を聞き取った。
- ③ 心と体の健康増進に対するの福利厚生費の活用として健康増進に対するのシューズ・自己研鑽の為の書籍の購入に対して助成金1,500円を上限に助成を行った。

事例研究大会

■委員長

岡田 昌大

■2021年度のトピックス

事例研究大会・・・2022年3月1日（火）、3日（木）
大会テーマ・・・「築け、未来を！レジリエンス（困難から回復する力）を発揮せよ」

実施方法・・・Zoomを活用し、発表と質疑応答場면을撮影。後日、法人職員にも視聴できるようにした。（各事業所1事例の全12事例）

■事業報告

- ① コロナ禍でも開催できる方法として、Zoomを活用し、発表場면을撮影し動画配信することで、会場に集まらずとも、多くの職員に視聴してもらうことができた。
- ② 課題：Zoom発表では、聴講者を限定していた為、動画で視聴した職員からの質疑応答ができない。事例研究大会の目的の一つでもある学ぶ機会や、スキルアップに対する意識を職員間で統一する事が難しい。